

ISSN 0916-0078

# 相互協力研究分科会報告

第 11 号

私立大学図書館協会東地区部会研究部

相互協力研究分科会

ISSN 0916-0078

# 相互協力研究分科会報告

第 11 号

私立大学図書館協会東地区部会研究部

相互協力研究分科会

## 相互協力研究分科会第14期(2006年度・2007年度)研究活動報告

代表 杏林大学医学図書館 清水 ゆかり

インターネットなくして大学図書館サービスは成り立たない今日、相互貸借業務もまた大きな変貌を遂げている。依頼業務に限って考えてみただけでも、郵送で行っていた時代からFAXへの移行、そしてNACSIS-ILLの登場とその発展は目覚ましい。

また、近年では相互貸借系の業務のみならず、利用者が申し込む際の方法にまで大きな変化が現れた。「利用者からの相互貸借オンライン申込」がそれである。各メーカーの図書館システムにおけるバージョンアップの内容からも、利用者が来館することなしにオンラインで相互貸借の申込が出来るというサービスは、貸出の更新・予約等と並び図書館のオンライン・サービスのひとつの位置を確立しつつあるように見受けられる。

第14期相互協力研究分科会では、近年増加傾向にあると思われるこの「利用者からの相互貸借オンライン申込」に焦点を当て、共同研究テーマとし、私立大学図書館協会東地区部会加盟館を対象にアンケート調査を実施した。各館のご協力により回収率は90%を超え、意味のある調査結果を得ることが出来た。導入済の図書館においては他館のサービス内容を知る手立てとなり、未導入の図書館においては今後の参考資料となり得るであろう。

また、今後の大学図書館間の相互協力のあり方・課題についてもご意見を伺った。これにより、現在の問題点や期待する未来像が浮かび上がった。今回のアンケート調査結果が、これからの時代に即した相互協力の理想的なあり方を見出す基礎データのひとつとなれば幸いである。

2006年4月、第1回目の例会で顔を合わせた時、今期のメンバーは正会員4名と正メンバーリスト会員1名で、正会員はいずれも分科会への参加は初めてであった。大いなる不安を胸に始まった活動は、同年6月、正会員2名の他部署への異動により、開始後3ヶ月にして早くも暗礁に乗り上げた。

休会か、他の分科会との合併か、それとも存続か。

とりあえずは夏期合宿として計画が進んでいた大阪大学附属図書館生命科学分館見学の実施、とりあえずは研究会での発表、と目の前の障害物を必死で飛び越すうちに2年が経った。再募集や個人的な勧誘により会員も少しずつ増えて、会員区分は様々ながら、気がつけば9名になっていた。

一時は休会の危機に直面した相互協力研究分科会が、全会員の協力により大規模なアンケート調査を実施し、「相互協力研究分科会報告」第11号の発行にまで至ったことを心より嬉しく思う。

アンケート調査の集計結果のほかに、2006年度の活動内容として、夏期研究合宿の見学レポートと、私立大学図書館協会東地区部会2006年度研究会(2006年11月10日 法政大学多摩キャンパス 百周年記念館)における発表レジメを掲載した。合わせてご覧いただきたい。

## 解説編について

本解説編は、「相互貸借、特に利用者からのオンライン申込に関するアンケート」をもとに、本分科会で分析を行ったものである。

## 資料編について

本資料編は、以下にあげる点を変更した以外は、依頼館の回答のとおりとなっている。

質問番号2：図書館システムと相互貸借システムの導入時期

回答を「年」までとした。

(例：回収回答・2007年4月 → 資料編回答・2007年)

質問番号2：図書館システムと相互貸借システムのシステム名称

販売会社のホームページで調査して正式名称に修正した。

バージョンの違いは考慮しなかった。

また、回答集に付した整理番号は集計作業のために無作為に付したものである。

## 調査の概要

### 1 調査の目的

私立大学図書館協会東地区部会加盟図書館における利用者からの相互貸借の申込方法について現状を把握することである。

### 2 調査の対象と方法

2007年6月1日現在、私立大学図書館協会東地区部会に加盟している図書館を対象とした。また校内に複数館を持っている場合のガイドラインを以下のように設定した。

ガイドライン：原則1校につき1館の回答である。ただし、総括セクションで1館に限定出来ない場合、また相手側の申し出により複数館からの回答が期待出来る場合には、その限りではない。

対象館にアンケート用紙をメール便にて送付し、切手貼付済み返信封筒を利用して返送させる方法をとった。最終的には90.5%の回収率を得た。

### 3 調査の特色

アンケートの内容は、利用者からの相互貸借の申込方法のうち、特にオンライン申込に注目した項目に特化しており、前例がない。

調査対象規模が大きい。

ポイントは、これからの時代に即した相互貸借サービスの理想的なあり方を見出せるデータを得られる設問を目指したことである。また、回答にあたって回答館の負担が大きくなるないように選択肢の設計や表記方法を工夫した。

#### 4 調査実施期間

調査実施期間 2007年6月8日(アンケート発送)

アンケート用紙回収期間 2007年6月12日 ~ 2007年7月9日消印締切

#### 5 回答回収状況

(1) 調査対象数 251校・252館

(2) 回答回収数 227校・228館

(3) 有効回答数 227校・228館

(4) 回収率 90.5%

# 相互協力研究分科会報告 第11号 目次

## 第1章 相互貸借、特に利用者からのオンライン申込に関するアンケート 解説編

I 図書館について .....	3
II システムについて .....	4
III 相互貸借、特に利用者からのオンライン申込について .....	11

## 第2章 相互貸借、特に利用者からのオンライン申込に関するアンケート 資料編

アンケート用紙 .....	44
依頼文書 .....	48
回答集 .....	49
回答図書館・一覧 .....	73

## 第3章 2006年度活動報告

大阪大学附属図書館生命科学分館、国立国会図書館関西館 見学レポート .....	77
大阪大学附属図書館生命科学分館に対する質問事項とその回答 .....	80
2006年度研究会 研究分科会活動報告II 発表レジメ .....	84
「ILLの現場から：大阪大学附属図書館生命科学分館見学レポート」	

## 第1章

相互貸借、特に利用者からのオンライン申込に関するアンケート

解説編

# I 図書館について

質問1：貴館の分野は次のうちどれですか。

- |               |             |
|---------------|-------------|
| A 総合図書館       | 70館 (30.7%) |
| B 人文・社会科学系図書館 | 93館 (40.8%) |
| C 理工学系図書館     | 19館 (8.3%)  |
| D 医歯薬看護系図書館   | 35館 (15.4%) |
| E その他         | 11館 (4.8%)  |

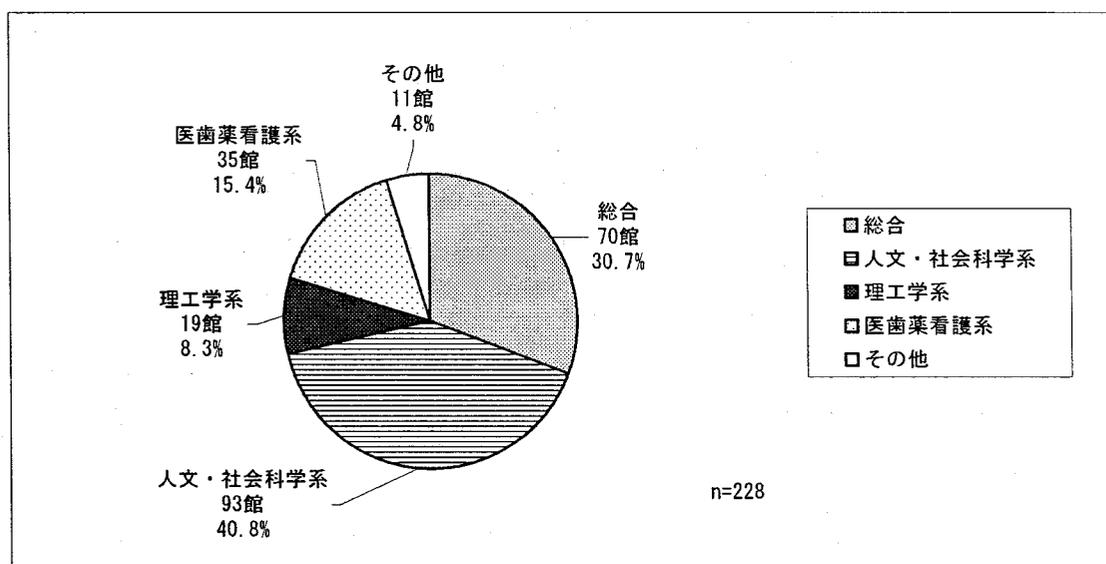


図 I-1 図書館の分野

## II システムについて

質問2：現在の貴館の図書館システム、及び相互貸借のシステムの、導入時期とシステム名称をお答えください。

### (1) 図書館システム導入時期

表 II-1 図書館システム導入時期

年	館数	年	館数
1983～87	5	2003	22
1988～92	10	2004	31
1993～97	25	2005	19
1998	15	2006	24
1999	13	2007	8
2000	9	未導入	1
2001	15	無回答	9
2002	22	総計	228

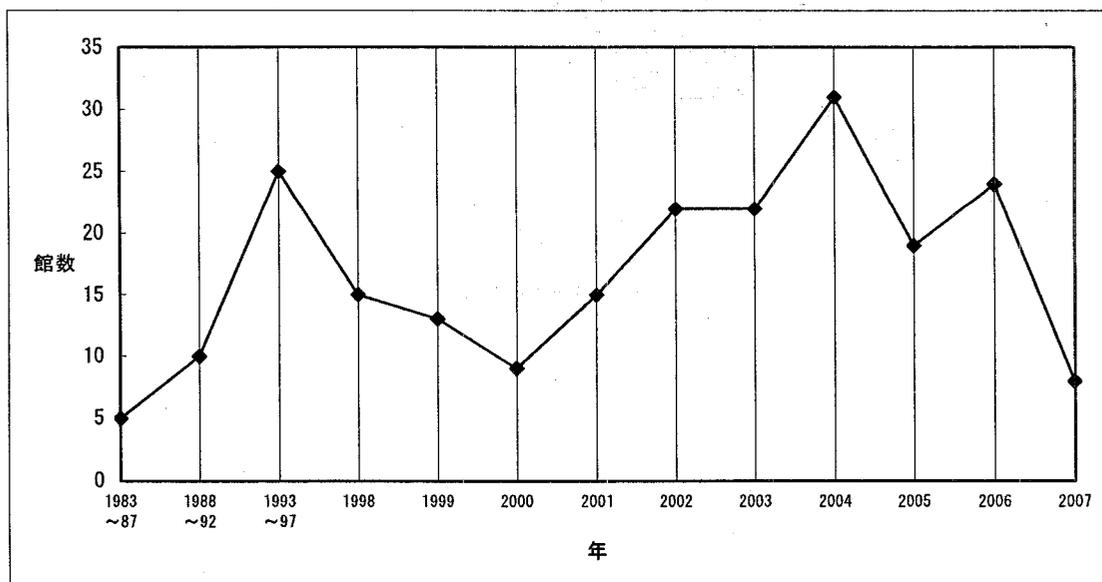


図 II-1 図書館システム導入時期

(2) 図書館システム名称

※メーカー名については表 II-6「システム名称とメーカー名一覧」を参照のこと

表 II-2 図書館システム名称

システム名称	館数	システム名称	館数
iLiswave	51	ELISE	2
LIMEDIO	38	LOOKS21/P	2
情報館	38	自館オリジナル	2
E-catsLibrary	22	EnilibⅢ	1
CALIS	12	INNOPAC	1
NeoCILIUS	12	KOSMOSⅡ	1
UNIPROVE/LS	11	Lib	1
CARIN	9	LIGSU/21	1
LVZ	9	LX	1
LINUS/NC	6	未導入	1
ILAS	3	無回答	2
BLABO	2	総計	228

多い順に iLiswave (51 館)、LIMEDIO (38 館)、情報館 (38 館)、E-catsLibrary (22 館)、CALIS (12 館)、NeoCILIUS (12 館)、UNIPROVE/LS (11 館) であった。割合は下図のとおりである。導入館 10 館未満のものを「その他」とした。

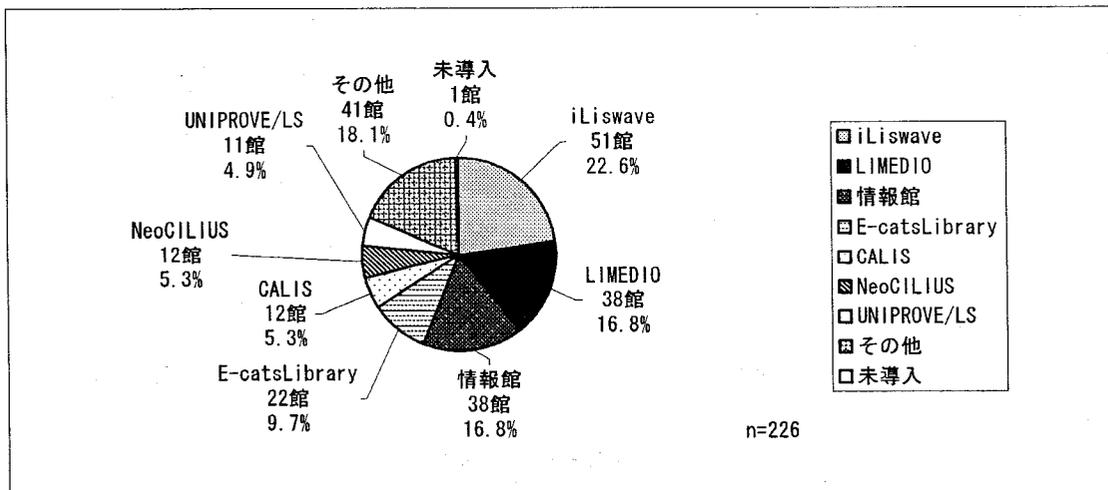


図 II-2 図書館システム名称

(3) 相互貸借システム導入時期

表 II-3 相互貸借システム導入時期

年	館数	年	館数
1983~87	0	2003	22
1988~92	2	2004	33
1993~97	13	2005	18
1998	5	2006	26
1999	8	2007	10
2000	6	未導入	16
2001	22	無回答	29
2002	18	総計	228

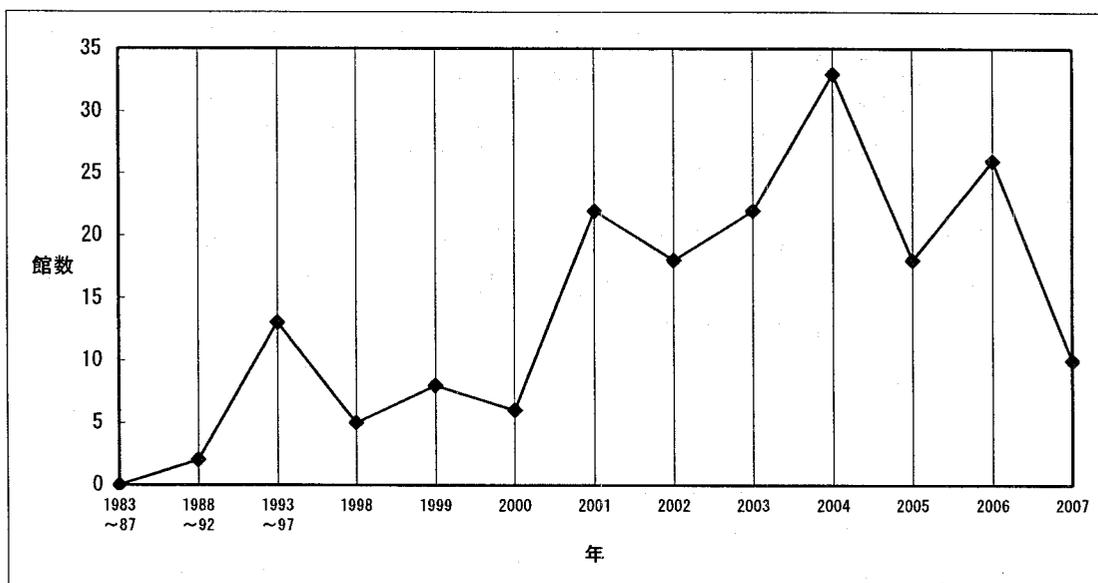


図 II-3 相互貸借システム導入時期

(4) 相互貸借システム名称

※メーカー名については表 II-6 「システム名称とメーカー名一覧」を参照のこと

表 II-4 相互貸借システム名称

システム名称	館数	システム名称	館数
iLiswave	47	LINUS/NC	5
LIMEDIO	33	UIP	3
BT-CATP	19	ILAS	2
E-catsLibrary	18	LIGSU/21	2

NeoCILIUS	11	LOOKS21/P	2
MILAGRO	9	SUPER HABIL	2
LVZ	8	EnilibIII	1
UNIPROVE/LS	8	未導入	16
CARIN	7	無効回答	10
情報館	6	無回答	19
		総計	228

多い順に iLiswave (47 館)、LIMEDIO (33 館)、BT-CATP (19 館)、E-catsLibrary (18 館)、NeoCILIUS (11 館) であった。割合は下図のとおりである。導入館 10 館未満のものを「その他」とした。

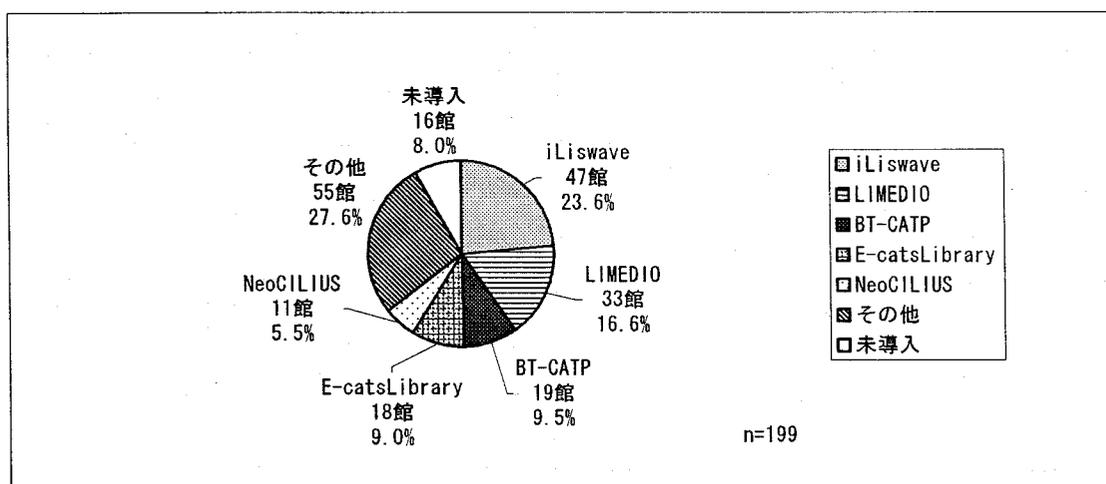


図 II-4 相互貸借システム名称

#### (5) 導入システムの比較対照

図書館システムと相互貸借システムを照らし合わせてみたところ、多くは図書館システムと同一の相互貸借システムを導入しているが、必ずしも一致しているわけではないことがわかった。

一つは同メーカーの別バージョンのものを導入しているというケースである。例えば、図書館システムとして「情報館」を導入している 38 館のうち相互貸借システムでも「情報館」を導入している館は 6 館 (15.8%)、NACSIS に接続可能な新しいバージョン「BT-CATP」を導入している館は 19 館 (50.0%) であった。

もう一つは図書館システムを導入しているが相互貸借システムは未導入、または別のメーカーの相互貸借システムを導入しているというケースである。これは導入している図書館システムに相互貸借システムがないためか、もしくは使い勝手がよくないためと考えられる。

表 II-5 図書館システムと相互貸借システムの比較表

図書館システム			相互貸借システム		
システム名称	メーカー名	館数	システム名称	メーカー名	館数
iLiswave	富士通	51	iLiswave	富士通	43
			未導入		3
			無効		5
LIMEDIO	リコー	38	LIMEDIO	リコー	33
			無効		5
E-catsLibrary	日本電気	22	E-catsLibrary	日本電気	18
			未導入		1
			無効		3
NeoCILIUS	日本事務器	12	NeoCILIUS	日本事務器	11
			未導入		1
CARIN	京セラ丸善システムインテ グレーション	9	CARIN	京セラ丸善システムインテ グレーション	7
			無効		2
LINUS/NC	日本電子計算	6	LINUS/NC	日本電子計算	5
			無効		1
ILAS	大阪伊藤伊新社	3	ILAS	大阪伊藤伊新社	2
			無効		1
LOOKS21/P	日立製作所	2	LOOKS21/P	日立製作所	2
LICSU/21	日本電気	1	LICSU/21	日本電気	1
EnilibⅢ	新日鉄ソリューションズ	1	EnilibⅢ	新日鉄ソリューションズ	1
情報館	ブレインテック	38	BT-CATP	ブレインテック	19
			情報館	ブレインテック	6
			未導入		5
			無効		8
CALIS	京セラ丸善システムインテ グレーション	12	MILAGRO	MBA	4
			iLiswave	富士通	2
			UIP	NII	2
			SUPER HABIL	MBA	1
			未導入		2
			無効		1
UNIPROVE/LS	日立製作所	11	UNIPROVE/LS	日立製作所	8
			LICSU/21	日本電気	1
			未導入		1

			無効		1
LVZ	新日鉄ソリューションズ	9	LVZ	新日鉄ソリューションズ	8
			MILAGRO	MBA	1
BLABO	ASEC	2	MILAGRO	MBA	2
ELISE	キハラ	2	iLiswave	富士通	1
			未導入		1
自館オリジナル		2	MILAGRO	MBA	1
			無効		1
INNOPAC	Innovative Interfaces Inc	1	UIP	NII	1
KOSMOS II	慶應義塾大学 図書館システム	1	iLiswave	富士通	1
Lib	ソフテック	1	MILAGRO	MBA	1
LX	大阪伊藤伊新社	1	SUPER HABIL	MBA	1
未導入		1	未導入		1
無効		2	無効		2
総計		228	総計		228

(6) システム名称とメーカー名一覧

表 II-6 システム名称とメーカー名一覧

システム名称	メーカー名
BLABO	ASEC
BT-CATP	ブレインテック
CALIS	京セラ丸善システムインテグレーション
CARIN	京セラ丸善システムインテグレーション
CASA	大阪伊藤伊新社
E-catsLibrary	日本電気
ELISE	キハラ
Enilib III	新日鉄ソリューションズ
ILAS	大阪伊藤伊新社
iLiswave	富士通
INNOPAC	Innovative Interfaces Inc
KOSMOS II	慶應義塾大学図書館システム
Lib	ソフテック
LICSU/21	日本電気
LIMEDIO	リコー
LINUS/NC	日本電子計算

LOOKS21/P	日立製作所
LVZ	新日鉄ソリューションズ (IBM)
LX	大阪伊藤伊新社
MILAGRO	MBA
NeoCIL IUS	日本事務器
SUPER HABIL	MBA
UIP	NII
UNIPROVE/LS	日立製作所
情報館	ブレインテック

質問3 : 「MyLibrary」など、自分の貸出状況・予約状況等がわかる、web 個人ポータル機能を有していますか。

- A はい 118 館 (52.0%)  
 B いいえ 109 館 (48.0%)

無回答 1 館

### III 相互貸借、特に利用者からのオンライン申込について

質問4：相互貸借依頼業務に関して、アウトソーシング（業務委託）を導入していますか。

- A はい 42館 (18.4%)  
 B いいえ 186館 (81.6%)

昨今の図書館正職員の減少傾向にもかかわらず、相互貸借依頼業務に関して、アウトソーシング（業務委託）は必ずしも進んでいない結果となった。

質問5：相互貸借に関して、利用者がオンラインで申込出来るサービス（web申込）を導入していますか。

- A はい 95館 (41.7%)  
 B いいえ 133館 (58.3%)

Bの場合、今後導入予定はありますか。

- A はい 41館 (39.4%)  
 B いいえ 63館 (60.6%)

無回答 29館

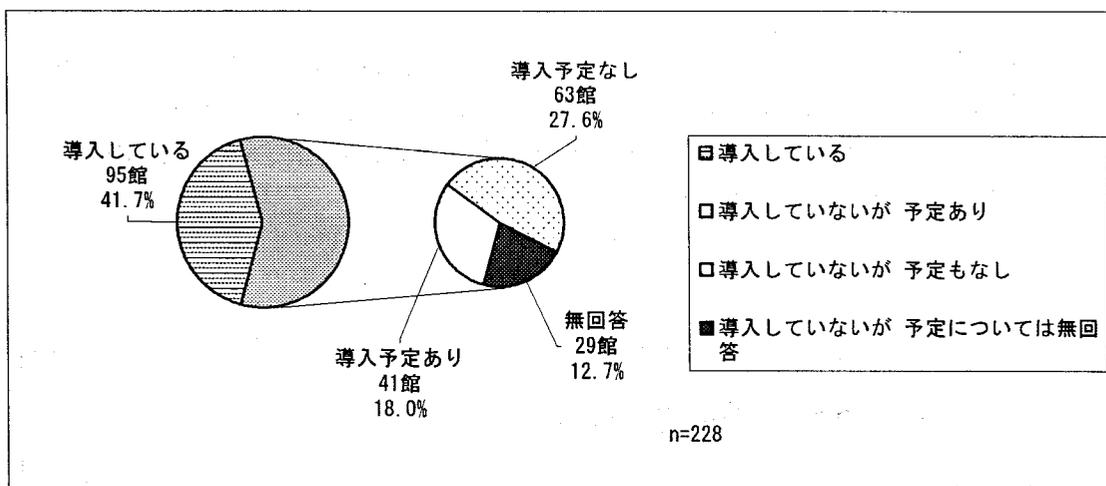


図 III-1 web 申込の導入の有無

web 申込を導入している 95 館と導入していないが今後導入予定の 41 館を合わせると 136 館 (59.7%) で web 申込が機能する見込みという結果が得られた。

(1) 図書館分野別

表 III-1 図書館分野別 (館数)

	導入	未導入	総計
総合図書館	31 館	39 館	70 館
人文・社会科学系図書館	31 館	62 館	93 館
理工学系図書館	9 館	10 館	19 館
医歯薬看護系図書館	22 館	13 館	35 館
その他	2 館	9 館	11 館

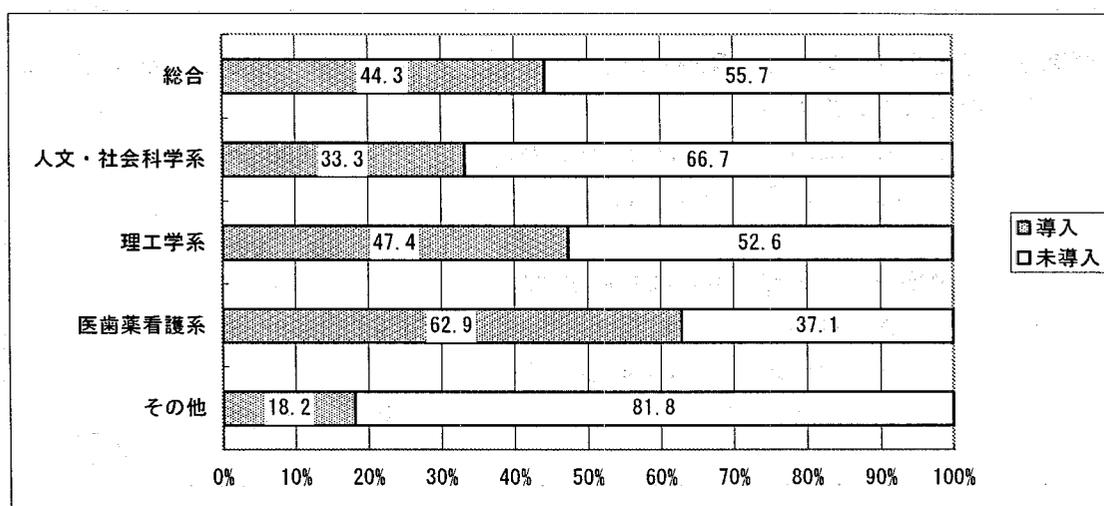


図 III-2 図書館分野別 (%)

総合図書館と理工学系図書館では、導入と未導入の割合がほぼ同じである。人文・社会科学系図書館では、未導入が導入の 2 倍であるが、反対に、医歯薬看護系図書館では導入が未導入の約 2 倍となっている。医歯薬看護系図書館における web 申込の導入率の高さは、即時性を求められる分野によるところが大きいと推察される。

導入している場合、開始はいつからですか。

表 III-2 web 申込開始年

年	館数	年	館数
1997	2	2003	12
1998	2	2004	18
1999	2	2005	9
2000	3	2006	17
2001	6	2007	14
2002	8	無回答	2
		総計	95

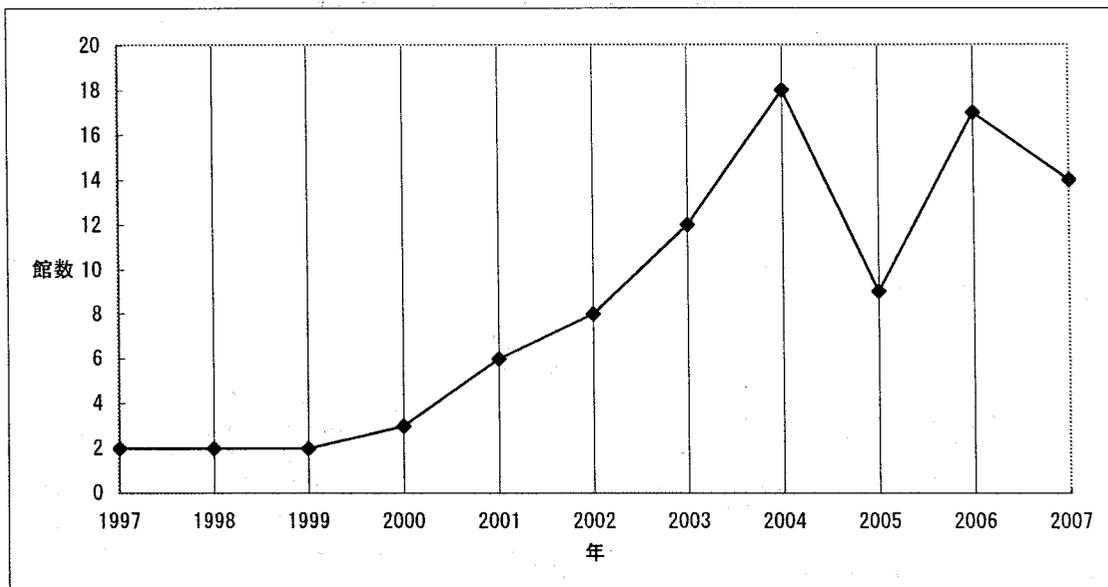


図 III-3 web 申込開始年

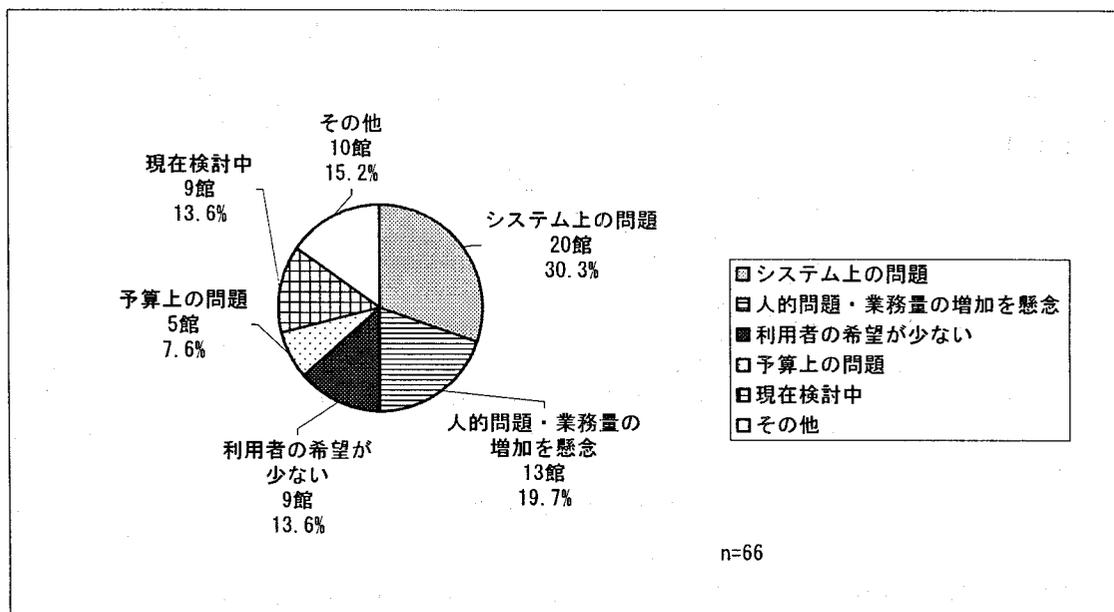
2001年から増加傾向にあり、2004年に最も多くの館でweb申込を導入した結果となった。増加の一途を辿っていた折れ線は2005年にいったん下がったが、現在の図書館システム、相互貸借システムの導入時期も同様に2005年にいったん下がっていることからみて、おそらくシステム・リプレースを行った館が少なかったためと推察される。図書館システムの寿命が約5年といわれていることを考慮すると現在の図書館システムを導入したタイミングでweb申込を開始した館が多いことが伺える。

導入していない特別な理由はありますか。

自由記述の回答を以下の6つに分類した。

表 III-3 導入していない理由

理 由	館 数
システム上の問題	20
人的問題・業務量の増加を懸念	13
利用者の希望が少ない	9
予算上の問題	5
現在検討中	9
その他	10
総 計	66



「その他」としては、「図書館員の研究不足」「安易な申込を懸念」の他、「経費や近隣の大学なら直接来館を希望するかなど、申込者と確認を取りながら受け付けした方が確実に効率的なため」といったカウンターでの直接申込のメリットを理由にあげた館もあった。

質問6：それは「MyLibrary」などのweb個人ポータル機能と連動したパッケージ  
ですか。

A はい 52館 (55.9%)

B いいえ 41館 (44.1%)

無回答 2館

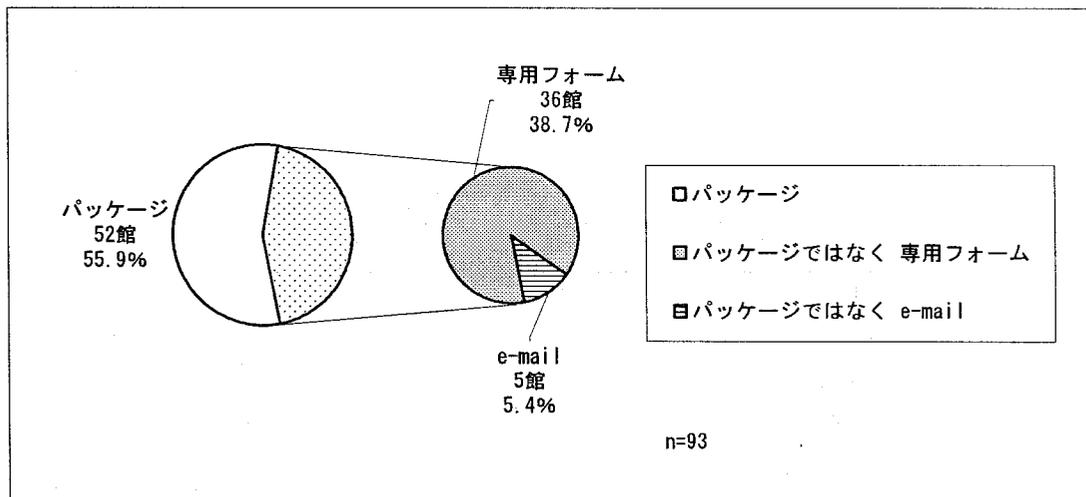
Bの場合、申込フォームについてお答えください。

A 専用フォームあり 36館 (87.8%)

B e-mailソフトが開く 5館 (12.2%)

近年web個人ポータル機能を有した図書館システムが多数登場している。バージョン・アップの流れを見る限り、各社の図書館システムはweb個人ポータル機能をキーのひとつとして発展している。導入している図書館システムの違いと図書館側の事情によってweb個人ポータル機能サービスの内容は様々である。中には貸出状況・予約状況が見られるだけでなく相互貸借申込までパッケージ化されているものもある。

利用者による相互貸借web申込を実施している図書館の多くはこのようなパッケージ化された図書館システムを利用しているのではないかという仮定のもとweb申込サービス導入の95館に対し質問を行った。



図III-5 web申込フォーム

その結果、55.9%が図書館システムにパッケージ化されたweb申込システム、38.7%が図書館システムのパッケージではなく独自に開発した何らかのシステム、5.4%がe-mailを使用していた。また中にはパッケージ化されたweb申込システムを利用しつつ、尚かつ独自の専用フォームやe-mailでも受け付けているという、門戸を更に開いた形の館もあった。これはパッケージ化される以前からe-mail等で相互貸借の申込を受けていた館特有のものと推察される。

(1) web 個人ポータル機能の有無との関係 (質問3とのクロス集計)

表III-4 web個人ポータル機能の有無との関係

	パッケージ	独自の 専用フォーム	e-mail	総計
web 個人ポータル機能あり	52 館	16 館	1 館	69 館
web 個人ポータル機能なし	-	20 館	4 館	24 館
総計	52 館	36 館	5 館	93 館

質問3の結果、web個人ポータル機能を有する図書館は有効回答227館中118館(52.0%)、有していない図書館は109館(48.0%)であった。クロス集計によりweb個人ポータル機能を有する図書館118館のうち69館(58.5%)でweb申込を実施しているとの結果になった。

その内訳は、web個人ポータル機能を通じてweb申込を実施している館が52館(75.4%)、独自の専用フォームを使用してweb申込を実施している館が16館(23.2%)、e-mailでのweb申込を実施している館が1館(1.4%)であった。web個人ポータル機能を有していながら独自の専用フォームやe-mailを通じて利用者からのweb申込を実施している理由としては、web申込が図書館システムのパッケージにない、あるが実施には至っていない、などが考えられる。またweb個人ポータル機能を有していない図書館109館のうち20館(18.3%)が独自の専用フォームを使用、4館(3.7%)がe-mailを使用してweb申込を行っているという結果が得られた。

(2) 図書館システム名称

表III-5 パッケージでのweb申込

図書館システム名称	導入館数
LIMEDIO	20
E-catsLibrary	8
iLiswave	7
UNIPROVE/LS	6
NeoCILIUS	4

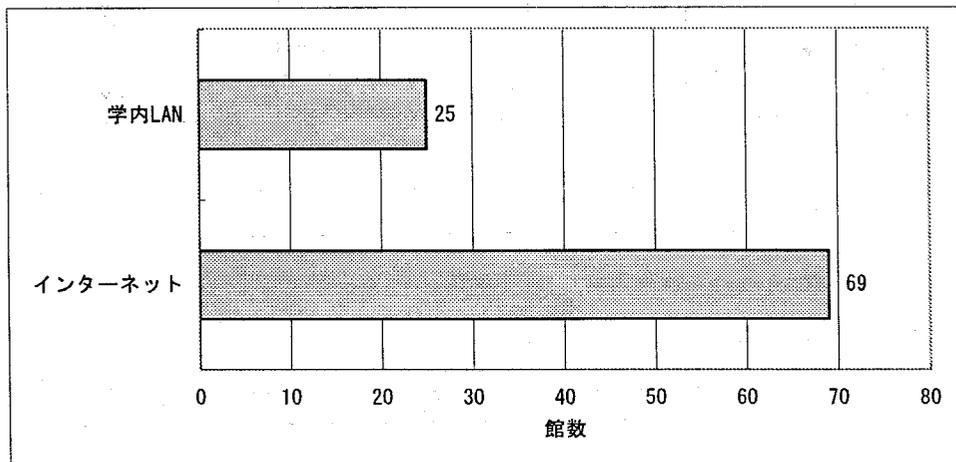
図書館システムにパッケージ化されたweb申込を実施していると答えた52館の使っている図書館システムを導入館の多い順に5つ挙げた。図書館側が実施するか否かは別として、今後は個人ポータル機能と連動したweb申込のパッケージ化が各社標準になるのではないかと推察される。

質問7：web申込の方法についてお答えください。

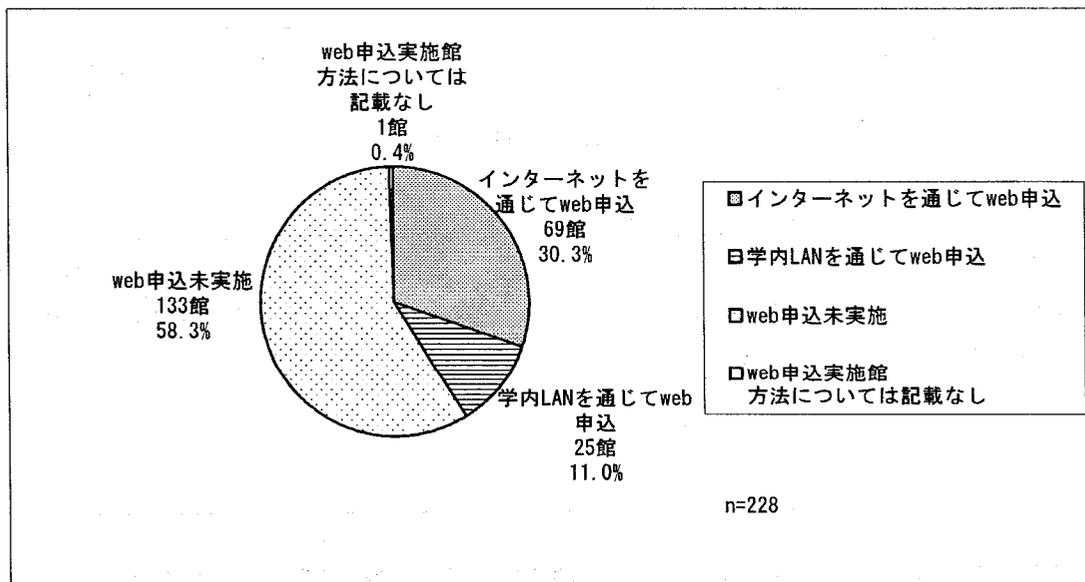
A 学内LANを通じて 25館 (26.6%)

B インターネットを通じて 69館 (73.4%)

無回答 1館



図III-6 学内LANかインターネットか



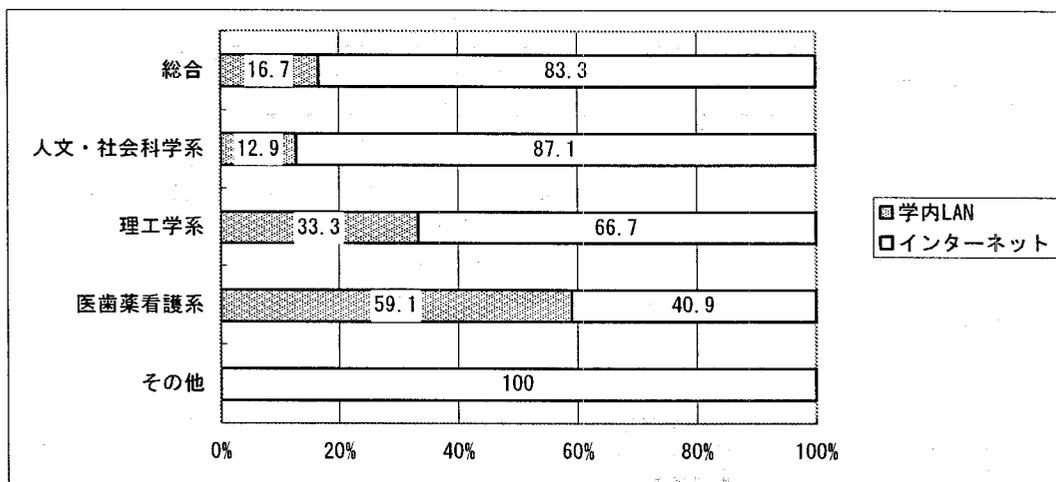
図III-7 アンケート回答館228館の内訳

接続範囲が学内LANかインターネットかによってサービスにも違いが生じる。インターネット経由であれば学外からでもweb申込が可能になる。アンケート回答館228館全体で30.3%、web申込実施館では73.4%の図書館で学外からもweb申込が可能という結果が得られた。

(1) 図書館分野別

表III-6 図書館分野別 (館数)

	学内 LAN	インターネット	総計
総合	5 館	25 館	30 館
人文・社会科学系	4 館	27 館	31 館
理工学系	3 館	6 館	9 館
医歯薬看護系	13 館	9 館	22 館
その他	0 館	2 館	2 館



図III-8 図書館分野別 (%)

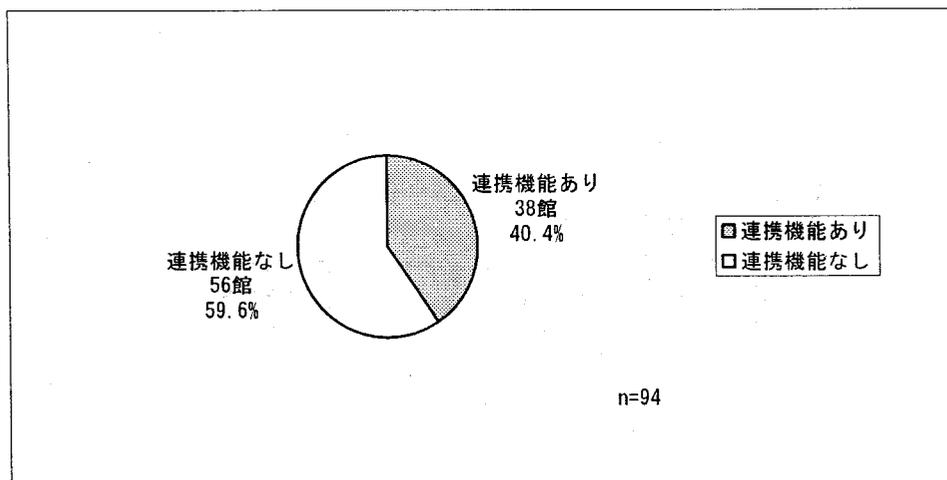
総合図書館、人文・社会科学系図書館、理工学系図書館、その他の図書館ではインターネットを経由してweb申込を行っている館が多い傾向にあった。これに対して医歯薬看護系図書館では学内LANが13館 (59.1%)、インターネットが9館 (40.9%) と、学内LANを経由している図書館の割合が高かった。

質問8：文献データベースと連携して書誌事項を取り込む機能を有していますか。

A はい 38館 (40.4%)

B いいえ 56館 (59.6%)

無回答 1館



図III-9 文献データベース連携機能の有無

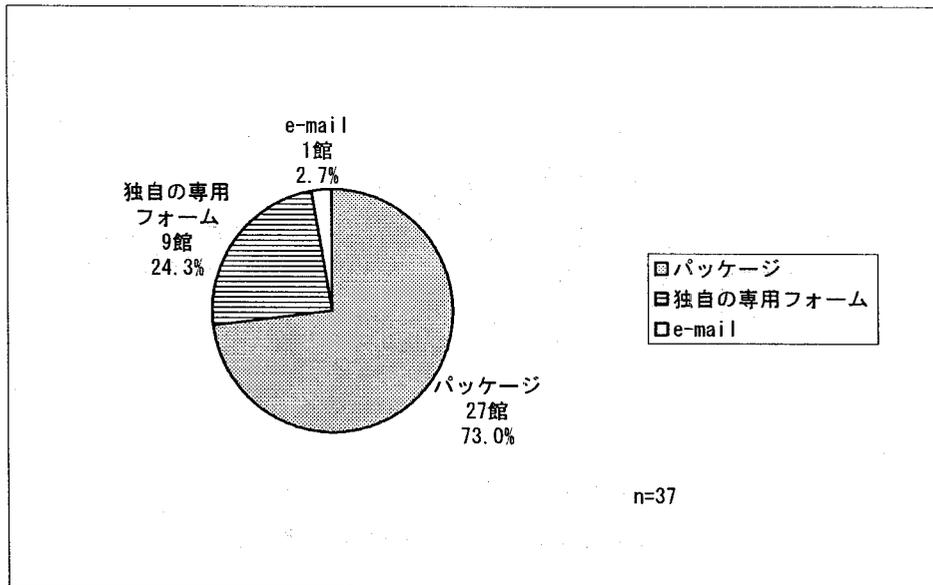
文献データベースと連携して書誌事項を取り込むサービスを実施している館は40.4%であった。これはアンケート回答館228館の16.7%に相当する。

(1) 申込フォームとの関係 (質問6とのクロス集計)

表III-7 web申込フォームとの関係

	パッケージ	独自の 専用フォーム	e-mail	無回答	総計
文献データベース連携機能あり	27館	9館	1館	1館	38館
文献データベース連携機能なし	25館	26館	4館	1館	56館
無回答	-	-	-	1館	1館
総計	52館	35館	5館	3館	95館

文献データベース連携機能を有する館を申込フォーム別にみると、web個人ポータル機能と連動したパッケージでのweb申込実施館が27館 (73.0%)、独自の専用フォームが9館 (24.3%)、e-mailが1館 (2.7%) であった。



図III-10 文献データベース連携機能を有する図書館のweb申込フォーム

(2) 連携データベース名

表III-8 連携データベース

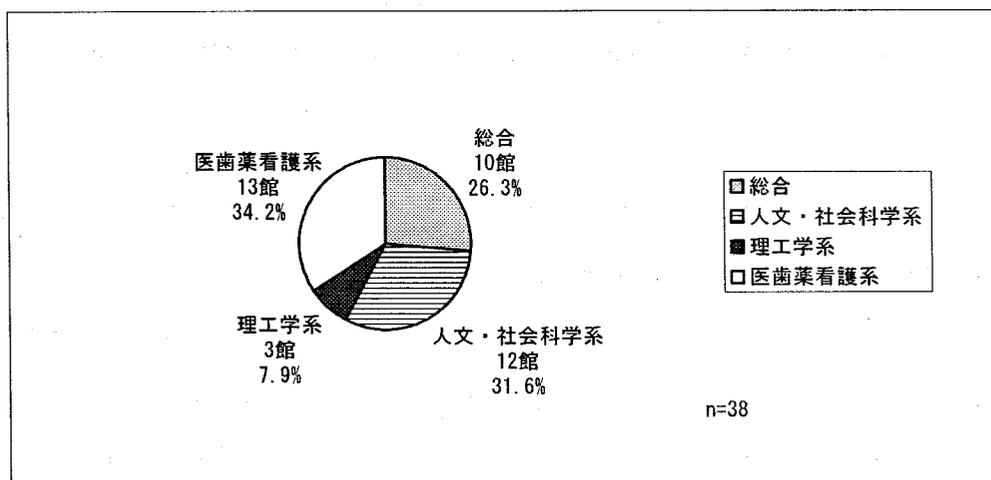
データベース名	件数
NACSIS Webcat	18
医中誌、医中誌 web	7
MEDLINE、PubMed	7
EBSCO host	4
J-Dream、J-Dream II	3
自館 OPAC	2
雑誌記事索引	2
Magazine-Plus	2
国立情報学研究所・国立国会図書館	1
メディカルオンライン	1
CINAHL	1
OVID	1
ProQuest	1
PsycINFO	1
Refworks	1
SCOPUS	1

導入事例順に見ると、最も多いのがNACSIS Webcatで18件、次が医中誌および医中誌

webとMEDLINEおよびPubMedでそれぞれ7件ずつであった。他に、リンクリゾルバS・F・Xが2件、「Open URLで書誌を送信できるシステムであればどれも可」が1件回答として挙げられたが文献データベースとは異なるため表からは除いた。

### (3) 図書館分野別

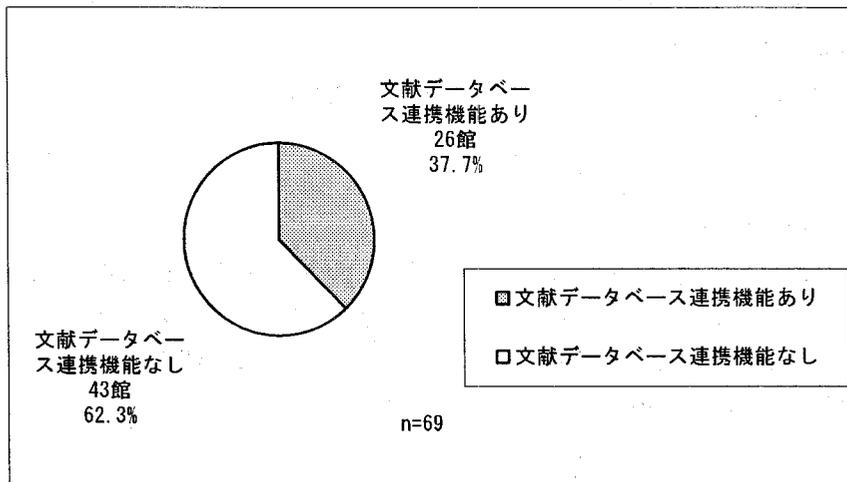
多い順に医歯薬看護系図書館の13館(34.2%)、人文・社会科学系図書館の12館(31.6%)、総合図書館の10館(26.3%)であった。医歯薬看護系図書館での文献データベース連携機能導入率の高いことが、NACSIS Webcatに次いで、医中誌webやPubMedといった医学系文献データベースが上位を占めた一因であると考えられる。



図III-11 図書館分野別

### (4) インターネット経由のweb申込実施館との関係(質問7とのクロス集計)

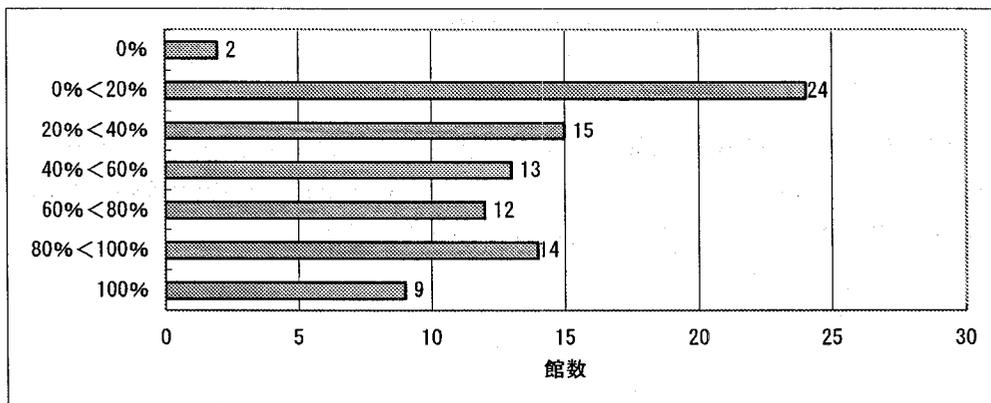
学外からでも申込が可能なインターネット経由のweb申込実施館69館のうち37.7%に該当する26館で文献データベース連携機能ありとの結果が得られた。



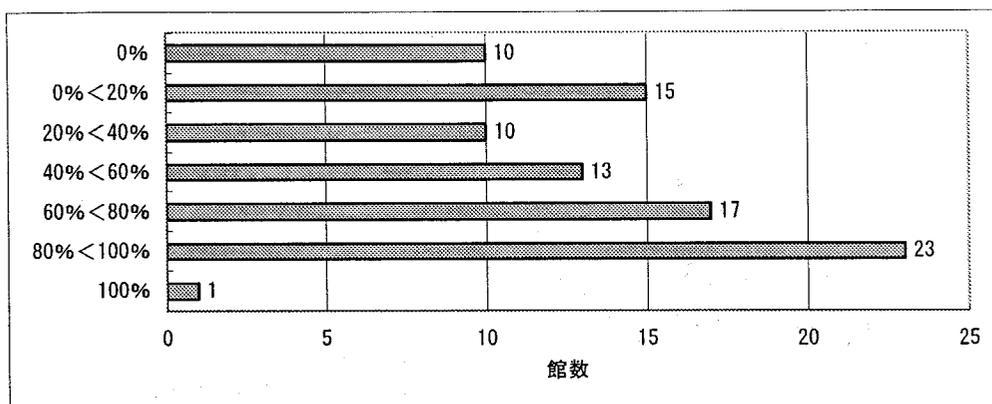
図III-12 インターネット経由のweb申込実施館における文献データベース連携機能の有無

**質問9：申込方法のおおよその比率をお答えください。**

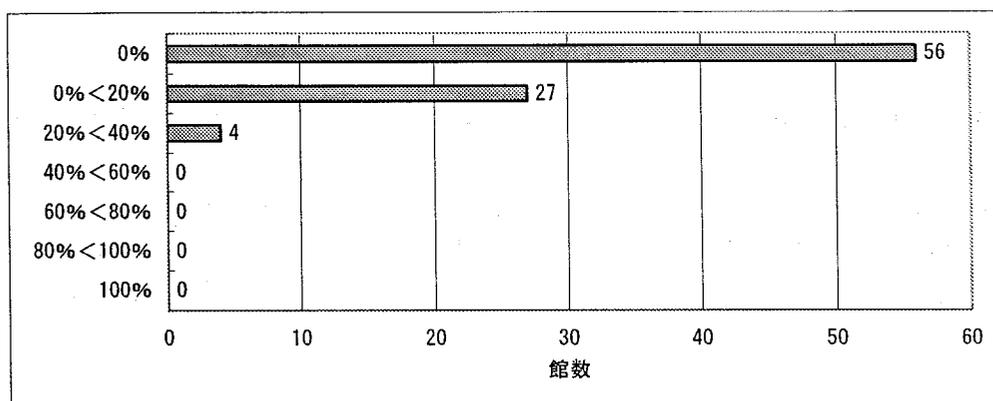
利用者からの相互貸借申込方法を「web申込」「カウンターでの直接申込」「その他」の3つに分け、web申込実施館95館に対しそれぞれのおおよその利用率を質問した。



図III-13 web申込率



図III-14 カウンターでの直接申込率



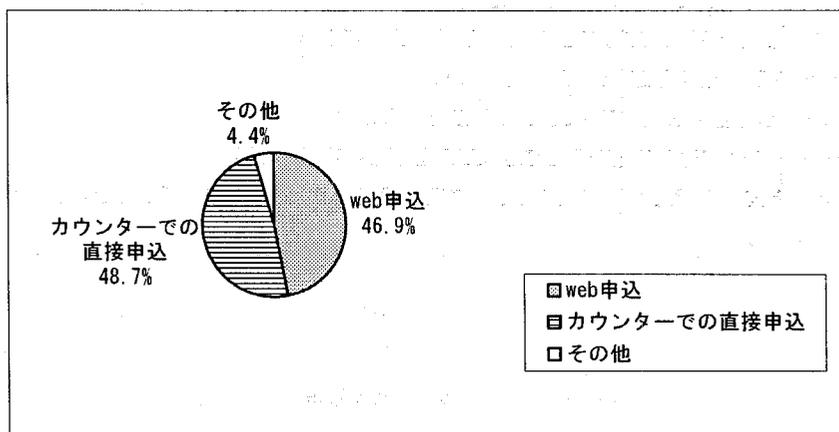
図III-15 その他の申込率

有効回答89館のうち、web申込では「0%<20%」が最も多く24館(27.0%)、次いで「20%<40%」の15館(16.9%)であった。中には利用者が来館してもカウンターでの直接申込は受け付けずweb申込のみ受付としているという館も複数館あった。

カウンターでの直接申込では「80%<100%」が最も多く23館(25.8%)、次いで「60%<80%」の17館(19.1%)であった。

その他の申込では「0%」が最も多く56館(62.9%)、次いで「0%<20%」の27館(30.3%)であった。この中にはFAXとe-mailによる方法等が混在していると推察されるが、その内容は今回のアンケートからは抽出不可能であった。

(1) web申込実施館平均

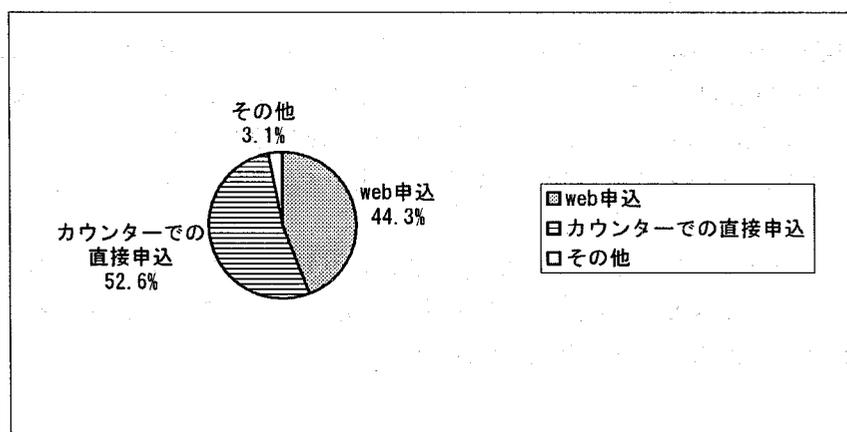


図III-16 申込比率 (平均)

89館全体の平均値を調べたところ、web申込が46.9%、カウンターでの直接申込が48.7%、その他が4.4%という結果になった。

web申込があるにもかかわらずカウンターでの直接申込の利用率がやや高い理由としては、図書館側からの利用促進が足りずweb申込がまだ浸透していないこと、文献データベース等を検索するより参考文献資料を直接カウンターに持参する利用者が多いことなどが考えられる。

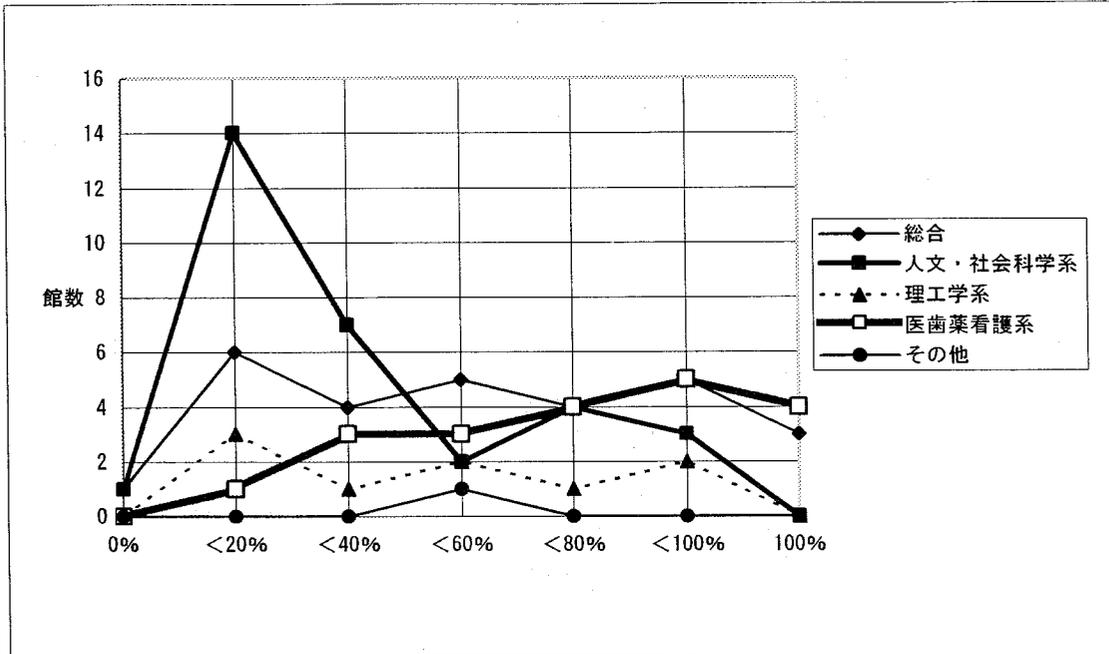
(2) 文献データベース連携機能を有する図書館 (質問8とのクロス集計)



図III-17 文献データベース連携機能を有する図書館の申込比率

対象を利便性が高いと考えられる文献データベース連携機能を有する図書館38館に限ればweb申込利用率は高くなるのではないかと仮定に基づき分析したところ、予想に反しweb申込の利用率は更に下がった結果になった。

(3) 図書館分野別

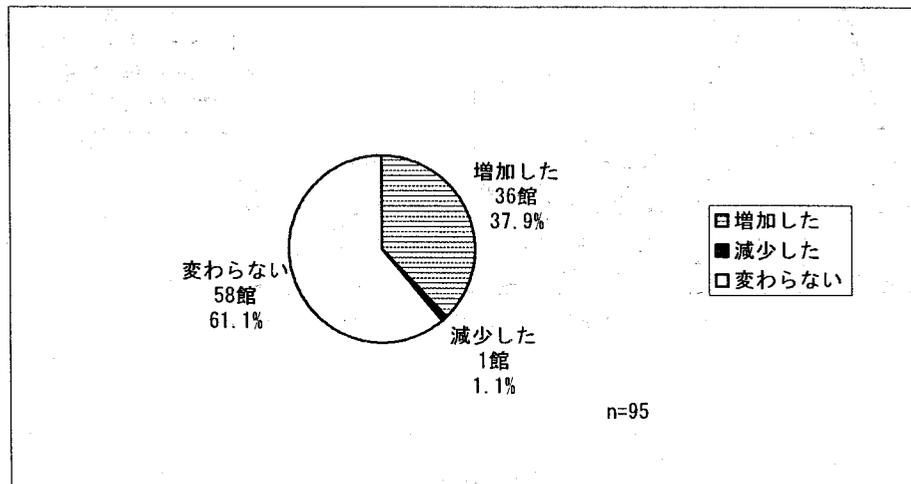


図III-18 図書館分野別web申込利用率

総合図書館、理工学系図書館、その他の図書館は類似した折れ線を形成しており、利用率の分布に特別な傾向は見られない。一方、人文・社会科学系図書館では「0%<20%」の利用率という図書館が多く、突出している。web申込導入館95館のうち31館(32.6%)が、また文献データベース連携機能を有する図書館38館のうち12館(31.6%)が人文・社会科学系図書館であることを考えると、この分野でのweb申込利用率の低いことが全体の比率に影響を与えた結果であるといえるだろう。一方、医歯薬看護系図書館ではweb申込の利用率「80%<100%」が最も多く、次いで「60%<80%」と「100%」が同数となっている。ここから人文・社会科学系図書館ではweb申込の利用率が低い医歯薬看護系図書館においてはweb申込の利用率が高いということがわかる。

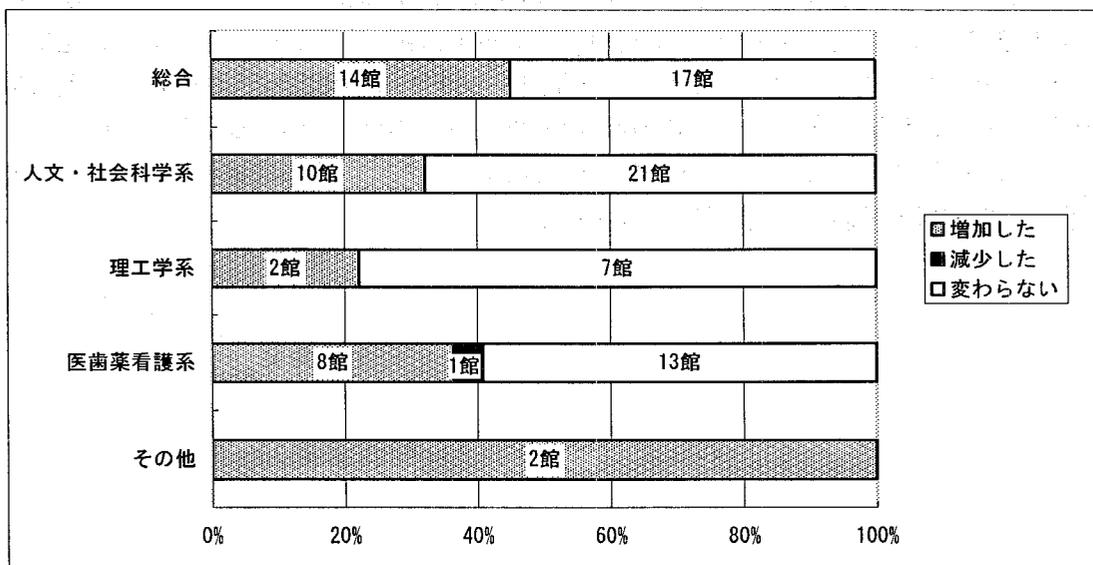
質問10：web申込を始めたことにより申込件数に増減はありましたか。

- A 増加した 36館 (37.9%)
- B 減少した 1館 (1.1%)
- C かわらない 58館 (61.1%)



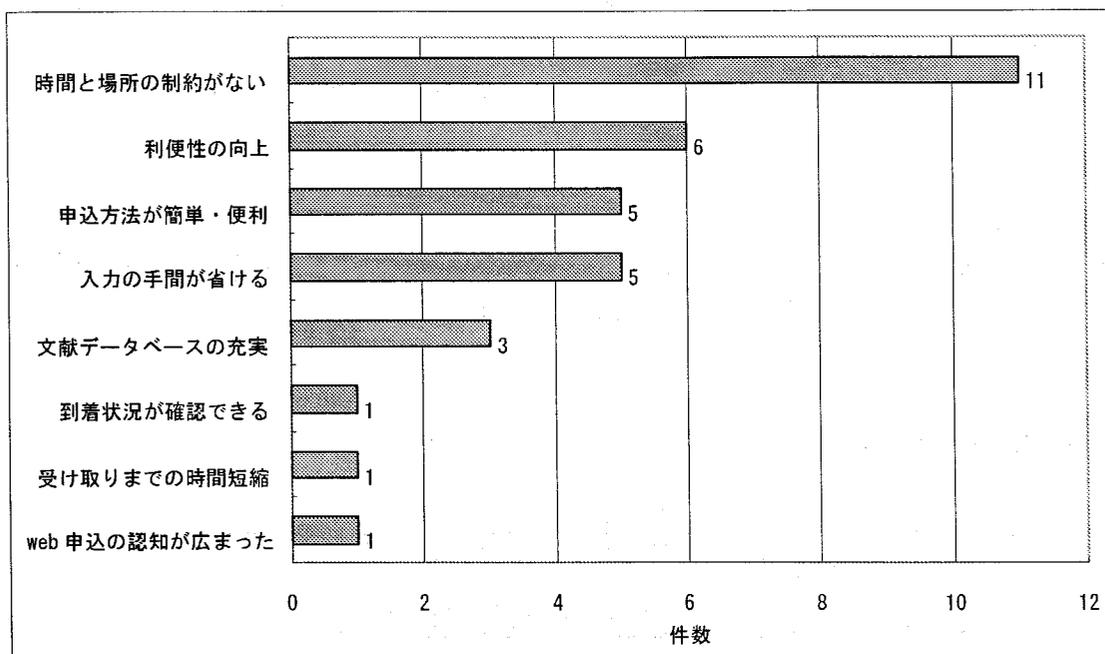
図III-19 web申込導入による申込件数の増減

(1) 図書館分野別



図III-20 図書館分野別

## (2) 増加した理由



図III-21 増加した理由

自由記述の回答を8つに分類した。

「時間と場所の制約がない」、「申込方法が簡単・便利」、「入力の手間が省ける」は申込時の利便性、「到着状況が確認できる」は到着時の利便性に相当する。「受け取りまでの時間短縮」の理由としては、図書館の開館時間に左右されずに申込ができることや、一部の図書館では文献データベース連携機能により図書館側の書誌事項確認の必要性が軽減されることが考えられるだろう。上記5点を合わせて「利便性の向上」に含まれるともいえる。

またweb申込を始めたことによる申込件数の増減と直接の関係はないにしても利用促進に一役買った理由として「文献データベースの充実」と「web申込の認知が広まった」ことが挙げられた。

## (3) 増加件数事例

web申込の利便性により件数が増加したという事例の中では、導入前に比べ文献複写で約30%、現物貸借で約260%と、大幅な増加が見られた館もあった。以下増加件数の事例を列挙する。

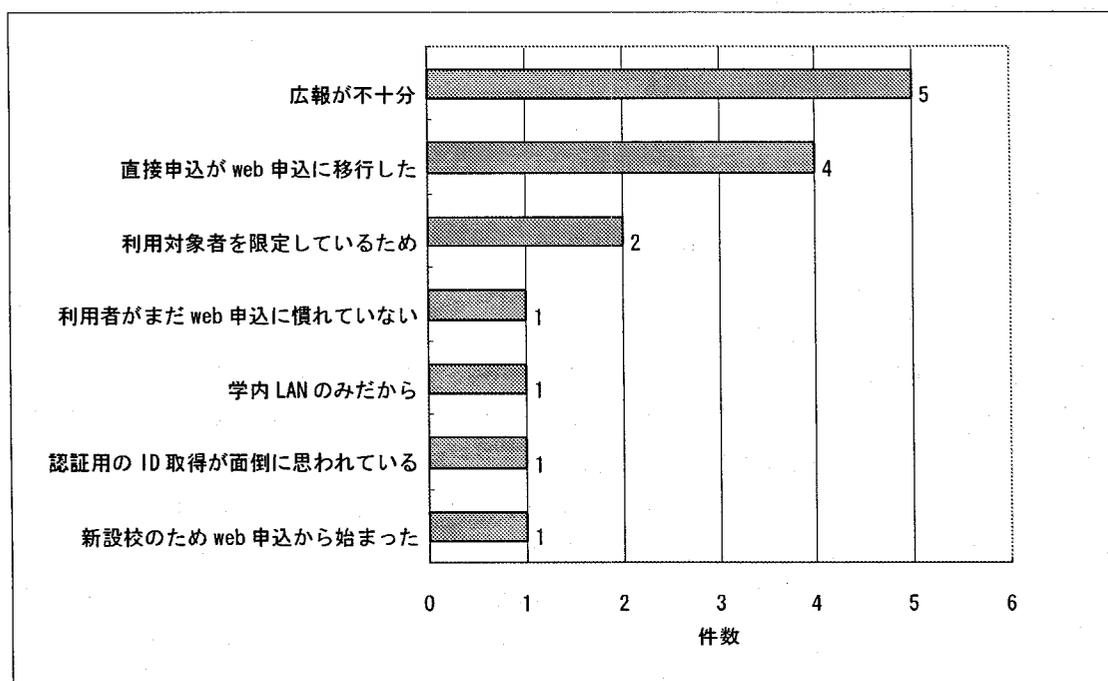
- ・2004年度、2005年度とさらに増加したが、2006年度は減少に転じた。(2003年11月導入)
- ・文献複写で約30%増、現物貸借で約260%増。(2003年4月導入)
- ・導入の年度は増加したが、その後2年間は減少し、2006年度は再び増加している。(2004年1月導入)

- ・web申込開始前に比べ、2倍以上申込件数が増加。(2004年4月導入)
- ・2002年度331件、2003年度573件、2004年度296件、2005年度651件、2006年度901件(2003年11月導入)
- ・平成18年度は477件で、前年比(平成17年度)257%増。(2004年6月導入)

#### (4) 減少した理由

web申込の際、同じホームページ上にある電子ジャーナルを利用者がチェックする傾向が強まり、結果として申込件数が減ったことが挙げられた。

#### (5) 変わらない理由

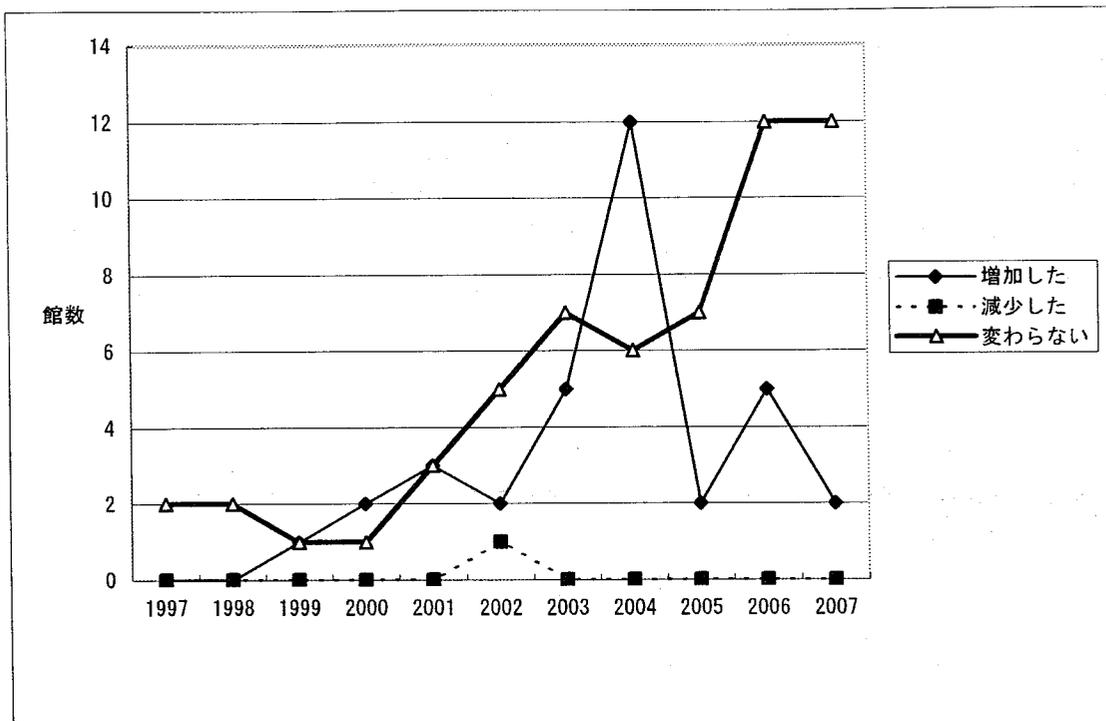


図III-22 変わらない理由

自由記述の回答を7つに分類した。

「広報が不十分で利便性が周知されていないから」が最も多く挙げられた。広報不足、利用者を限定している、利用者がまだweb申込に慣れていない、といった意見を見ると今後次第に件数が増加する可能性もある。その一方で「直接申込がweb申込に移行しただけだから」という理由も上位を占めた。

#### (6) web申込導入年からみた申込件数の増減

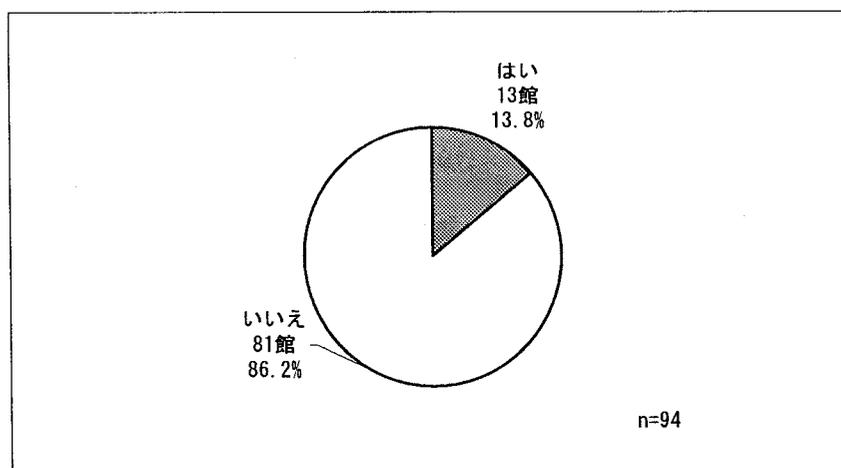


図III-23 web申込導入年から見た申込件数の増減

質問11：利用者に対し、1回もしくは1日あたりのweb申込の件数制限をしていますか。

A はい 13館 (13.8%)

B いいえ 81館 (86.2%)

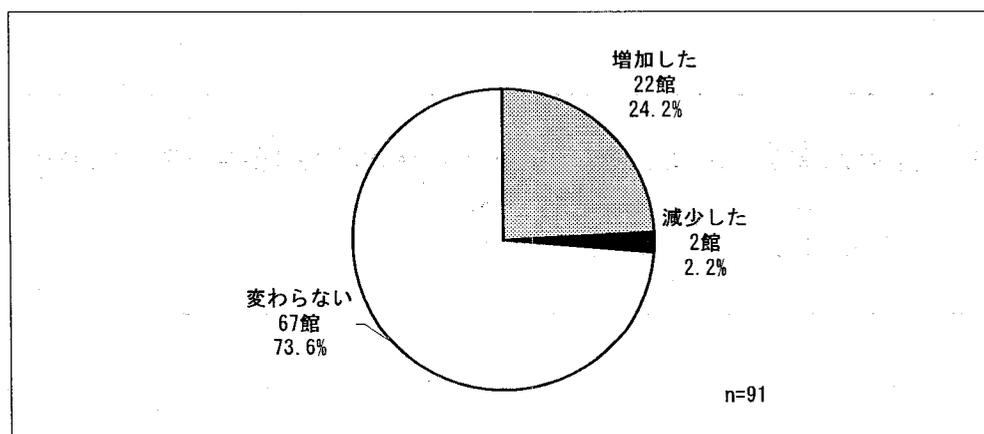


図III-24 web申込の件数制限の比率

web申込可能な95館のうち、「web申込の件数制限をしている」と回答した館は13館（13.8%）、「していない」と回答した館は81館（86.2%）であった。「件数制限をしている」と回答した13館の事例を見ると、制限数は一日一人5件、10件、30件等であった。また、複写と貸借の種類別や教員や大学院生の身分別により、それぞれに制限数を設けている館もあった。制限数を設けているが系統的に制限が出来ず事実上無制限になっている館や、逆にシステム処理上の関係で1,000件までという館もあった。

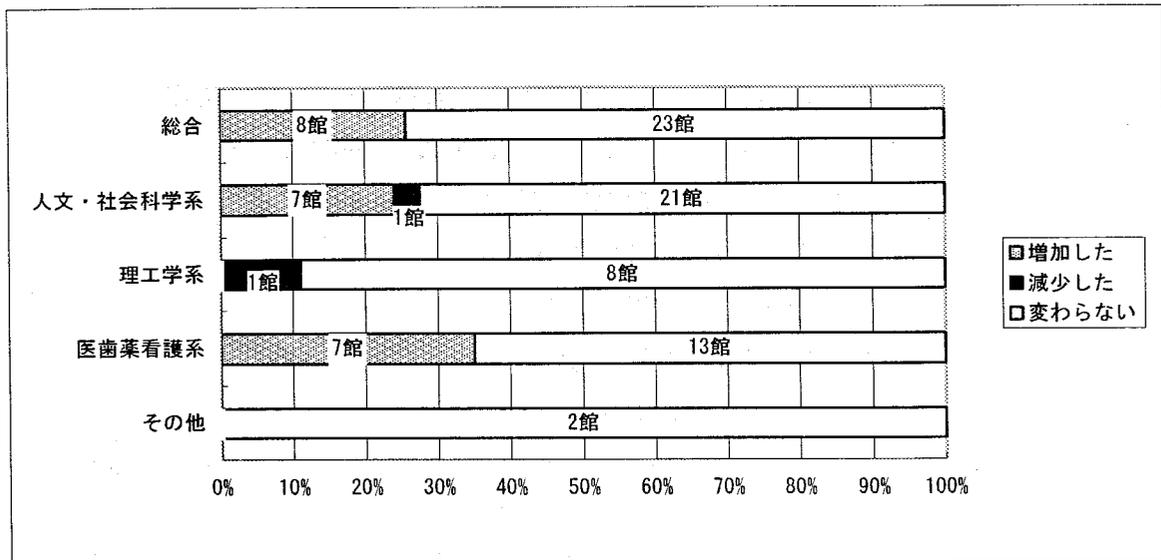
質問12：web申込を始めたことにより、利用者への申込キャンセル比率に増減はありましたか。

- |   |       |     |         |
|---|-------|-----|---------|
| A | 増加した  | 22館 | (24.2%) |
| B | 減少した  | 2館  | (2.2%)  |
| C | かわらない | 67館 | (73.6%) |



図III-25 利用者への申込キャンセル比率の増減

申込キャンセル比率の増減については、「増加した」が22館（24.2%）、「減少した」が2館（2.2%）、比率が最も大きかったのは「変わらない」と答えた67館（73.6%）であった。



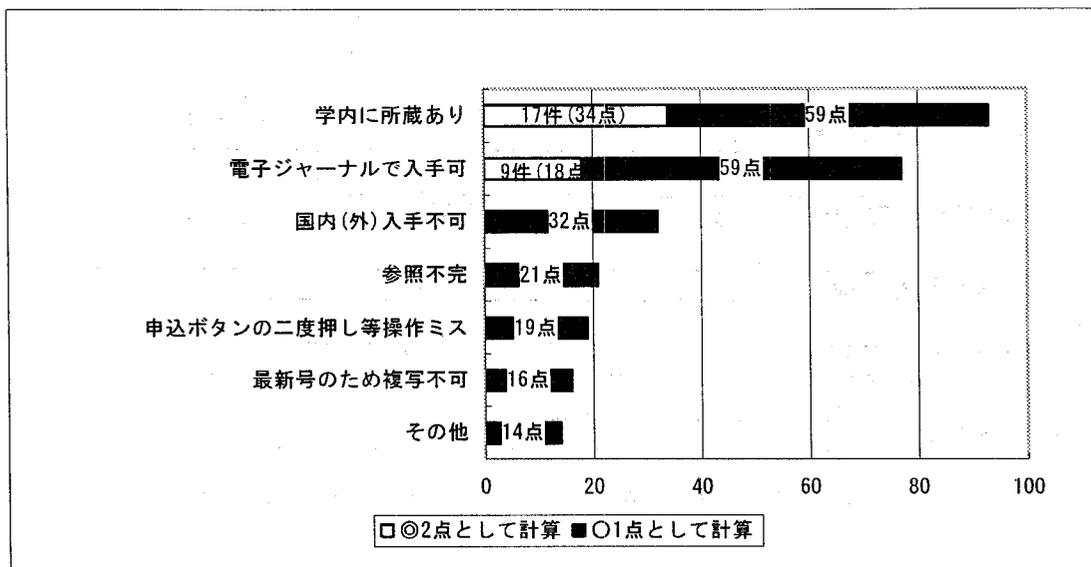
図III-26 図書館分野別の申込キャンセル比率の増減

さらに図書館の分野別で比較したところ、総合図書館および医歯薬看護系図書館では申込キャンセル比率の減少はみられず、一方、理工学系図書館では増加はみられなかった。

質問13: web申込の際の、利用者に対する主な申込キャンセル理由に○をつけてください。  
○はいくつでも結構です。  
また特に多い理由がある場合には◎をつけてください。

A 学内に所蔵あり	◎17件	○59件
B 電子ジャーナルで入手可	◎ 9件	○59件
C 国内(外)入手不可	○32件	
D 参照不完	○21件	
E 最新号のため複写不可	○16件	
F 申込ボタンの二度押し等操作ミス	○19件	
G その他	○14件	

図III-27と表III-9の点数について、◎は2点、○は1点として計算した。



図III-27 利用者に対する主な申込キャンセル理由

表 III-9 その他のキャンセル理由

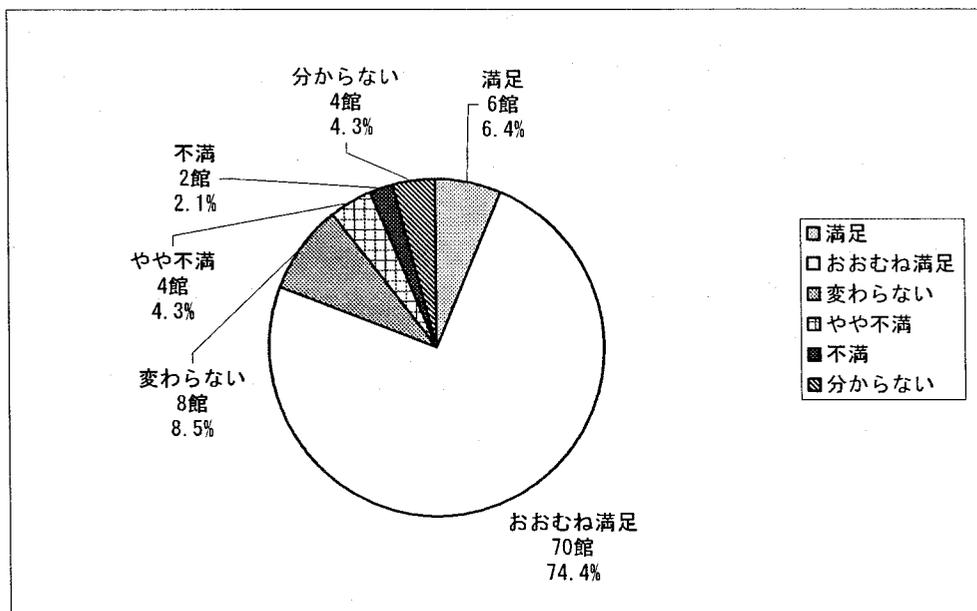
その他のキャンセル理由	点数
CiNii や Google 等	5
利用者による重複申込	2
未刊行や未着	2
雑誌の貸借申込	1
学内所蔵なし (学内 ILL 申込)	1
電子ジャーナル (ILL 不可)	1
学外貸出不可	1
不明	1
総計	14

利用者に対する主なキャンセル理由については、「学内に所蔵あり」が93点、「電子ジャーナルで入手可」が77点と上位を占めた。また「その他」の14点のうち、「CiNiiやGoogle等」によって入手可であったキャンセル理由が5点挙げられたが、大きく言って「電子ジャーナルで入手可」に含まれるものと思われる。そのような回答を合計すると「電子ジャーナルで入手可」の値は更に上がることになる。

質問14：web申込に対する利用者の満足度についてどう捉えていますか。

- A 満足 6館 ( 6.4%)
- B おおむね満足 70館 (74.4%)
- C 変わらない 8館 ( 8.5%)
- D やや不満 4館 ( 4.3%)
- E 不満 2館 ( 2.1%)
- (F) わからない 4館 ( 4.3%)

その理由についてお書きください。



図III-29 web申込に対する利用者の満足度

表III-10 おおむね満足の理由

おおむね満足の理由	館数
時間と場所を問わずに申込が可能	36
検索結果の切り貼りが可能・時間の短縮	13
フォームで入力可能（選択肢が増えた）	1
個別メールに対するの受付がweb個人ポータル上で可能	1

クレームの声がない	1
選択項目（海外申込の要・不要）がない	1
不明	17
総計	70

表III-11 変わらない理由

変わらない理由	館数
図書館のPR不足	2
実際の利用例が少ない（クレームがとらえきれていない）	1
webで何かを申し込むのは当然の感覚	1
満足も不満も感じていない	1
不明	3
総計	8

利用者の満足度については、「おおむね満足」という回答が70館（74.4%）と最も多く、web申込に対する利用者のプラス評価を図書館員が実感しているという結果になった。その理由としては「時間と場所を問わずに申込が可能になった」が36件、「検索結果の切り貼り等が可能で時間が短縮した」が13件などとなっており、全体に利便性の向上が挙げられていた。

また、「変わらない」と回答のあった8館（8.5%）の理由としては、「図書館のPR不足」が挙げられていた。図書館側が利用案内を積極的に行うことで利用が増えれば満足度はさらに高くなると考えられる。

満足度について利用者にアンケート調査を実施した図書館はなく、いずれも図書館員の感想であることを付記しておく。

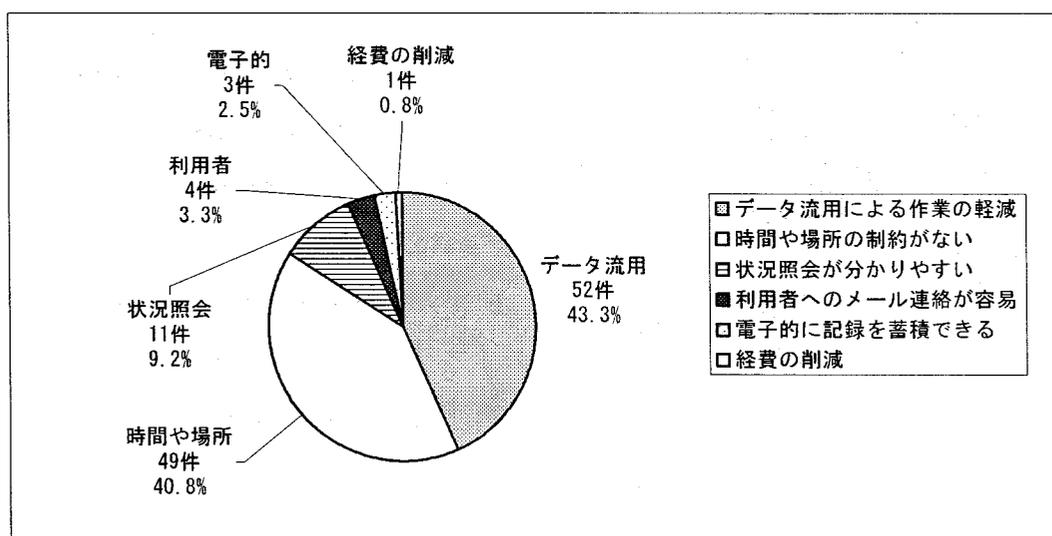
質問15：web申込の長所と短所について感じていることをお書きください。

(1) 長所について

表III-12 web申込の長所について

web申込の長所	件数
データ流用による作業の軽減	52

時間や場所の制約がない	49
状況照会が分かりやすい	11
利用者へのメール連絡が容易	4
電子的に記録を蓄積できる	3
経費の削減	1
総計	120



図III-29 web申込の長所について

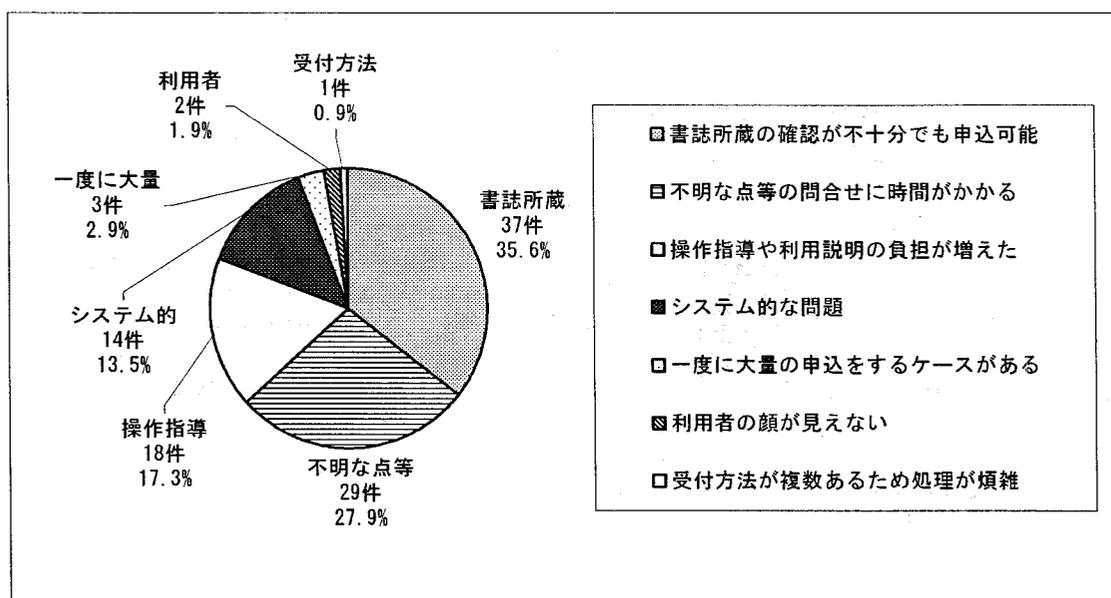
web申込の長所について、自由記述による回答から主な内容を要約し、分類して件数を集計した。長所の一位は「データ流用による作業軽減」が52件（43.3%）であった。これは利用者と図書館員の双方で長所となっている。データ流用により利用者は申込の手間が軽減され、図書館員は記述内容の判読が容易になる等、確認作業の省力化となった。次は「時間や場所の制約がない」の49件（40.8%）で、「データ流用による作業軽減」と並び長所の上位となっている。来館せずに閉館時間であっても相互貸借申込ができるというメリットは大きいといえる。

(2) 短所について

表III-13 web申込の短所について

web申込の短所	件数
書誌所蔵の確認が不十分でも申込可能	37
不明な点等の問合せに時間がかかる	29

操作指導や利用説明の負担が増えた	18
システム的な問題	14
一度に大量の申込をするケースがある	3
利用者の顔が見えない	2
受付方法が複数あるため処理が煩雑	1
総計	104



図III-30 web申込の短所について

web申込の短所について、長所と同様に自由記述による回答から主な内容を要約し、分類して件数を集計した。短所の一位は「書誌所蔵の確認が不十分でも申込可能」が37件（35.6%）であった。窓口対応がないため即時に内容確認ができず、内容が不十分でも申込ができてしまうことが短所として最も多く挙げられた結果となった。次は「不明な点等の問合せに時間がかかる」の29件（27.9%）で、窓口とは違い利用者とのコミュニケーション不足から利用者の細かい要望が伝わりにくいこと、メールや電話でのやりとりが必要となり時間がかかる場合があることなどが挙げられた。続いては「操作指導や利用説明の負担が増えた」の18件（17.3%）で、基本的な操作の他、データベース等により全文閲覧が可能であった場合、その操作方法を直接対面して教えることができないため説明に手間がかかることなども挙げられた。更に「システム的な問題」の14件（13.5%）については、システムの停止やその対応、複数申込をする場合に入力が面倒であることなどが挙げられた。

質問16：どのようなweb申込が便利だと思われますか。

今後期待するweb申込のイメージなどがありましたらお書きください。

自由回答で得られた103件の意見を大きく7つに分類したところ、意見の多い順に「データの連携機能」「申込の必要性チェック機能」「問い合わせ・通知機能」「他のシステムとの協力が必要なもの」「申込記録」「関連事項」「その他」となった。

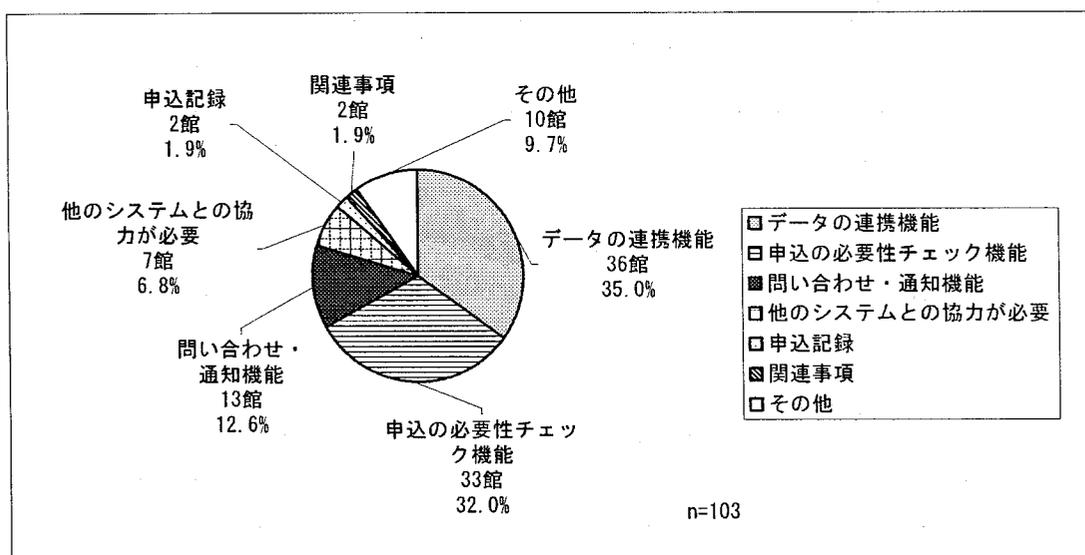


図 III-31 web 申込に期待すること

表 III-14 web 申込に期待すること

分類	件数
1. データの連携機能	
各種データベースからのデータの連携機能	35
web からのデータの連携機能	1
	計 36
2. 申込の必要性チェック機能	
自館 OPAC、電子ジャーナルのチェック機能	25
重複申込のチェック機能	2
web 自動検索機能	6
	計 33
3. 問い合わせ・通知機能	

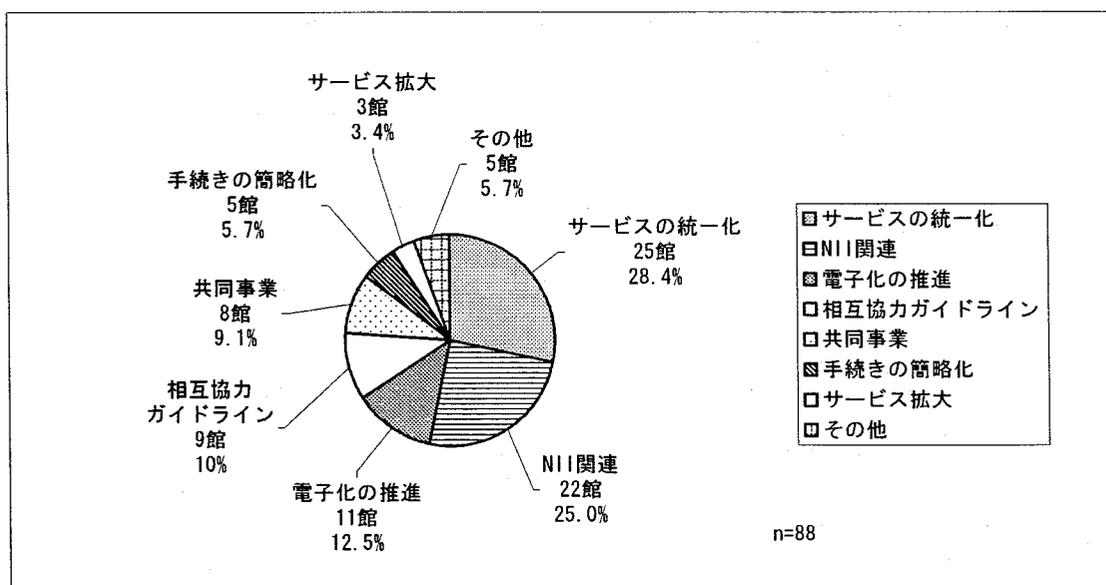
申込受付完了通知	3
キャンセル通知	1
文献到着通知	5
申込者との詳細なやりとりが可能なもの	4
	計 13
4. 他のシステムとの協力が必要	
利用者がダイレクトに所蔵館へオーダー	2
利用者との料金決済の簡略化	3
大学以外の場所での受取・返却	2
	計 7
5. 申込記録	
申込の控えが申込者側に残ること	2
	計 2
6. 関連事項	
図書・雑誌の電子化	1
文献ファイルをメール添付	1
	計 2
7. その他	
新規申込を知らせるアラート機能	1
典拠となった web ページとのリンク	1
「繰り返し」機能	1
買物カゴ	1
文献到着予定日の表示	1
動向分析が可能なこと	1
紹介状や閲覧願いの申込機能	2
関連情報の提示	2
	計 10

文献データベースからの書誌事項の取り込みなど各種データベースからのデータの連携機能に対する希望は最も多く 35 件 (34.0%)、次が web 申込をする前に自館 OPAC や電子ジャーナルをチェックする機能への希望 25 件 (24.3%) であった。また web 申込の申込受付完了通知、キャンセル通知、文献到着通知など、問い合わせ・通知機能が整備されているシステムを希望という声も挙げられた。この中には「申込者との詳細なやりとりが可能なもの」という意見が 4 件あったが、カウンターでの直接申込と違い、インタビューをする機会のない web 申込ならではの要望といえるだろう。

以上の要望のうち、既にシステムベースの開発で実現されているものもあれば、リンクリゾルバの導入など自館の対応で可能なものもある。これら現場の声が活かされたよりよい web 申込システムの登場が今後期待される。

質問 17：今後の大学図書館間の相互協力のあり方について、お考えがありましたら  
ご自由にお書きください。

自由回答で得られた88件の意見を大きく8つに分類したところ、意見の多い順に「サービスの統一化」「NII関連」「電子化の推進」「相互協力ガイドラインの必要性」「共同事業」「手続きの簡略化」「サービスの拡大」「その他」となった。



図III-32 大学図書館間相互協力に対する意見

表 III-15 大学図書館間相互協力に対する意見

分類	件数
1. サービスの統一化	13
複写料金・送料の均一化	
料金決済方法	
現物貸借の利用期間の統一	
現物貸借資料の館外利用・複写を可能に	
現物貸借の利用制限廃止・文献複写依頼件数制限の廃止	
その他	
	計 25

2. NII 関連	
NII の活用	3
NII 相殺制度	11
NACSIS Webcat への全所蔵登録及び公開	1
NII Webcat への電子ジャーナル所蔵登録推進	2
NACSIS-ILL サービス可否の明示および利用不可能状況の改善	3
NII による依頼館の振り分け	2
	計 22
3. 電子化の推進	
電子媒体の ILL サービス推進	6
学術論文・紀要・貴重書の電子化	5
	計 11
4. 相互協力ガイドラインの必要性	
依頼マナー	5
電子ジャーナル対応	4
	計 9
5. 共同事業	
分担収集・分担保存	4
各館 OPAC への横断検索システム	1
リソースの共有化	1
文献共同オンデマンド方式	1
日本全国の大学図書館を自由に利用できるシステムの構築	1
	計 8
6. 手続きの簡略化	
直接閲覧時の紹介状廃止	3
テーマの提示による直接閲覧を可能に	1
所蔵確認を FAX ではなくメールで	1
	計 5
7. サービスの拡大	
料金のカード払い・文献の自宅送付	1
ILL 対応・新メール便の提唱	1
図書館を介さず ILL 依頼・直接閲覧	1
	計 3
8. その他	
研究会・勉強会の必要性	5
(ILL 担当者同士の情報交換の場の必要性)	
	計 5

### (1) サービスの統一化

複写料金・送料の均一化への要望は最も多く挙げられ 13 件 (全体の 14.8%) であった。また「紀要など自分の大学の刊行物の複写は安くしてほしい」「現物貸借に関して、利用期間を統一してほしい」「現物貸借資料の館外利用や複写を可能にしてほしい」といった声も複数件挙げられた。

### (2) NII 関連

相殺制度に対しては 11 件の意見が挙げられたが、内訳を見ると、賛成が 8 件、反対が 1 件、非相殺館にも門戸を開いて欲しいという声も 2 件であった。相殺に参加するには運営費を支払わなくてはならないことがまず相互貸借申込の少ない図書館にとっては負担となる。逆に相殺に参加することで受付件数の増加が見込まれ、相互貸借受付の多い図書館としては二の足を踏む。そのような状況を考えると、相殺に参加する・しないは各館の判断にゆだねてしかるべきだが、相殺に参加しない場合申込を謝絶されるケースがある。非相殺館にも門戸を開いた相互協力が望まれる。

### (1) 電子化の推進

電子化が進む今日では DDS (ドキュメント・デリバリー・システム) といった文献送付方法を取り入れている図書館も徐々に増えてきた。DDS には早い、送料がいない、ペーパーレスといったメリットがある。今後は著作権をクリアして電子媒体を PDF 文書で送るといった送付方法が更に多くの図書館で取り入れられていくことが予想される。

また、学術論文、紀要、貴重書の電子化を推進しようという意見も挙げられた。特に紀要は電子化して CiNii に掲載することによってお互いに利便性を高めていこうという動きが近年強まっている。

### (4) 相互協力ガイドラインの必要性

依頼マナーだけでなく電子ジャーナルや著作権をも視野に入れた、時代を踏まえた相互協力ガイドラインを期待する声も挙げられた。

### (5) 共同事業

分担収集・分担保存の声がまず挙げられた。分野や地域によっては既に分担収集・分担保存をしている図書館もあるが、予算の削減と洋雑誌の値上がり傾向をみると今後は大学図書館全体での分担収集・分担保存の必要性が発生するかもしれない。

また、「電子資料というリソースを共有化しよう」という意見や、「共同目録システムのように、『文献そのもの』を共有ファイルとしてサーバー上に置いておき、依頼した各館がそこにアクセスしてダウンロード、プリントアウトするというようなオンデマンド方式に

なると良いと思う」という意見も挙げられた。

全国レベルで分担収集・分担保存を行い、電子資料を共有化し、オンデマンド方式で文献を取り出す、一枚の図書館カードを持ってさえいれば全国どこの大学図書館でも自由にサービスを受けられる、そのような時代を期待する声が挙げられた。

#### (6) 手続きの簡略化

紹介状の廃止や、所蔵確認を FAX ではなくメールで行いたいという意見が挙げられた。直接閲覧や所蔵確認といった部分でも簡略化や利便性の向上が求められている。

#### (7) サービスの拡大

利用者がダイレクトに所蔵館へオーダーできるシステムへの要望が複数件挙げられた。そこには図書館間相互貸借という ILL (図書館間相互協力) の本来の意味はなく、いいかげんな書誌事項の申込で相互貸借依頼受付館の負担が更に増えることが予想される。商業的な文献デリバリーサービスと ILL とは違うのか、基本に帰って考えたい。

#### (8) その他

研究会・勉強会の必要性や相互貸借業務担当者同士のコミュニケーション・情報交換の場の必要性に対する意見が挙げられた。そういう場として相互協力研究分科会がなれば良いと考えている。

## 第2章

相互貸借、特に利用者からのオンライン申込に関するアンケート

### 資料編



6. それは「MyLibrary」などのweb個人ポータル機能と連動したパッケージですか。

A はい B いいえ

Bの場合、申込フォームについてお答えください。

A 専用フォームあり B e-mailソフトが開く

7. web申込の方法についてお答えください。

A 学内LANを通じて B インターネットを通じて

8. 文献データベースと連携して書誌事項を取り込む機能を有していますか。

A はい B いいえ

Aの場合は文献データベース名をお書きください。( )

9. 申込方法のおおよその比率をお答えください。

web申込.....( )%

カウンターでの直接申込.....( )%

その他の申込(FAXなど).....( )%

10. web申込を始めたことにより申込件数に増減はありましたか。

A 増加した B 減少した C かわらない

具体的に比率等がわかっている場合には下欄にご記入ください。

また、増減の原因は何だと思えますか。

便利だから、直接申込がweb申込に移行しただけだから、などご自由にお書きください。

[ ]

11. 利用者に対し、1回もしくは1日あたりのweb申込の件数制限をしていますか。

A はい B いいえ

Aの場合何件までですか。( )

12. web申込を始めたことにより、利用者への申込キャンセル比率に増減はありましたか。

A 増加した B 減少した C かわらない

13. web申込の際の、利用者に対する主な申込キャンセル理由に○をつけてください。

○はいくつでも結構です。また特に多い理由がある場合には◎をつけてください。

A 学内に所蔵あり B 電子ジャーナルで入手可 C 国内(外)入手不可  
D 参照不完 E 最新号のため複写不可 F 申込ボタンの二度押し等操作ミス  
G その他 ( )

14. web申込に対する利用者の満足度についてどう捉えていますか。

A 満足 B おおむね満足 C 変わらない  
D やや不満 E 不満

その理由についてお書きください。

[ ]

15. web申込の長所と短所について感じていることをお書きください。

長所:

短所:

[ ]

16. どのようなweb申込が便利だと思われますか。  
今後期待するweb申込のイメージなどがありましたらお書きください。

[ ]

17. 今後の大学図書館間の相互協力のあり方について、お考えがありましたらご自由にお書きください。

[ ]

★ご協力どうもありがとうございました。

2007年6月8日

私立大学図書館協会東地区部会加盟図書館 御中

私立大学図書館協会東地区部会研究部  
相互協力研究分科会

第14期 代表 清水 ゆかり

杏林大学医学図書館

〒181-8611 東京都三鷹市新川 6-20-2

TEL : 0422-47-5511 (内線) 3321

FAX : 0422-40-7281

E-MAIL : yukari@lib.kyorin-u.ac.jp

相互貸借、特に利用者からのオンライン申込に関するアンケートのお願い (依頼)

拝 啓

平素は、ひとかたならぬ御世話を賜り、厚く御礼申し上げます。

当私立大学図書館協会東地区部会研究部相互協力研究分科会では、「図書館のホームページから見た相互貸借業務分析」をテーマに今年度の活動を行っております。

インターネットなくして大学図書館サービスはあり得ない今日、相互貸借業務もまた大きな変貌を遂げています。郵送で文献複写依頼をしていた時代から、FAX への移行、そしてNACSIS-ILLの登場。また近年では相互貸借系の業務のみならず、利用者が申し込む際の方法にまでインターネットは大きな影響を与えるようになりました。このような変化を踏まえ、インターネットが相互貸借業務に与える影響を、利用者からの相互貸借オンライン申込という観点から探してみたいと思います。

本アンケートは、私立大学図書館協会東地区部会加盟図書館における相互貸借の申込方法について現状を把握することを目的とし、この調査結果をもって、これからの時代に即した相互貸借サービスの理想的なあり方を見出す基礎データのひとつにしたいと考えております。

つきましては、各大学図書館様のご協力を賜りたく、アンケートへの回答をお願いする次第です。

ご多用中のところ大変恐縮ではございますが、7月9日(月)(消印有効)までにご返送を賜りたくよろしくお願い申し上げます。

なお、当アンケートにご協力いただきました大学図書館様には、後日集計結果をご送付させていただきます。ご予定でございます。

敬 具

回答集 アンケート1枚目																
整理番号	質問1		質問2 図書館システム				質問2 相互貸借システム			質問3	質問4	質問5				回答用紙1枚目備考
	1	Eの記述	導入年	名称(訂正済)	メーカー名称	導入年	名称(訂正済)	メーカー名称	5			web申込開始	web申込を導入していない理由		導入予定	
1	A		1990	CALIS	京セラ丸善システムインテグレーション	2003	無効	無効	A	B	A	2001年				
2	B		2007	LIMEDIO	リコー	2007	LIMEDIO	リコー	A	B	B		経費や近隣の大学なら行くかなど、直接利用者の確認をとりながら受付した方が、確実に効率的な為	はい		
3	C		2002	LINUS/NC	日本電子計算	2002	LINUS/NC	日本電子計算	A	A	A	2002年10月				
4	B		2006	iLiswave	富士通	2006	iLiswave	富士通	A	B	A	2006年4月				
5	A		2005	LIMEDIO	リコー	2005	LIMEDIO	リコー	A	B	A	2006年4月				
6	B		2002	LIMEDIO	リコー	2002	LIMEDIO	リコー	B	B	B		図書館の利用に限らず、オンライン申込の習慣や十分な環境・知識が利用者側にないため。また、利用者からの要望がないため。	いいえ		
10	B		2004	LINUS/NC	日本電子計算	2004	LINUS/NC	日本電子計算	B	B	B		窓口なら申込書記入の不備などをその場で確認し、即解決できるが、web申込を導入するとレスポンスが煩雑になる、処理方法が2通りになることで事務的負担が増える、といった事態を避けるため	いいえ		
12	C		1998	iLiswave	富士通	1998	iLiswave	富士通	B	A	B		主に、システム・予算関係で現在対応不可	はい		
13	B		1998	CARIN	京セラ丸善システムインテグレーション	2001	CARIN	京セラ丸善システムインテグレーション	B	B	B			いいえ		
14	B		2002	LVZ	新日鉄ソリューションズ (IBM)	2007	LVZ	新日鉄ソリューションズ (IBM)	B	B	A	2005年10月				
15	C		無回答	無回答	無回答	無回答	無回答	無回答	B	B	B			いいえ		
16	E	体育系	2001	CARIN	京セラ丸善システムインテグレーション	2004	CARIN	京セラ丸善システムインテグレーション	A	A	A	2004年7月				
17	A		1995	CALIS	京セラ丸善システムインテグレーション	なし	なし	なし	B	B	A	2006年7月		5:専任教職員のみ		
18	A		2004	iLiswave	富士通	2004	iLiswave	富士通	A	A	B		現在検討中	はい		
19	B		2003	Enilib III	新日鉄ソリューションズ	2003	Enilib III		A	B	A	2003年4月				
20	B		2002	iLiswave	富士通	2002	iLiswave	富士通	A	B	A	2002年12月		3.5.OPAC内に有 (但し、学内LANのみ利用)		
21	A		2003	iLiswave	富士通	2003	iLiswave	富士通	B	B	A	2004年10月		5:教職員のみ		
22	B		1993	情報館	ブレインテック	2001	BT-CATP	ブレインテック	B	B	B			いいえ		
23	A		2003	LIMEDIO	リコー	2005	LIMEDIO	リコー	A	A	A		現在、Eメールでの申し込みを行っており、今後段階的に導入したい	はい		
24	A		2004	E-catsLibrary	日本電気	2004	E-catsLibrary	日本電気	A	B	B			いいえ		
25	A		2002	iLiswave	富士通	2002	iLiswave	富士通	B	B	B			はい		
26	B		2005	iLiswave	富士通	無回答	無回答	無回答	A	B	B		相互貸借は原則行わないことになっているため	いいえ		
27	A		2004	E-catsLibrary	日本電気	2004	E-catsLibrary	日本電気	A	A	A	2004年9月				
28	A		1987	情報館	ブレインテック	なし	なし	なし	B	B	B		特にないが対応が遅れている	はい		
29	B		2005	E-catsLibrary	日本電気	無回答	無回答	無回答	B	B	B		業務体制が整っていないため	いいえ		
31	A		2001	iLiswave	富士通	2001	iLiswave	富士通	A	A	A	2006年11月				
32	C		1990	情報館	ブレインテック	1998	BT-CATP	ブレインテック	B	B	B		BT CAT/ILLのソフトと連動できるweb版ソフトがあれば導入予定。	はい		
33	B		2000	LICSU/21	日本電気	1995	LICSU/21	日本電気	B	B	B		利用者の書誌事項、論文情報の理解度が低いため。システム上の問題	いいえ		
34	B		1996	CALIS	京セラ丸善システムインテグレーション	なし	なし	なし	B	B	B					
35	B		1999	LIMEDIO	リコー	2001	LIMEDIO	リコー	A	B	A	2003年4月				
37	A		1999	LIMEDIO	リコー	2000	無効	無効	A	B	A	2005年				
38	E	芸術系	1986	情報館	ブレインテック	なし	なし	なし	B	B	B		特になし			
39	B		2004	LVZ	新日鉄ソリューションズ (IBM)	2004	LVZ	新日鉄ソリューションズ (IBM)	B	B	B		申し込みには情報の不十分・不確かなものがあり、その場合web申込では、担当者からの不明事項についての質問や申込者の回答が申し込み時に直接すぐできず、不便なため。	いいえ		
40	A		無回答	無回答	無回答	無回答	無回答	無回答	B	B	B			いいえ		
41	A		1999	iLiswave	富士通	1999	iLiswave	富士通	B	B	B		導入に向けて調整中です。	はい		
42	D		2003	LIMEDIO	リコー	2003	LIMEDIO	リコー	B	B	A	2003年				
43	B		1997	情報館	ブレインテック	2002	BT-CATP	ブレインテック	B	B	B		現在使用しているシステムが未対応のため	いいえ		
44	A		2007	UNIPROVE/LS	日立製作所	2007	UNIPROVE/LS	日立製作所	A	B	A	2007年4月				
45	B		1995	情報館	ブレインテック	無回答	無回答	無回答	B	B	B		相互貸借の申し込みが非常に少ないから	いいえ		
46	B		2004	オリジナルシステム	オリジナルシステム	無回答	無回答	無回答	B	B	B		相互貸借を利用していないため	はい		

整理番号	質問1		質問2 図書館システム			質問2 相互貸借システム			質問3	質問4	質問5			回答用紙1枚目備考
	1	Eの記述	導入年	名称(訂正済)	メーカー名称	導入年	名称(訂正済)	メーカー名称			5	web申込開始	web申込を導入していない理由	
47	D		1992	情報館	ブレインテック	2005	BT-CATP	ブレインテック	B	B	A	2005年10月		
48	C		2005	LIMED10	リコー	2005	LIMED10	リコー	A	B	A	2005年9月		
49	A		2002	情報館	ブレインテック	無回答	BT-CATP	ブレインテック	B	B	B			
50	B		1993	情報館	ブレインテック	1997	BT-CATP	ブレインテック	B	B	B			
51	A		2000	情報館	ブレインテック	なし	なし	なし	B	B	B		今のところ必要とされる状況ではないため	いいえ
52	B		1995	CALIS	京セラ丸善システムインテグレーション	無回答	UIP	NII	A	B	B		レファレンス担当が相互貸借も行っているため、人的援助、コミュニケーションの中で書誌から目録へという手順を経て申し込みを行っているため。利用者側からは選択の余地が良いかも。	いいえ
53	E	芸術系	1997	UNIPROVE/LS	日立製作所	無回答	無回答	無回答	A	B	B			3:自分の貸出状況・予約状況がわかる機能のみ
54	A		2007	iLiswave	富士通	2007	iLiswave	富士通	A	B	A	2004年8月		
55	C		2004	情報館	ブレインテック	なし	なし	なし	B	B	B		別になし	いいえ
57	B		2006	E-catsLibrary	日本電気	2006	E-catsLibrary	日本電気	A	B	A	2006年11月		
58	B		2004	iLiswave	富士通	2004	iLiswave	富士通	B	A	A	1997年10月		
59	D		1993	情報館	ブレインテック	2001	BT-CATP	ブレインテック	B	B	A	2002年4月		3:ただしシステムの『情報館』は、この機能を有していますが、現在は使用していません。
60	A		2004	E-catsLibrary	日本電気	無回答	無回答	無回答	A	B	B			はい
61	B		2006	iLiswave	富士通	2006	iLiswave	富士通	A	A	B		経理上の問題のため	はい
62	A		1989	CALIS	京セラ丸善システムインテグレーション	2005	MILAGRO	MBA	B	B	B		書誌事項、所蔵をきちんと確認せずに申し込む利用者が多くなると予想され業務が煩雑になることが懸念されるため	5:導入は未定
63	B		1994	情報館	ブレインテック	無回答	無回答	無回答	B	B	B		図書館システムのバージョンアップすら出来ない予算不足	いいえ
64	D		2004	iLiswave	富士通	2007	iLiswave	富士通	A	B	A	2007年1月		
65	A		2001	LINUS/NC	日本電子計算	2001	LINUS/NC	日本電子計算	A	B	A	2001年11月		
66	B		2001	LOOKS21/P	日立製作所(公共向け)	2001	LOOKS21/P	日立製作所(公共向け)	A	B	B		システム上、足りない点が多く、導入すると業務上の手間が増えると考えられるので。	いいえ
67	A		2002	iLiswave	富士通	なし	なし	なし	B	B	B			いいえ
68	B		2003	LIMED10	リコー	2003	LIMED10	リコー	A	A	A	2007年4月		
69	E	芸術系	2003	CARIN	京セラ丸善システムインテグレーション	無回答	無回答	無回答	B	B	B			いいえ
72	D		2006	LVZ	新日鉄ソリューションズ(IBM)	2006	LVZ	新日鉄ソリューションズ(IBM)	B	B	B		システムが整っていない	
73	B		2003	LIMED10	リコー	2004	LIMED10	リコー	A	B	A	2007年4月		
74	B		1998	UNIPROVE/LS	日立製作所	なし	なし	なし	B	B	B			
75	D		1995	情報館	ブレインテック	1995	BT-CATP	ブレインテック	B	B	B			
76	B		1998	LIMED10	リコー	1998	LIMED10	リコー	B	B	B		一部教員にIDパスワード付与の上、学内端末で申し込み、暫定試行中。	はい
77	D		1996	LIMED10	リコー	1997	LIMED10	リコー	A	A	A	2007年4月		
78	A		2003	NeoCILIUS	日本事務器	2003	NeoCILIUS	日本事務器	A	B	B		現段階では、利用者に利用方法等を徹底させるのが難しいと思われるのと紙媒体だけの方が、総体的に業務の負荷が少なく円滑な相互貸借を運用できると判断しているため。	5:図書館システム変更の場合は導入検討予定
79	B		2001	iLiswave	富士通	無回答	無回答	無回答	B	B	B		館長の許可が必要となり、公印入りの書類が必要となるため	いいえ
80	B		無回答	ILAS	大阪伊藤伊新社	無回答	無回答	無回答	B	B	B			いいえ
81	B		2000	LIMED10	リコー	2001	LIMED10	リコー	A	B	B		相互貸借の件数がそれほど多くなく、特に利用者から要望もないため。利用者のweb予約本の動向をみていると、相互貸借の相手館に対し失礼ともなりかねないため。	いいえ
82	E	体育系	1998	情報館	ブレインテック	2003	BT-CATP	ブレインテック	B	B	B			
83	B		2005	LIMED10	リコー	2005	LIMED10	リコー	B	B	B			はい
84	B		2003	LIMED10	リコー	2004	LIMED10	リコー	A	B	B		人手不足のため。	いいえ
85	A		1997	情報館	ブレインテック	1997	BT-CATP	ブレインテック	B	B	A	2007年3月		
87	D		2006	CARIN	京セラ丸善システムインテグレーション	2006	CARIN	京セラ丸善システムインテグレーション	A	B	A	2003年1月		2:まだ相互貸借の部分については本移動していない(考慮せず) 5:CARINのシステムではなく独自のwebフォームについて回答します。
88	B		2002	LIMED10	リコー	2002	LIMED10	リコー	無回答	B	B		ユーザ管理、費用対効果、システムの完成度等先行事例の状況を見て検討	はい
89	A		2001	NeoCILIUS	日本事務器	2001	NeoCILIUS	日本事務器	A	A	A	2006年9月		
90	B		2002	LIMED10	リコー	2002	LIMED10	リコー	B	B	A			

整理番号	質問1		質問2 図書館システム			質問2 相互貸借システム			質問3	質問4	質問5			回答用紙1枚目備考
	1	Eの記述	導入年	名称(訂正済)	メーカー名称	導入年	名称(訂正済)	メーカー名称			5	web申込開始	web申込を導入していない理由	
92	B		1998	Lib	ソフテック	2001	MILAGRO	MBA	B	B	B		いいえ	
93	B		1998	LIMEDIO	リコー	1995	無効	無効	A	B	B			
94	A		2006	E-catsLibrary	日本電気	2006	E-catsLibrary	日本電気	A	B	B		現在準備中です。	はい
95	A		2004	LIMEDIO	リコー	2004	LIMEDIO	リコー	A	B	B			いいえ
96	E	芸術系	1984	情報館	ブレインテック	無回答	無回答	無回答	B	B	B		人員不足のため	いいえ
97	B		2002	CALIS	京セラ丸善システムインテグレーション	2002	iLiswave	富士通	B	B	A	2006年		
98	D		1998	CALIS	京セラ丸善システムインテグレーション	1995	MILAGRO	MBA	B	B	A	2006年10月		
99	A		2001	LIMEDIO	リコー	2001	LIMEDIO	リコー	A	B	A	2001年10月		
100	D		2005	情報館	ブレインテック	2005	情報館	ブレインテック	A	B	B		「情報館AL」システムの機能としてまだ未開発であるため。現在開発中とのこと。	はい
101	B		1999	LOOKS21/P	日立製作所(公共向け)	2006	LOOKS21/P	日立製作所(公共向け)	B	A	B		次期システムで対応予定	はい
102	D		2004	LVZ	新日鉄ソリューションズ(IBM)	2004	LVZ	新日鉄ソリューションズ(IBM)	A	B	A	2006年4月		
103	A		2007	UNIPROVE/LS	日立製作所	2007	UNIPROVE/LS	日立製作所	A	B	A	2007年4月		
104	C		無回答	LIMEDIO	リコー	無回答	LIMEDIO	リコー	A	B	A	2007年4月		
105	E	芸術系	2004	E-catsLibrary	日本電気	2001	無効	無効	B	B	B			
106	C		2005	E-catsLibrary	日本電気	2005	E-catsLibrary	日本電気	A	B	A	2005年9月		5:教員のみ利用可
107	A		2006	iLiswave	富士通	2006	iLiswave	富士通	B	B	B			3:利用できるようにはしていない
108	B		2005	UNIPROVE/LS	日立製作所	2005	UNIPROVE/LS	日立製作所	A	B	A	2005年9月		2:2001年7月より自館作成システムを申込のみ運用。
109	D		1997	LIMEDIO	リコー	1997	LIMEDIO	リコー	A	B	A	1998年4月		
111	B		2003	iLiswave	富士通	2003	iLiswave	富士通	B	B	B		特にありません。	いいえ
113	A		2006	E-catsLibrary	日本電気	2006	E-catsLibrary	日本電気	B	B	B			
114	A		1998	INNOPAC	Innovative Interfaces Inc	無回答	UIP	NII	A	A	A	2006年4月		
115	A		なし	なし	なし	なし	なし	なし	B	B	B		本学の図書館システムがNACSIS ILLに接続していないため相互貸借サービスを利用者に対して、積極的にアピールしていない。	
116	B		2004	iLiswave	富士通	2004	iLiswave	富士通	A	B	A	2004年4月		
117	B		1997	ELISE	キハラ	なし	なし	なし	B	B	B		ありません	いいえ
118	B		2003	LIMEDIO	リコー	無回答	無回答	無回答	A	B	A	2007年4月		
119	D		2004	LVZ	新日鉄ソリューションズ(IBM)	2004	LVZ	新日鉄ソリューションズ(IBM)	A	A	A	2004年6月		
120	D		1997	LX	大阪伊藤伊新	2001	SUPER HABIL	MBA	B	A	A	2001年3月		
121	A		2000	iLiswave	富士通	2000	iLiswave	富士通	B	B	A	2004年1月		
122	A		1999	情報館	ブレインテック	なし	なし	なし	B	B	B			
123	A		無回答	CARIN	京セラ丸善システムインテグレーション	無回答	CARIN	京セラ丸善システムインテグレーション	A	A	B			はい
124	D		2007	NeoCILIUS	日本事務器	2007	NeoCILIUS	日本事務器	A	B	A	2007年5月		
125	A		2003	iLiswave	富士通	2004	iLiswave	富士通	B	A	A	2003年4月		3:貸出・予約・相互貸借の機能はあり(使用していない)
126	A		2003	UNIPROVE/LS	日立製作所	2003	UNIPROVE/LS	日立製作所	A	A	A	2006年9月		3:教職員のみ(学内のみ)。その他、個人ポータル機能とは言えないかもしれないが、利用者は図書館館内の特定の端末で、貸出・予約状況の確認が可能。
127	A		2006	LIMEDIO	リコー	2006	LIMEDIO	リコー	A	A	A	2007年6月		
128	D		2004	LIMEDIO	リコー	2004	LIMEDIO	リコー	A	B	A	2004年4月		
130	A		2004	iLiswave	富士通	2004	iLiswave	富士通	A	B	B		9月に導入を予定しています。只今検討中です。	
131	A		2001	iLiswave	富士通	2002	iLiswave	富士通	A	A	B			いいえ
132	E	芸術系	無回答	LIMEDIO	リコー	無回答	LIMEDIO	リコー	B	B	B		特別な理由はありません。将来的に導入できればと考えています。	いいえ
133	A		2006	UNIPROVE/LS	日立製作所	2006	UNIPROVE/LS	日立製作所	A	A	A	2006年12月		
134	B		2003	情報館	ブレインテック	2003	BT-CATP	ブレインテック	A	B	B			はい
135	C		2004	iLiswave	富士通	2004	iLiswave	富士通	B	B	A	2003年		
136	B		2004	NeoCILIUS	日本事務器	2004	NeoCILIUS	日本事務器	B	B	B			いいえ
137	C		無回答	iLiswave	富士通	なし	なし	なし	B	A	B			
138	B		1999	iLiswave	富士通	1999	iLiswave	富士通	A	B	A	2003年9月		
139	B		2006	E-catsLibrary	日本電気	2006	E-catsLibrary	日本電気	A	B	A	2006年4月		
140	D		1992	情報館	ブレインテック	2001	BT-CATP	ブレインテック	A	B	A	2004年8月		
141	D		1994	情報館	ブレインテック	2004	BT-CATP	ブレインテック	B	B	B			いいえ

整理 番号	質問1		質問2 図書館システム			質問2 相互貸借システム			質問3	質問4	質問5				回答用紙1枚目備考
	1	Eの記述	導入年	名称(訂正済)	メーカー名称	導入年	名称(訂正済)	メーカー名称			5	web申込開始	web申込を導入していない理由		
142	A		1993	iLiswave	富士通	2003	iLiswave	富士通	B	B	B			いいえ	
145	A		2006	iLiswave	富士通	2006	iLiswave	富士通	A	B	B		相互貸借に限らず、オンライン申込サービスを導入していない。学内LAN、学生向けポータル、メールアドレスの配布が整備されていないので。		5. 具体的な導入予定はないが、導入する方向では考えて行く。
146	A		1999	iLiswave	富士通	1999	iLiswave	富士通	B	B	B		大学(校舎)の規模が小さく 同じ建物に研究室と図書館があるため。	いいえ	
147	A		2005	NeoCIL IUS	日本事務器	2007	NeoCIL IUS	日本事務器	A	B	A	2007年4月			
149	B		1999	LIMEDIO	リコー	2003	LIMEDIO	リコー	A	A	A	2003年11月			
150	B		1996	LIMEDIO	リコー	1996	LIMEDIO	リコー	A	B	A	2006年9月			
151	A		2005	情報館	ブレインテック	2005	情報館	ブレインテック	B	B	B			いいえ	
152	A		1995	情報館	ブレインテック	1999	BT-CATP	ブレインテック	B	B	A	2005年9月			
153	B		1985	CALIS	京セラ丸善システムインテグレーション	2005	SUPER HABIL	MBA	A	B	A	2005年4月			
154	B		1995	CALIS	京セラ丸善システムインテグレーション	2001	iLiswave	富士通	B	B	B		システム上の問題	はい	
155	C		2004	iLiswave	富士通	無回答	無回答	無回答	A	A	B			いいえ	
156	B		2006	E-catsLibrary	日本電気	2006	E-catsLibrary	日本電気	A	B	B			はい	
157	A		2003	iLiswave	富士通	2003	無回答	無回答	A	A	B			はい	
158	B		1993	情報館	ブレインテック	1993	情報館	ブレインテック	B	B	B			いいえ	
159	C		1991	iLiswave	富士通	1992	iLiswave	富士通	A	A	B		近々導入予定。当館の仕様に合わせるべく現在準備中	はい	
160	A		2004	iLiswave	富士通	2004	iLiswave	富士通	A	B	B				
161	D		2002	情報館	ブレインテック	2002	無効	無効	B	B	B			いいえ	
162	A		2003	CARIN	京セラ丸善システムインテグレーション	2003	CARIN	京セラ丸善システムインテグレーション	A	B	B			いいえ	
163	D		2000	LIMEDIO	リコー	2005	無効	無効	A	A	A	2000年9月			
165	B		2002	CARIN	京セラ丸善システムインテグレーション	2004	CARIN	京セラ丸善システムインテグレーション	A	B	A	2004年12月			
166	B		2004	iLiswave	富士通	1996	無効	無効	B	A	A	2000年11月			
167	A		1998	情報館	ブレインテック	2001	BT-CATP	ブレインテック	B	B	A	2005年4月			
168	A		2007	E-catsLibrary	日本電気	2007	E-catsLibrary	日本電気	A	B	A	2004年4月			5. 教職員のみをサービス対象としてスタートした。2007年4月より新システム導入にあわせて、大学院生にもサービスを拡大した。
169	A		2005	E-catsLibrary	日本電気	2005	E-catsLibrary	日本電気	A	B	B		安易な申込み増加への不安。書誌事項の不備による事務の負担増への不安	はい	
170	B		2002	NeoCIL IUS	日本事務器	2002	NeoCIL IUS	日本事務器	B	B	B		少ない職員数での管理が難しいため		5. 検討中
171	B		2007	情報館	ブレインテック	無回答	無回答	無回答	B	B	B		環境(PC etc)が整っていないことと、図書館員の研究不足のため。新システムによる機能はデータベースが完成しだい、いろいろ試す予定です。	いいえ	2. 旧システムが大学図書館向けでなく、司書の立場でのデータ入力が行われていなかったため。現在全資料を現物でチェックしながらデータベースを作成中。PCによる貸出業務等は2年後を予定。
172	A		2004	NeoCIL IUS	日本事務器	2004	NeoCIL IUS	日本事務器	A	A	B		NIJの相殺サービス導入に伴う業務量急増への対応のため保留中	いいえ	
173	B		無回答	情報館	ブレインテック	無回答	無効	無効	B	B	B			いいえ	
174	E	芸術系	2005	NeoCIL IUS	日本事務器	なし	なし	なし	A	B	B		結局インタビューして、何を要求しているのか、聞き出す必要があるため	いいえ	
175	B		2003	LINUS/NC	日本電子計算	無回答	LINUS/NC	日本電子計算	A	A	B			いいえ	
176	A		2001	NeoCIL IUS	日本事務器	無回答	NeoCIL IUS	日本事務器	A	A	B		現在サービス開始に向けて準備中です。	はい	
178	B		1999	LIMEDIO	リコー	1999	LIMEDIO	リコー	B	B	A	2006年8月			
179	A		2005	LVZ	新日鉄ソリューションズ (IBM)	2004	MILAGRO	MBA	A	A	B				
180	B		2000	情報館	ブレインテック	2000	無効	無効	B	B	B				
181	B		2002	LIMEDIO	リコー	2003	LIMEDIO	リコー	A	B	A	2003年4月			
182	B		2006	LVZ	新日鉄ソリューションズ (IBM)	2006	LVZ	新日鉄ソリューションズ (IBM)	B	B	B			いいえ	
183	E	芸術系	2000	iLiswave	富士通	2000	iLiswave	富士通	A	B	B			はい	
184	A		1999	LINUS/NC	日本電子計算	無回答	無回答	無回答	A	B	A	1999年4月			
185	D		2006	iLiswave	富士通	2006	iLiswave	富士通	A	B	A	2007年2月			
186	A		2004	E-catsLibrary	日本電気	2004	E-catsLibrary	日本電気	A	B	A	2004年4月			3. ポータルはないが貸出状況・予約状況・文献依頼状況はわかる
187	A		2006	E-catsLibrary	日本電気	2006	E-catsLibrary	日本電気	A	B	B			はい	
188	B		2005	iLiswave	富士通	2005	iLiswave	富士通	B	B	B		館内の体制が整っていないため	いいえ	

整理番号	質問1		質問2 図書館システム			質問2 相互貸借システム			質問3	質問4	質問5			回答用紙1枚目備考
	1	Eの記述	導入年	名称(訂正済)	メーカー名称	導入年	名称(訂正済)	メーカー名称			5	web申込開始	web申込を導入していない理由	
189	B		1996	CALIS	京セラ丸善システムインテグレーション	2004	MILAGRO	MBA	B	B	B		いいえ	
190	D		1996	ILAS	大阪伊藤伊新社	1997	ILAS	大阪伊藤伊新社	B	B	B			
191	D		1992	情報館	ブレインテック	2003	BT-CATP	ブレインテック	B	B	B		オンライン申込ができるシステムを持っていない。Web OPACが利用できない など。	5B: 現在、システムの変更を検討中です。良いシステムに替えられれば導入するかもしれません。現在は未定です。
192	A		1998	LIMEDIO	リコー	1998	LIMEDIO	リコー	A	B	B		決済方法が学内で確立していないため	はい
193	C		2006	E-catsLibrary	日本電気	2006	E-catsLibrary	日本電気	A	B	A	2002年4月		
194	D		2006	E-catsLibrary	日本電気	2006	E-catsLibrary	日本電気	B	B	A	2001年4月		3. 実際には稼働させていない
195	D		2006	CARIN	京セラ丸善システムインテグレーション	2006	CARIN	京セラ丸善システムインテグレーション	A	B	B		図書館システムにweb申込機能があるが、運用方法、利便性等を検討中	はい
196	B		2001	LIMEDIO	リコー	2001	LIMEDIO	リコー	A	A	A	2003年4月		
197	A		2002	iLiswave	富士通	2002	iLiswave	富士通	A	B	B			はい
198	E		2002	NeoCIL IUS	日本事務器	2002	NeoCIL IUS	日本事務器	A	B	A	2002年9月		
199	B		1989	自館オリジナル	自館オリジナル	1994	MILAGRO	MBA	B	B	B		特になし	いいえ
200	B		1987	CALIS	京セラ丸善システムインテグレーション	2003	UIP	NII	B	B	B		図書館システムが対応していないため	はい
201	A		2006	E-catsLibrary	日本電気	2006	E-catsLibrary	日本電気	A	B	A	2006年10月		
202	C		1998	情報館	ブレインテック	1998	無効	無効	B	B	A	1998年4月		
203	B		2004	iLiswave	富士通	2004	iLiswave	富士通	A	B	B		今後の検討課題です。	
204	B		2003	iLiswave	富士通	2005	iLiswave	富士通	A	B	A	2006年4月		
205	B		無回答	iLiswave	富士通	無回答	iLiswave	富士通	B	B	B			はい
206	D		2003	iLiswave	富士通	2003	iLiswave	富士通	B	B	B		自館OPACが不完全なため。検索速度も遅く、電子ジャーナル所蔵も未登録である。	はい
207	B		2000	LIMEDIO	リコー	2000	LIMEDIO	リコー	A	B	A	2002年10月		
208	A		2003	iLiswave	富士通	2003	iLiswave	富士通	B	B	B		派遣、アルバイトとの共同作業であり、紙媒体の方が手渡し出来るので便利であるから。	いいえ
209	B		1993	情報館	ブレインテック	無回答	BT-CATP	ブレインテック	B	B	B		利用が少ないので、今の所は予定していません。	いいえ
210	D		1990	情報館	ブレインテック	1990	BT-CATP	ブレインテック	B	B	B		特になし	いいえ
211	D		2001	LIMEDIO	リコー	2001	LIMEDIO	リコー	A	A	A	2002年4月		
212	B		2001	NeoCIL IUS	日本事務器	2001	NeoCIL IUS	日本事務器	A	B	A	2003年11月		
213	B		2006	NeoCIL IUS	日本事務器	2006	NeoCIL IUS	日本事務器	A	B	A	2004年10月		5. 教員のみ導入。学生には公開していない。 5. webフォームは2004年10月に始めましたが、マイライブラリは今年6月に始めたばかりです。現在マイライブラリからの申込に誘導中です。
214	B		2005	BLABO	ASEC	2006	MILAGRO	MBA	B	B	B		図書館予算を大幅に削減されており、web申込を導入しても今の職員では対応しきれない。またweb申込できる様システム更新しても現状を考えると当館で利用が有るか疑問である。	いいえ
215	C		2005	UNIPROVE/LS	日立製作所	2005	UNIPROVE/LS	日立製作所	B	B	B			いいえ
216	A		1999	情報館	ブレインテック	1999	BT-CATP	ブレインテック	B	B	B		セキュリティ対応未整備の為	はい
218	B		2002	LIMEDIO	リコー	2002	LIMEDIO	リコー	B	A	B			はい
219	B		2005	E-catsLibrary	日本電気	2005	E-catsLibrary	日本電気	B	B	B		大学ホームページリニューアル準備中のため	いいえ
220	C		2004	UNIPROVE/LS	日立製作所	2004	UNIPROVE/LS	日立製作所	A	B	A	2004年6月		
222	B		2002	iLiswave	富士通	2002	iLiswave	富士通	B	B	B		現在のシステム上では出来ない。	
223	A		2001	iLiswave	富士通	2001	iLiswave	富士通	B	B	A	2004年9月		
224	B		2003	LVZ	新日鉄ソリューションズ (IBM)	2003	LVZ	新日鉄ソリューションズ (IBM)	A	B	A	1999年4月		
225	D		2002	LVZ	新日鉄ソリューションズ (IBM)	2002	LVZ	新日鉄ソリューションズ (IBM)	A	B	B		図書館システムがその機能を有してはいるが、利用していない。システム導入時、事務体制が整っていなかったため、利用していなかった。今後利用できるようにするかは未定。	
226	D		2005	iLiswave	富士通	2005	iLiswave	富士通	B	B	A	2001年6月		
227	C		1998	iLiswave	富士通	2004	iLiswave	富士通	A	B	B		システムをリプレースする時にオンライン申込サービスを行いたいと思っている	はい
228	B		2002	CALIS	京セラ丸善システムインテグレーション	2002	MILAGRO	MBA	A	B	B			
229	D		2004	情報館	ブレインテック	2004	情報館	ブレインテック	A	B	B		運用面(事務上ならびにシステム上)の未検討による	はい
232	B		2004	UNIPROVE/LS	日立製作所	2004	LICSU/21	日本電気	A	B	B			はい
233	B		2003	LIMEDIO	リコー	2003	LIMEDIO	リコー	A	A	A	2004年4月		
234	D		2006	E-catsLibrary	日本電気	2006	E-catsLibrary	日本電気	A	B	A	2007年4月		
235	D		2001	ELISE	キハラ	2001	iLiswave	富士通	B	B	B		システム未対応のため	はい

整理 番号	質問1		質問2 図書館システム			質問2 相互貸借システム			質問3	質問4	質問5				回答用紙1枚目備考
	1	Eの記述	導入年	名称(訂正済)	メーカー名称	導入年	名称(訂正済)	メーカー名称			5	web申込開始	web申込を導入していない理由	導入予定	
236	A		2007	UNIPROVE/LS	日立製作所	2007	UNIPROVE/LS	日立製作所	A	A	A	2004年4月			
237	A		1999	iLiswave	富士通	1999	iLiswave	富士通	A	A	B				
238	B		1992	情報館	ブレインテック	2004	情報館	ブレインテック	B	B	B			いいえ	
239	B		2006	情報館	ブレインテック	2006	情報館	ブレインテック	A	B	B		2006.8月に導入した情報館ALの機能について充分熟知していなく、又、利用者にも周知していないため。今後は導入の検討あり。	はい	
240	D		2001	LINUS/NC	日本電子計算	2001	LINUS/NC	日本電子計算	A	B	A	2002年1月			
241	C		1998	iLiswave	富士通	2000	iLiswave	富士通	A	A	A	2000年11月			3:貸出・予約状況のみ(個人ポータル機能は無い)
242	A		2002	ILAS	大阪伊藤伊新社	2002	ILAS	大阪伊藤伊新社	B	B	B			いいえ	
243	B		1998	KOSMOS II	慶應義塾大学図書館システム	1999	iLiswave	富士通	A	A	A	2004年4月			
244	B		2004	E-catsLibrary	日本電気	なし	なし	なし	B	B	B			いいえ	3:2007後期カットオーバー予定
245	B		2006	E-catsLibrary	日本電気	2006	E-catsLibrary	日本電気	B	B	B			いいえ	
246	C		2002	LIMEDIO	リコー	なし	なし	なし	B	B	B			はい	
247	B		2004	iLiswave	富士通	2004	iLiswave	富士通	B	B	B			いいえ	
248	B		1999	BLABO	ASEC	2003	MILAGRO	MBA	A	B	B		ILLは費用がかかることなので、申込者と直接話をして慎重におこないたい。		
249	D		2000	iLiswave	富士通	なし	なし	なし	B	B	A	1997年4月			
251	B		2005	CARIN	京セラ丸善システムインテグレーション	無回答	無回答	無回答	A	B	B			いいえ	
252	A		2004	iLiswave	富士通	2004	iLiswave	富士通	B	A	A	2003年4月			

回答集 アンケート2枚目													
整理番号	質問6			質問7	質問8			質問9			質問10		回答用紙2枚目備考
	申込	申込・備考			データベース名称	web	カウンター	その他	備考	自由記述			
1	B	A		B	B		96	0	4		C		
2													
3	B	A		A	A	J-Dream II	10	70	20	FAX	C		
4	A			B	A	webCAT	2	95	3		C		
5	A			B	B		10	90	0		C	直接申込がweb申込に移行しただけだから(教員のみ使用可)	
6													
10													
12													
13													
14	B	A		B	A	Web cat	5	85	10		C		
15													
16	A			B	B		40	60	0		A	図書館に来る必要がないから。	
17	B	A		A	B		50	50	0		A		
18													
19	B	A		B	A	NACSIS-CAT	26	73	1		C	増減なしの理由 ILLの申込件数はインターネットが普及するにつれて増加したが、これは学術文献の情報が得やすくなり、相互利用のニーズが増大したためと思われる。Web申込の開始そのものが申込の増加につながったとは考えにくい。	
20	A			A	A	NACSIS-Webcat	2	98	0		C	①利用者による、OPACからの相互貸借申込を受付けているが、申し込みのできる利用者を限定している。(教員と大学院生のみ)その上、OPACの利用は学内LANのみで、学外公開をしていないことが「web申込」率の低さと考える。②実際、文献取り寄せ申込の学生の対応をしている中でレファレンスを行っている、必ずしも入手したい資料が、取り寄せよりも、リクエストやその他の入手方法で、事が足りる時が多々あること。また、一般の学生の判断で取り寄せ申込してもらうには、段階に応じたガイダンス等を頻繁に行う必要があると思われるが、当館の学生への働きかけがそこまで追いつかないということもあります。	
21	B	A		B	A	NII-ILL	無回答	無回答	無回答		A	来館しなくても申し込みが可能	
22													
23	B	A	電話やEメールで対応した後、所定の用紙(データ)を添付ファイルでEメール送信し、受信する方法で行っています。				2	98	0		A	Eメールでの受付により増加した。時間や場所に関係なく申込ができる。	
24													
25													
26													
27	A			B	B		98	2	0		A	申込のために来館する必要がなくなり、便利になったので。	
28													
29													
31	B	A		B	B		50	50	0		C	当館利用者のILL利用数は年々増加傾向にあるが、web申込を始めたことによる増減変化は特にないように思われます。	
32													
33													
34													
35	A			B	A	EBSCO host	53.5	46.5	0	2006年度	A	・DBの充実によって、必要と思われる資料が探しやすくなった事。・検索後、DBからのコピー&ペーストで記述が楽な事。	
37	A			B	A	NII	50	50	0		A	手軽・便利	
38													
39													
40													
41													
42	B	A	B	A	B		50	50	0		C		
43													
44	A			B	A	Webcat	0	100	0		C	まだ利用者がweb申込に慣れていないため、利用実績がないものと想定される。	
45													
46													
47	B	A		A	B		20	80	0		C	直接申込がweb申込に移行しただけなので、申込件数に変化はない また、web申込できるhard環境にいる先生が少ない。	
48	A			B	B		5	85	10		C		
49													
50													
51													
52													
53													
54	A			B	B		10	90	0		C		

整理番号	質問6		質問7	質問8		質問9			備考	質問10		回答用紙2枚目備考
	申込	申込・備考		データベース名称	web	カウンター	その他	自由記述				
55												
57	A		B	B		10	10	80	メール	C		
58	B	A	B	B		30	70	0		C		
59	B	A	A	B		60	35	5		B	利用者は図書館ホームページからの申し込みの際、同じホームページ上の全文アクセス可能なEJで入手できる時がある。	
60												
61												
62												
63												
64	A		A	A	PubMed 医中誌Web	5	90	5	6月現在本稼働になっていないため。本稼働するとweb申込の比率が増すものと思われる。	A	図書館の開館時間に制約されず、webでの申し込みができるから。研究室、自宅からもweb申し込みができるから。(時間・場所に制約されない。)月曜日の朝にweb申込が多く申し込まれている。	
65	A		B	A	NACSIS Webcat	20	70	10		C		
66												
67												
68	A		B	B		10	90	0		C		
69												
72												
73	A		B	B		19	81	0		A	研究室と図書館が離れているため教員の利用が少なかったがwebにて研究室等から直接申込できるようになったため、教員の利用が増加した。	
74												
75												
76												
77	A		B	A	Open URLで書誌を送信できるシステムであればどれでも可	98	1	1		C		
78												
79												
80												
81												
82												
83												
84												
85	B	A	B	B		10	90	0		C		
87	B	A	A	B		97	2	1		C		
88												
89	B	A	B	B		50	50	0		A		
90	B	A	A	B		10	90	0		A	便利。先生方からの利用が増えた。	
92												
93												
94												
95												
96												
97	B	B	B	B		20	80	0		A	申し込みが簡便になったため。ただし、申込件数の増は、web申込によるものだけでなく、利用者への講習やデータベースの整備による増加もあり、具体的な比率はわからない。	
98	B	A	A	A	PubMed, 医中誌Web	25	70	5		C		
99	A		B	B		60	40	0		A	学内のILL申込みに対して、無料にしたため利用件数が増えた。	
100												
101												
102	A		B	B		95	2	3		C	(新設校のため従来のシステムは使用していなかったため)	
103	A		B	A	NACSIS Webcat	9	72	19		C		
104	A		A	B		10	80	10	今迄の状況。これ以降変化すると思う。	C		
105												
106	A		B	B		85	15	0		C		
107												
108	A		B	A	Webcat	65	30	5		A	本学ではシステムによる申し込みの他、カウンター、webメール、FAXなど様々な方法による申し込みを受付しています。・近年申し込みの全体が増加していて、その理由として次のいくつかが考えられます。・申込方法が簡単で便利。図書館まで行かなくても良いという状況は、教員や院生(特に社会人)にとってメリットが大きい。利用者教育(オリエンテーション)(ハンドブック)により、認知が広まっている。・申込から受取までのスピードが早く、届いたことを確認してから行けば良いので、無駄が少ない。	

整理番号	質問6		質問7	質問8		質問9			備考	質問10		回答用紙2枚目備考
	申込	申込・備考		データベース名称	web	カウンター	その他	自由記述				
109	A		A	A	S-F-X	100	0	0		C	web申込と申込件数の相関は、当館では運動しないと思われます。	
111												
113												
114	B	A	B	B		80	19	1		A	利便性の向上	
115												
116	A		B	B		2	70	28	メール	C		
117												
118	A		B	B		10	90	0		C	大学院生と教職員のみオンラインから申し込めるようにしています。対象利用者が少ないため、業務に大きな変化はみられません。	
119	A		B	A	NACSIS-CAT	100	0	0		A		
120	B	A	B	B		100	0	0		A	比率不明 来館しなくても申し込み可になったこと	
121	B	A	B	B		70	30	0		A	導入の年度は増加したが、その後2年間は減少し、18年度は再び増加している。導入年度(H15)については、1月からの3ヶ月間に10件しか利用がなく(Web申込は)件数に反映はしていない。H16～18年度という視点ではweb申込での申し込みによる件数の増加、移行が認められる。申込方法の選択肢としてweb申込の利便性はあるであろう。	
122												
123												
124	A		B	B		40	60	0		C		
125	B	A	A	B		100	0	0	(本学利用者)館内もweb端末で申し込み	A	webシステムを利用しての学外を含めた申し込みが出来るため。 文献複写:約30%増 現物貸借:約260%増	
126	A		A	A	OPAC、NACSIS Webcat	5	95	0		C		
127	A		B	A	NACSIS-CAT	無回答	無回答	無回答		C	開始後、1ヶ月経過したところなので、設問(9、10、13～17)は回答できません。	
128	A		B	A	NACSIS-Webcat 自館 OPAC	90	10	0	書名のみ取り込める	A		
130												
131												
132												
133	A		B	B		20	80	0		C	運用を開始し、半年の状況で統計データとしては十分な数値を収集できていません。現状ではほぼ例年と同様の実績で推移しています。	
134												
135	B	A	B	B		100	0	0		C		
136												
137												
138	B	A	A	B		70	30	0		A		
139	A		B	B		95	5	0		C		
140	B	A	A	A	リンクリゾルバS-F-X	70	28	2		A	便利だから	
141												
142												
145												
146												
147	A		B	B		20	80	0		C	まだ広報が不十分であり、利便性が周知されていない為	
149	A		B	B		99.8	0.2	0		A	申込件数が増加していて、従来のカウンターで受付して、職員がその申込された文献の情報を、図書館システムに入力しなおすという作業が負担になっていたのが、web申込を導入した、という経緯があります。Web申込の開始によって、申込件数はさらに増加しました。件数が増加した原因として、大きな要因としては図書館に来なくても自宅や研究室などから申込可能になったこと、論文情報の検索データベースでの検索結果を、web申込の申込情報入力画面に、コピー、ペーストで、そのまま流用できることなど、利便性の向上があると思われます。なお、申込件数は、2004年度、2005年度とさらに増加しましたが、2006年度は減少に転じました。	
150	A		B	A	web cat 国立情報学研究所データベース	30	60	10		C	直接申込がweb申込に移行しただけだから	
151												
152	B	B	B	B		無効	無効	無効		C		
153	A		B	A	マガジンプラス、First Search	95	3	2		C		
154												
155												
156												
157												
158												
159												
160												

整理番号	質問6		質問7	質問8		質問9			質問10		回答用紙2枚目備考
	申込	申込・備考		データベース名称	web	カウンター	その他	備考	自由記述		
161											
162											
163	A		A	A	NACSIS-Webcat	60	30	10		A	
165	A		B	A		0	99	1	web申込は導入当初の 数件のみ	C	web申込のアナウンスが行き届いていないため。(院生・教職員限定としている。)
166	B	A	B	B		10	10	80		C	
167	B	A	B	B		60	40	0		C	
168	A		B	A	J-Dream II, 医中誌 Web, PubMed, Magazine-Plus, NDL雑 索, Webcat Plus	50	50	0	4月は2:1、5月は1:1、今 後の様子をみてみないと わかりませんが...	C	
169											
170											
171											
172											
173											
174											
175											
176											
178	B	A	B	B		2	94	4		C	*web申込を利用できることを知らない利用者が多い。(PR不足) ・利用できることを知っていても、 使わない利用者が多い。
179											
180											
181	A		B	A	Webcat	5	90	5		C	
182											
183											
184	A		B	B		70	30	0		C	
185	A		B	A	Pubmed, 医中誌web、 メディカルオンライン	83	17	0		C	直接申込がweb申込に移行しただけで、件数的にほとんど増減はみられなかった
186	B	A	B	B		100	0	0		A	*web申込になったので便利な点はあると思う。・増加した理由の主なもの、雑誌の契約の変更に 左右されるものと思われる。・導入データベースの増加にもよる。
187											
188											
189											
190											
191											
192											
193	A		B	B		22	77	1		C	
194	B	無回答	A	B		100	0	0		C	
195											
196	A		B	A	EBSCOhost	46	53	1		C	
197											
198	A		B	B		無回答	無回答	無回答		A	
199											
200											
201	A		A	A	国立情報学研究所・国 会図書館 医学中央雑 誌 ProQuest PsyINFO JDream	30	70	0		A	便利だから
202	B	B	B	A	NACSIS	100	0	0		C	
203											
204	B	B	B	B		6	73	21		C	
205											
206											
207	A		B	B		20	60	20		C	
208											
209											
210											
211	B	A	A	A	OID	無回答	無回答	無回答	統計なく不明	A	
212	A		B	B		27	73	0		A	2002年度331件、2003年度573件、2004年度296件、2005年度651件、2006年度901件、web上で文献 情報が入手しやすくなったが、web上で入手した文献情報を運動して(切り貼り)web申込ができるた め、手軽に申し込みができるようになったこと。
213	B	A	B	B	マイライブラリ,webフォーム併用	15	85	0		C	

整理番号	質問6		質問7	質問8		質問9			質問10		回答用紙2枚目 備考
	申込	申込・備考		データベース名称	web	カウンター	その他	備考	自由記述		
214											
215											
216											
218											
219											
220	A		A	B		50	50	0		A	平成18年度は477件で、前年比(平成17年度)257%増 理由:蔵書検索のほか、文献複写・貸借の申し込みがWebで可能となったため。
222											
223	B	B	A	B		95	5	0		A	インターネットで検索した結果をそのまま或いは添付で送信できるため、手間もかからず、正確な情報を伝えることができる。
224	B	A	A	B		70	20	10		A	申し込みの手軽さが増加の原因の一つと推測できる。
225											
226	B	A	B	A	PubMed、医中誌、SCOPUS	70	30	0		A	ILL依頼件数には変化なし。増加の原因はデータベースからの直接申込が可能になったことが考えられる。
227											
228											
229											
232											
233	A		B	A	EBSCO host内の各DB	22	78	0		C	・web申込サービスがあまり知られていない。・認証用のID取得が面倒に思われている。
234	A		A	A	雑誌記事索引、医学中央雑誌、MEDLINE、CINAHL、PubMed	29	71	0		C	参考:分室所蔵資料の複写依頼、貸出依頼もweb申込を通じて行えるようになったので、その分の件数は増加している。実際の増減はまだわからない。
235											
236	無回答	無回答	B	A	NACSIS Webcat	99	1	0		A	web申込開始前に比べ、2倍以上申込件数が増えました。対面での申し込みではないので、一度申込方法を覚えた利用者が気軽に申し込みできること、いつでも申込可能なことが原因と思われる。また、データベースでの雑誌記事検索がかなり浸透してきたことが、特に複写の申込件数増加につながっていると思います。
237											
238											
239											
240	B	A	B	B		無回答	無回答	無回答		C	
241	A		B	A	Refworks	45	55	0		A	
242											
243	B	A	B	B		70	25	5		A	時間、場所に関係なく申し込み可能となり便利になったため
244											
245											
246											
247											
248											
249	B	A	A	A	EBSCO-host	50	50	0		C	
251											
252	B	A	B	B		100	0	0	2007年4月よりWEBのみの受付にしました。	C	

回答集 アンケート3枚目

整理番号	質問11		質問12	質問13							G記述	質問14		質問15			
	件数制限			A	B	C	D	E	F	G		記述	長所	短所			
1	B		A	◎	○						○		B	学外からもweb申込が簡単にできるようになったため。	記入項目漏れが防げる。	カウンター申込のように申し込み時に本人に確認ができない。	
2																	
3	B		C	◎	○	○					○		D	周知不足			
4	B		C	○	○								B	web申し込み、カウンターの両方で受付しているのでweb申し込みをあえて利用している人はそれなりに利便性を感じて利用していると思われるため。	自宅から都合のよい時間に申し込みできる	複数申し込みの場合、入力が面倒との声がありました。	
5	B		C	○	○								C		図書館の閉館中でも申し込みができる。職員が入力する手間が省ける。	内容が不十分でも申し込みができてしまう。(受付のときに職員が内容等の確認をできない。)	
6																	
10																	
12																	
13																	
14	B		C										C		①ILLの申し込みへ移行しやすい(コピー&ペースト) ②ペーパーレス	①記載事項のミスをすぐ訂正できないこと。	
15																	
16	B		C	○	○							○	重複申込	B	申し込み用紙による申し込みよりも迅速に対応することができ結果的により早く文献を入手できる	24時間利用者が申し込むことができる。利用者の申し込みフォームからILL依頼フォームへ直接移行できるので論題や誌名等が入力不要になった。	新規申し込みを知らせる機能がないためこまめにチェックが必要。Web申し込みの利用者説明が負担になった
17	B		A	○	○								B	申し込みは図書館の開館時間によらないため、利用者にとっては申し込みしやすいと思われる。	利用者にとっては来館する手間が省ける。	カウンターでの直接申込と違い、即時の対応が難しい。	
18																	
19	B		C			○	○						C	webから申し込めることは知っていても、直接リストを持って来る利用者が多い。(特に多数件の場合はフォーム入力が面倒なのではないかと思われる)	利用者側からは時間、場所を問わず申し込める。	参照不完の場合など、別途メールなどでの確認の必要が生じる。(直接申し込みの場合は、その場で確認できる)	
20	A	教員 複写件数30件 貸借冊数10冊 大学院生 複写件数20件 貸借冊数5冊	A	◎				○			○	○	取り寄せ目的外(例:リクエストの申し込みなど) その他(ciniiで閲覧可)	C	実際の利用例が少ないため、クレームが捉えきれていない。また、取り寄せ申し込みがキャンセルする事態となっても、代替資料もしくは、他のツールで補おうとするため、館員の参考調査は増えるが、あまり利用者からクレームは来っていないようである。	利用者の入力項目を流用して、NACSIS検索がスムーズ	利用者の入力ミス、資料名の誤り、また取り寄せ目的外の申し込みには、利用者との連絡のやり取り等、非常に時間がかかる。
21	A	申し込み~返却の状態のものが1人5件以内(複写は10件以内)	C	○	◎						○		B	利用している方からは便利になったと言われるが、まだ利用者が多くないのが現状です。	申し込みが簡単で来館しなくてもできる 閉館日でも申し込み可能。申し込みの際、NII書誌を確認するので、書誌の特定がしやすい。洋書などスペルミスが少なく、わかりやすい。	申し込みの際のコミュニケーションがないため、書誌事項等に不明瞭な点があった場合、確認がとりにくくなる。申し込まれたものが別書誌でも気がつきにくい。	
22																	
23	B	Eメールの受付は制限していない	C		○	○							B	10と同じ	10と同じ	インタビューが出来てない 本人確認が難しい	
24																	
25																	
26																	
27	B		A	○	○	○					○	○	B	利便性が向上した。	・申し込みのために来館する必要がなくなった。・利用者が入力したデータをその後の処理に利用できる。	・カウンター受付の際に注意できた所蔵の有無等の基本的な指導ができず、利用者とのやりとりに時間がかかる場合がある。	
28																	
29																	
31	B		C	○	○								B	カウンター受付時間外に申し込み可能となり、便利であるとの声を何度か耳にしている。	web申し込みを利用するのは、だいたいリピーターであり、申し込み方法や到着連絡など特にトラブルはなく、カウンター受付時間外も申し込み受付可能となり、メリットは大きい。	なし	
32																	
33																	
34																	
35	B		無回答	◎	○								F	特に意見を言ってくる利用者もおらず、アンケート調査等もしていないので、利用者がどう思っているかは分かりません。	作業量が軽減された	安易な申し込み(学内所蔵を調べない)が多い。申し込んだことを忘れて、依頼物を取りに来ない。	
37	B		C	○	○								A	申込から受領(到着)までの連絡が手軽で迅速。	申込から受領(到着)までの連絡が手軽で迅速。	手軽に申し込めるため、事前に所蔵確認をしない。(確認が甘い)。	
38																	
39																	
40																	
41																	

整理 番号	質問11		質問12	質問13							G記述	質問14		質問15	
		件数制限		A	B	C	D	E	F	G		記述	長所	短所	
42	B		C									B			
43															
44	A	1回10件まで	C								事例がないため不明	F	事例がないため不明。	時、場所を選ばず、いつでもどこでも、図書館に来館することなく依頼できる。	利用者の依頼について、本人に確認、精査する訳ではないので、内容の正確さに多々問題が出てくると考えられる。
45															
46															
47	B		A	○	○							B	時間制限なく申し込める点	いつでも、どこからでも申し込みでき、便利である。	電子ジャーナルや、所蔵している資料に対しても、手順をふんだ処理が必要な点
48	B		C	○	○							B	図書館に来館することなく、申し込みができる	来館しなくても申し込みが可能	申し込み内容について直接確認したり、別の方法で入手可能な場合の指導、アドバイスができない。(内容が不十分な場合の確認ができない)
49															
50															
51															
52															
53															
54	B		C	◎	○							D	入力方法がわからない。入力箇所が多い。		
55															
57	B		C	○		○						B	フォームで入力できるという選択肢が増えたので	・他の文献データベースからコピー&ペーストができるので利用者は入力が楽であり、図書館スタッフは書誌事項の記載ミスが少なくなり助かる。・個人情報(氏名・配属など)を入力しなくて済む。	MyLibraryの周知が必要、また画面を開くのが面倒な利用者があることが考えられる。
58	B		C	○	○							B	24時間自宅等からでも申し込める事に対する評価は高い。	24時間自宅等から申し込むことができ便利。(図書館に来館する必要がない。)	・単純な依頼は問題ないが事項調査などは対面でないといけない部分もある。・DBを利用してもらうよう伝える場合メールでは伝えにくい。・依頼者が初めてILLを利用する際、確認、説明が必要。
59	B		C	○	○	○	○			○		B	利用者としては、図書館に来る必要がない。図書館の開館時間を気にする必要がない。	メールで、結果を連絡できる点。(図書館側) 申込時間にとらわれない点。(利用者)	図書館PR不足か、利用者が限られてきている点。利用者の顔が見えない点。届いた文献を渡す時、カウンター当番でない限り、利用者が満足しているか、不満が分からない点。
60															
61															
62															
63															
64	A	1回もしくは1日に5件まで	A			○	○	○	○			B	来館することなく申し込めるから。図書館の開館時間でも申し込めるから。	申込用紙に記入しなくても申し込める。	誤操作する場合がある。
65	B		C	○								B	申し込みのために来館する必要がないので、相互貸借申し込みをしたと思った時点で申し込みできるため、利便性が高まったと思う。	・14にも述べたように、申し込みのために来館する手間が省ける。・図書館側でも利用者側でも、データの記録が蓄積されること。	例えば カウンターでの直接申し込みの場合、申し込み書を受け取った時点で、「学内に所蔵あり」という案内ができる。(相互貸借申し込みの必要がないのに、申し込みがあることがある)webでは迅速な回答ができない。
66															
67															
68	B		A	○	○							B	今までは個別メールに対しての受付であったが My Lib上で行うことができるようになったため	場所と時間を選ばず利用者が申し込み可能である。	対面していない為、+αについての対応ができていない。
69															
72															
73	B		無回答	○	○		○			○		B	来館しなくても、好きな時間に申し込みができる	利用者:・来館しなくても申し込みができる・申し込み用紙に記載する手間が省ける 図書館担当者:論題等の手入力の手間が省ける	図書館担当者:・書誌事項の再確認が必要・書誌情報が不完全な時の対応が間接的(電話やメール)となり、やりとりに時間がかかる
74															
75															
76															
77	B		C	○	○							B		・データベースレコードの流用による入力負担、参照不完等を軽減できる。・Ref works等の文献管理ソフトとの連携によりユーザーの利便性を向上できる。	
78															
79															
80															
81															
82															
83															

整理 番号	質問11		質問12	質問13							G記述	質問14		質問15			
		件数制限		A	B	C	D	E	F	G		記述	長所	短所			
84																	
85	B		C	○	◎							B	・来館しなくても申し込みができるため。・書誌事項を手書きする必要がなく、インターネットなどで調べた情報をコピーアンドペーストできるので簡単に申し込みができるため。	・申し込み内容をコピーアンドペーストで利用できる。・調査や依頼の際の情報入力ができる。・申し込み内容を確認する際、手書きよりも読みやすい場合もある。	・来館して直接申し込みの場合は、書誌事項に関する質問をしたり、所蔵の有無、電子ジャーナルでの入手可、不可などを調べたりということがその場ででき、場合によっては必要な文献をその場で提供することもできるが、web申し込みの場合はそうはいかない。		
87	B		C	◎	◎	○						B		手書きと違い個人の書体に左右されないで、タイトル、論題等間違いが少なくなった。	コピー＆ペーストができるため、他書誌の貼りつけが多くなった。OPAC未調べが多く、安易に申し込みをしてくる。		
88																	
89	B		C	○	○	○						B	利用者がわざわざ図書館に足を運ばなくても依頼ができる。	書誌事項が手軽にコピー、ペーストできるところ	カウンターでの利用者とのコミュニケーションが少なくなった。		
90	B		B									○	ホームページに公開あり	B	対応が敏速になった	内容の伝達が間違いなく出来る。	
92																	
93																	
94																	
95																	
96																	
97	B		A	○	○							○	所蔵館はあるが、電子Journalのみ所蔵のため複写不可	B	図書館に足を運ばなくても、情報(データベース)検索をしながら申し込むことができる。	簡単、便利	簡便なため、書誌が不完全な申し込みもふえ、担当者が調査したり、申込者に問い合わせたりする必要が生じている。
98	A	1000件まで。単純にシステムの処理上の関係で上限を設けています。	C		○							○	学内所蔵なし。	B	・一度利用したことのある利用者が同僚、後輩に利用を薦めていることが多い。・他キャンパスに異動後も異動先で利用している。	・時間を問わず申し込みできる。・50件、100件など件数の多い申し込みもわざわざ申込書を作成せず便利。・申込だけのために図書館へわざわざ足を運ばなくてよい。	システムの受付にタイムラグがある。
99	B		C	◎	○									B	自宅からでも休日でも申し込むことができるから。	ネットが繋がる場所であれば、いつでも申し込みができること。	申し込みに不明確な部分があってもこちらからすぐに連絡がとれないこと。
100																	
101																	
102	B		C											B	図書館に足を運ぶことなく申し込みができる。	・研究室、自宅等、どこからでも申し込みができる。・申し込み後の状況がリアルタイムでわかる。	・文献データベースと連携していない場合、書誌を利用者自身が申し込みのための入力しなければならない。(これは紙の申し込み用紙に記入するより不便だとする利用者もいる。特に複数申し込みの場合この傾向が強い。・書誌があいまいな場合、申し込みの入力ができない。(紙による申し込みならば気軽に不完全なまま図書館員に提出できる。)
103	A	10件	C									○	雑誌に対する貸借申込だったため。	B	図書館に来館せずに申し込みができる	・来館不要、自宅からの申し込みも可 ・利用者が申し込みの状況照会ができるので便利	・利用者の顔が見えない不安(有料サービス、利用方法に制限があることを承知の上での申し込みかどうか) ・書誌事項、申し込み内容の確認がとりにくい ・利用者の詳細な意向を確認するのが難しい
104	B		C											B	来館する必要がない。	?	?
105																	
106	B		C	○	○	○								B	申し込み書によるカウンターでの手続きは、直接来館しなければならないという不便さや開館時間中に申し込まなければならないという時間的な制約がある。一方、web申し込みはそのような不便さを解消していると思われるから。	利用者の申し込みデータ(書誌事項、予算など)を流用できるため、担当者が入力する手間が省け、業務軽減につながっている。	
107																	
108	B		C	○	○	○								B	一度利用された方のリピータ率は高いので。	利用者側より:申し込みから受け取りまでのスピードが早く、状況が見えるので無駄が少ない 申し込みの時間が自由 図書館側より:希望資料の同定がしやすい。	図書館側より:受付方法が多数あるためですが、その受付方法別に連絡の方法が異なるため、事務的には煩雑。Webのみに一本化することは困難です。
109	B		C	◎	◎									A	利用者の負担軽減	利用者の負担軽減	
111																	
113																	
114	A	5件	C	○	○									B		・書誌事項のコピー、ペースト機能による作業効率の向上 ・メールアドレスの読み書き間違いがなくなった	利用者が、記入すべき項目を間違えることがある(紙でも起こる問題だが)
115																	
116	B		C											E	OPAC連携型だが、使い勝手がよくないため。	どこからでもインターネットのある環境であれば申し込み可。	ペリファイされずに申し込みされてしまい指導ができない。
117																	

整理 番号	質問11		質問12	質問13							G記述	質問14		質問15		
	件数制限			A	B	C	D	E	F	G		記述	長所	短所		
118	B		C	O	O							B	クレームの届いていないので…	自宅からも申し込みできる。	学内に所蔵がある場合、その場で教えることができない。	
119	B		C	O	O	O	O					A	便利、時間の短縮	・依頼者からのデータが自動的にNACSIS-ILLへの依頼処理データとなる。		
120	B		A	O	O							B	来館不要 電子メールでのコンタクトにより電子ジャーナル等への案内、連絡事項がわかりやすくなった。	利用者満足度の理由のほか、係りとしては手書き申し込み時に比較して誤記、誤読が少なくなったと思われる	対面申し込みでは防げたキャンセルが出ている 自身での所蔵検索行動をしない傾向が一部に見られる。	
121	B		C	O	O						O	B	時間制約がなく、来館せず、直接申し込みができる点。	依頼内容が見易い。申込用紙による誤字、脱字、くせ字等外国語は特にUとVの判別に苦勞など多い、を回避できる。結果迅速な発注につながる。	・パソコン、システムのトラブル時に対応不可。(依頼者の嗜好としてweb申し込みを好まない時)・依頼者に対する、受付確認の返信メール、依頼内容のプリントアウト作業などの手間を要する。	
122																
123																
124	B		C	O	O	O						B		1. 利用者が依頼の状況を調べることができる。2. 到着処理が済むと、利用者にもその旨のメールがとぶことなど(いずれも図書館システムNeoCILLUSの機能)3. HPで所蔵を検索してすぐに申し込みができること。	PCが苦手な人は紙媒体の申し込みになること。	
125	無回答		C	◎	O	O	O	O	O			B	取り寄せ日時が早まった。図書館以外からの申し込みができること。	図書館の窓口申込をしなくてもすむこと。	窓口対応がないため、内容確認が取れないこと。	
126	B		A	O	◎					O	Google等で入手可	B	図書館に足を運ぶ必要がない点、申し込み時間の制限がない点などで、おおむね満足して頂けているのではないかと思います。	・利用者が図書館に来館しなくても良い点。	・利用者による入力のため、書誌情報不全の場合が多く、担当者による調査が増加した。・会話によるコミュニケーションがないので、予算コード等の必要な情報が不足する場合があります。	
127	B		C									無回答				
128	B		C	O	O							B	インターネットに接続していれば学外からでも申し込みできるので時間帯を気にせず依頼可能。	来館することなく申し込み可能。(インターネットに接続しているところであればどこからでもOKなので便利。)	特になし	
130																
131																
132																
133	A	複写依頼(10件)、現物貸借(5件)文献到着後は新たなweb申込は可能。上記以上の申し込みを希望する場合はカウンターで受付	A	◎	O						O	web上に存在	B	図書館の開館時間の制約を受けることなく 来館しなくてもILL申し込みが可能となった。	時間的、距離的制約を克服しILL申し込みが可能となった。	利用者自身が自館OPACやNACSISの書誌の同定がうまくできず、学内に所蔵がある資料について申し込んだり、NASIS上に存在する違う書誌に申し込んでしまう現象が起きている。
134																
135	B		B	O	O							B	来館不要。研究室より直接申し込みがOK	レファレンスの時間が減少	利用者とのコミュニケーション不足	
136																
137																
138	A	5件	C	◎	O	O						B	・文献検索の結果を切り貼りしてwebで依頼が可能・手書きよりspell、巻号、頁等の誤記が少ない。	・ILLetc.の依頼で文献の確認をする時も切り貼りが出来るので楽になった。		
139	B		C	O		O	O					B		所要時間が短縮される。図書館の開館時間に関係なく、いつでも申し込みができること。わざわざ来館しなくてもよいこと。	インターネット回線トラブルが生じた場合は使用できない。情報リテラシー能力の個人差により、使い方に差が出ること。	
140	B		無回答	O	O	O						B	入手までの時間が短縮された。	処理が早くなった。	一度に申し込む件数が多くなった。	
141																
142																
145																
146																
147	B		A	◎	O							A	アンケートによるとILLサービスで利用者が最も知りたい事は、依頼した資料がいつ入手できるかであった。個人ポータル機能により「依頼中」や「発送済」等の処理状況が確認できるので、ストレスが溜まりにくくなったためではないかと思う。	職員のデータ入力の省力化 利用者への進捗状況の提供によるストレス低減	所蔵調査をしなかったり、書誌事項の不足や間違いが多い。	
149	A	30件*ただし、実際には、形骸化していて、システムの的には、制限はかけられず、無制限に申し込み可能。	A	◎	◎	O	O				O	以前、申し込みした文献情報の重複入力(取り寄せした文献)	B	10にもあげていますが、図書館に来なくても、自宅や、研究室などから、申し込み可能なこと、論文情報の検索データベースでの検索結果などを、申し込み情報の入力画面に(多少の手間はかかるものの)活用可能なことには、利便性を感じてもらって、おおむね満足してもらっていると、捉えています。	申込者の利便性に加えて、業務にあたる図書館職員側としても、申込者が入力してきた情報を、そのまま用いて他館へ依頼したり、参照不全の場合などでも、入力されてきた情報をもとに、論文情報や書誌事項等の確認作業ができること。	申し込み時の状況は、図書館職員から、顔の見えない関係にあるため、不完全な情報、いい加減な情報でも申し込みが可能なこと。もとにある情報を、手当たり次第に、数十件申し込みしてくる利用者もいること。

整理 番号	質問11		質問12	質問13							G記述	質問14		質問15		
	件数制限			A	B	C	D	E	F	G		記述	長所	短所		
150	B		C	◎	○	○	○					B	・リピート率が高い ・返事がすぐに行くから利用する人には満足と思われる	到着したなどの連絡がすぐ利用者に行く	不備な情報に対してインタビューができない	
151																
152	A	10件まで	C	○			○					B		相方とも申し込み経過等が残り、確認できる。	所蔵の確認など、申し込み時に対面で確認する作業ができない。	
153	B		C	○	○	○	○	○	○			B	どこからでも申請ができるという簡便さ		デジタル・デバインド	
154																
155																
156																
157																
158																
159																
160																
161																
162																
163	B		A	○	○							B				
165	B		C		○		○			○		F	ほとんど利用されていないので回答できません。	いつでも申し込みができる。申込情報をそのままILLに活用できる。	申し込むために、web環境が整っていることが必要であること。	
166	B		A	○		○						D	書誌事項を取り込めないため、入力等の手間がかかること。	開館時間を気にせずに申し込みができる点。		
167	B		A	○	◎							B	来館する必要がなくなった。一度に多数申し込むことができる。	・来館して申込書記入等の煩わしさが少ない。 ・検索結果をそのまま貼り付けて申し込む場合が多いため、記入ミスが少ない。	・送信ミス、システム不具合による依頼側、受付側双方の確認もれが起きる可能性がある。 ・申し込み内容の不備、自館に所蔵がある場合など、即座に対応できない。	
168	B		C	○	○					○		B		・利用者は来館せずに申し込みが可能。24時間申し込みが可能。 ・検索DBの結果から文献の依頼が可能。 ・図書館もその情報を流用して、ILLへ申し込みが可能。 ・忙しい教員への連絡がすべてメールでできる点。	・自館所蔵の資料、電子ジャーナルで入手可能なものをその場で案内できない点。	
169																
170																
171																
172																
173																
174																
175																
176																
178	B		C	○	○							C	・PR不足。(図書館ホームページ等で案内しているが周知されていない。) ・web申し込みのできることをしりつつ、使用していない。	・利用者が来館せずに申し込める利便性。 ・ILL担当者の依頼情報入力の簡素化、省略化ができる。	・直接レファレンス対応を行わない申し込みの際、利用者との意思疎通に時間がかかる時がある。 ・申し込み内容の不正確性。(担当者が再度調査しなければならない。)	
179																
180																
181	B		C	○								F	マニュアルを作成して案内していますが、webからの申し込みができるのがわからなかったり、知っているも操作方法がわからなくて途中でやめてしまうことが多いようだ。	正しく申し込みされれば、職員側の手間ははぶけて利用者もPCがあればどこからも申し込みができて便利である。	申し込みの流れがわかっていると利用方法がわからず使いこなせない。また、複写の場合、タイトルと雑誌名の違いが理解されないまま申し込みされ図書館側で手直しが必要となることもある。	
182																
183																
184	B		C	◎	○	○	○			○		C	webで何かを申し込むのは当然の感覚になっているため。	利用者側に控えが残る	顔がわからないままやりとりが進む。	
185	B		A	◎	○	○				○		B	時間と場所を問わずに申し込みができるというのかなり満足度が高いようです。加えて当館は、文献データベースと連携したシステムなので、更に便利と思う利用者が多いように感じています。	<利用者>・時間と場所を問わずに申し込みができる。 ・文献データベースからシームレスに申し込みができる。 <図書館>ベリファイの必要がない。	<図書館>学内所蔵のため、などキャンセルするケースが増えた。	
186	B		C	○								D	文献データベースと連携して書誌事項を取り込む機能がないため。	・書誌事項を取り込むことはしていないが、カット&ペーストなどの利用で楽に申し込める。 ・事務的な作業の経過が依頼者にもわかり、履歴も残るので良い。	システムの故障など。	
187																
188																
189																
190																

整理 番号	質問11		質問12	質問13							G記述	質問14		質問15	
	件数制限			A	B	C	D	E	F	G		記述	長所	短所	
191															
192															
193	B		C	○	○					○	未刊行の論文のため複写不可	B	文献データベースと連携していないので、クリック1回で申し込みという訳にはいかないが、時間・場所に関係なく申し込みできるので。	利用者が場所・時間に関係なくいつでも申し込みができる点。	操作ミスなどにより重複申し込みがおこりやすい点 ネットワーク障害や停止などがあると、その間利用できない点
194	B		C	◎	◎	○	○	○	○	○	発行はされているが未着	A		問題のない申し込みについては作業時間が短くて済む	問題のある申し込みについて、問題点をクリアするまでの時間と手間が長くなる。
195															
196	B		C	○	○	○									
197															
198	B		C							○		B	図書館内での事務処理も一元化され利用者への対応が早くなった。	事務処理が一元化されることで利用者への対応が早くなった。	webでの申し込み時にデータ不足などで利用者とのやりとりがふえた。(窓口対応の時は申し込み時に内容が確認できた。)
199															
200															
201	A	10件まで	C	○	○							B	今までのシステムには、web申し込みがありませんでしたが、Web申し込みができるようになって利用してみたところ、ほぼ満足でした。	利用者のデータ情報を使えるので、入力ミス、検索ミスが少ない。依頼館への依頼が短時間で済む 転記が簡単で早くてできる。	利用者からの申し込み事項の中で、書誌情報の入力不足が多い web上の申し込みなので、依頼履歴がない 利用者が文献情報の典拠先入力ミスが多く、確認が大変
202	B		C							○	学外貸し出し不可	C	満足も不満も感じていないから	なし	なし
203															
204	B		C			○						E	e-mailソフトが不親切(1メールに1文献しか書けない等)検討中	自宅から申し込むことができる	検索法がわからない学生にレファレンスをしながら指導することができず、潜在的ユーザーを失う。
205															
206															
207	B		C	○	○							B	慣れれば紙に書くより便利。	自宅から申し込みができる	社会人学生や教員の中には、紙による申し込みの方が分かりやすいと言われることが多い。
208															
209															
210															
211	A	1日あたり10件	無回答			○	○			○		B	図書館の開館時間に関係なくいつでも申し込みできる。図書館まで出向くことなくいつでも申し込みできる。書くよりパソコン打込みのほうが楽。	(利用者側)図書館に行かずに、また時間を気にせずに申し込みができる。(図書館側)判読できない文字がない。	(利用者側)学内ネットワークに接続した端末からしか申し込みできない。(図書館側)記載に不備がある場合、連絡をとって確認する必要がある。
212	B		C	○	○							B	図書館の開館時間外や自宅から依頼ができるなど時間や場所を問わない、手続きが不要、web上から切り貼り等による申し込み手続きが簡素化されたなどにより、満足度が高いと捉えている。	利用者:図書館の開館時間外や学外からも依頼可能、web上から切り貼り等により手続きが不要(申し込み手続きの簡素化) 職員:手続きより記入漏れが減少したため、確認作業が減った。ILLによる他大学への依頼時に、入力の手間が大幅に減少。	ネットワークやハードウェア障害、メンテナンスなどによりweb申し込みシステムを停止する場合、連絡を随時行う必要があり、周知に手間がかかる。
213	B		C	○	○	○	○					C		・利用者が来館しなくても申し込みできる。・希望資料が正確に判別できると館員の作業効率上がる。	・1件づつ入力しなければならないので利用者にとっては手間がかかる。・利用者が検索のコツを習得していないと連絡をとる事例が増え、実のない業務が増える。
214															
215															
216															
218															
219															
220	B		C	○								B	webで文献複写、文献検索が可能となったため。	24時間いつでもどこでもインターネットにつなげれば利用できる。	書誌情報が正確に書かれていないときは、申込者とトラブルが生じる。
222															
223	B		C	○						○		B	図書館まで足を運ばなくて済むから。	・カットアンドペーストで、正確な情報をそのままILLで申し込みできる。・確認事項について、返信が容易である。	
224	B		C	○	◎	○				○		B	学内LAN内ならば、24hどこからでも申し込み可能な点	上記14と同様	特になし
225															
226	B		A	○	○							B	図書館開館時間外のweb申し込みがあるため。	・開館時間に縛られない。・書誌が正確 申込者の負担が少ない(データベースから1クリックで申し込み)	・学内所蔵やオンラインジャーナルを確認しない。→キャンセルの増加。
227															
228															
229															
232															

整理 番号	質問11		質問12	質問13							G記述	質問14		質問15		
	件数制限			A	B	C	D	E	F	G		記述	長所	短所		
233	B		A	○	○		○			○		B		・自宅や学外から、開館時間外の依頼が可能。・依頼件数、頻度が多い利用者にとって使いやすい。	・蔵書検索が不十分ままの依頼が増え、キャンセルが増加した。・一度に大量に依頼するケースがある。・依頼時の対面指導ができない、また内容等の確認等のための連絡がとりにくい。	
234	B		A	○	○	○						B	紙の申し込み用紙にはある「海外申し込み(要・不要)」を選ぶところが無い。	利用者への問い合わせや、到着の連絡を電子メールでできる点が便利である。相互貸借担当者以外でも、申し込み内容や処理状況がわかるので便利である。依頼・受付共、データが電子的に記録されていくので、統計などに使いやすくて良い。	まだ 学内LANを通じてしか使えないので、少し宣伝しづらい。書誌事項に不満のあるものや、学内に所蔵のあるものへの申し込みが増え、確認作業や振り分け作業に手間取り大変である。	
235																
236	B		A	○	○	○						B	本学の場合、初回の登録をすると、卒業までOPAC経由でILLを申し込むことができます。今年度より24時間申し込みが可能になり、いつでも申し込みができる点で、以前より満足度が上がったのではないかと思います。また到着通知もweb上で行うため、TELが繋がらないなどのために処理が滞る件数も減りました。	申し込みが簡便で、いつでも申込可能。インターネットが利用可能であれば申込状況をどこからでも確認できる。	簡単に申し込みができるため、自館に所蔵があるものも申し込んでくる利用者がいる。また、DB等で全文閲覧できる場合、直接対面して操作方法を教えることができないため、説明に手間がかかる。	
237																
238																
239																
240	B		C			○						B	できるだけ謝絶はしない方針です 入手する手段が無い時のみ謝絶。相談が必要な場合は利用者と相談しつつ、利用者からのキャンセルか、先へ進むかを決定。	Dも。来館のために時間を作れない場合、夜間の申し込みを希望する場合などは便利であると思われるのではないかと。ただし、入力用フォーマットは使い勝手は必ずしも良くないので、使いづらいなど不満はあるはず。	読みやすい。利用者がはっきりしている(登録されている)。学外申し込みの際、便利な事も多い(書誌がそのまま取り込める等)	申込者への問い合わせが必要な文献など、直接申し込みよりも、解決に時間がかかる場合がある、フォームの作りが使いづらい場合など、改良が自前でできない(メーカーとの相談、予算の問題など付加される課題がある)。
241	B		C	○							○	B	CiNiiやgoogleで無料で閲覧できるため。	直接カウンターへ来なくても簡単に申し込みができる。	直接カウンターへ来なくても申し込みができる。図書館の開いていない時間でも申し込みができる。	校費の確認、金額の上限など、直接確認したいことがわからない。
242																
243	B		A	○	○	○						B	申し込みが自宅や研究室に居ながらできる。窓口が終了したあとにもリクエスト可能	・利用者は時間や場所を問わず申し込みが可能 ・申し込みのデータを流用できるので作業が早くなった	・窓口とは違い利用者の細かい要望が伝わりにくい。メールや電話でのやりとりが必要となり時間がかかる場合あり ・料金や申し込み時の注意などが伝わりにくい ・代行検索のようになってしまう場合もある(利用者がどこまで調べたかわからない)	
244																
245																
246																
247																
248																
249	B		C	○	○							B				
251																
252	B		C	○	○		○	○				A	・主たる利用者が理工学部所属の教員、大学院生、卒業研究生のため図書館が閉館している時間や休館日に研究室から申し込みができることは便利である ・Web個人ポータルで複写依頼した文献の状況が確認でき、到着の連絡もe-mailで配信されるので確実に伝わる。	図書館の担当者は時間を決めて受付やILL依頼ができる。	直接、利用者と話しができず、OPAC検索や電子ジャーナルの調べ方、データベースの使い方などを指導するために利用者カウンターに来てもらう必要がある。	

回答集 アンケート4枚目		
整理番号	質問16	質問17
1	データベースから取り込んだ書誌事項を申込フォームに利用し、その後の他館への依頼や帳票、申込者への連絡に利用できるもの。資料種別ごとに適した項目や注意点がわかるようになっているもの。	私大を含めた大規模なデータベースコンソーシアムにより、リソースの共有化の方向に進んで欲しい。
2	図書館で契約しているデータベースが複数あるので、その検索結果から申込者が氏名と経費だけ入力するだけで申込が出来たら、便利だと思います。	
3		
4	雑誌記事索引と連携して書誌事項が取り込めるとよい	
5		
6		可能な限り他館からの依頼には応えているが、小規模図書館では貢献できることが少なく、申し訳ないと考えている。今後も提供する側と提供される側の格差が広がり、提供する側の負担や不公平感がさらに大きくなっていくことが予想される。大規模館の負担を減らし、小規模館でも相互協力に参加できるようにするために、規模や貢献度を考慮した料金体系などが導入されるようになるのではないかと心配している。
10	電子メールなどで個別にやり取りをするのではなく、例えば図書館間のILLで使うシステムのように作業できる特定のツールがあればよいと思う。申し込みから利用者への確認・問い合わせ・到着の連絡まで、図書館と利用者の対話が可能なツール。	
12	データベース・OPACと連動し、利用者からの申込書式がNacsis-ILLの申込データに直接反映されるもの。また利用者が“My Library”で、自分の申込データ全ての現在の状況把握が可能なもの。	電子ジャーナルの普及により、今後の相互協力がどのように進められてゆくのか、先が見えない過渡期にきている。電子ジャーナル契約でILL可・不可により、受付件数の増減が出て、図書館ごとの格差が大きくなるように思われる。しかし、相互協力館のサービス料金統一など、できるだけサービスの範囲・内容に格差がない(同じ条件でサービスを受けられる)状況が望ましいであろう。
13		学会による学術情報の充実が必要であるが、そのことによって、大学図書館は、教育型と研究型の図書館、情報センターにわかれるのではないかと心配している。
14	雑誌データベースのとり込みが可能になること。	
15		
16	新規申込を知らせるアラート機能 利用者にwebを通しての文献到着連絡機能 利用者が申し込む時、自動的にOPAC→EJ→重複申込のチェックを経て申込システム	海外ILL事例一覧のような相互協力で可能な事例研究に取り組んでいただきたい。
17		
18	・依頼をかける場合…Holdingで所蔵館がヒットした場合、Browsで一覧表示した後、前ページに戻れないため、前ページで表示された大学に依頼をしたい時には再度表示しなおさなくてはならないので少し不便です。又、所蔵館の詳細情報をdisplayした後、returnすると検索画面まで戻ってしまうので、Holding表示の画面(=一つ前の画面)に戻るようにしてほしいです。・謝絶処理について(複写・貸借の受付)…依頼館が次館転送を設定している場合、謝絶すると次館へまわってしまいます。データ不備などで依頼館へ謝絶をした上でデータを戻したい時に次館設定の有無が分かれば便利だと思います。・システム上の参加組織詳細(POLICY)がもっと見やすくなってほしいです。	
19	GeNiiと連携して、書誌事項の入力の手間が省けると良いと思う。	紀要の電子化と公開をすすめて、紀要の分の負担を軽減する。
20	目の前の利用者が、どんな情報がほしいのか、そのためには、どのDBを使って調べ、必要資料へ辿り着けばいいのか、それを示すことのほうが大切に思われる。Web申込にそれを少しでも反映させられる機能が含まれれば…と思うが難しい。	
21	論文等の検索結果から直接申し込めるシステム。ネットで公開されている文献なども申込前に確認が自動的に行えるようなシステムがあれば便利かと思えます。	
22		
23	・文献データベースとの連携機能が充実していること。・検索結果をそのまま申込画面に反映させるような仕組みがあるとよい。	電子ジャーナル等の電子媒体も視野に入れた相互協力ガイドラインの整備が必要と思われる。
24		
25	CiNii論文検索ナビゲータを経由して、書誌情報をそのまま移行できる申し込みだと、利用者にとっても図書館側にとっても都合がよいのではないのでしょうか？横断検索機能付きのweb申込が便利だと思います。	全頁複写申込の規定が大学ごとに違うように感じます。 ・利用者(申込者)→申込図書館(相手館)宛てに許可願書を作成 ・依頼図書館→申込図書館宛てに許可願書を作成 ※申込者は直接関与しない めったに発生しないことなので余計にとまどいます。全頁複写申込の一本化(新人職員でも即、対応できるくらいの簡易なやり方)を希望します。
26		当館はキリスト教神学の単科大学なので蔵書の90%以上はキリスト教神学専門書である。その為、他大学からの所蔵調査も限られた大学からになっている。当館からも他大学に依頼することも数的には少ない。このような現実なので「相互貸借」に関しては「現行通り」と思っている。ただ当館所蔵の明治期の資料に関しては貸借、閲覧、複写の依頼もあるので、現物ではなくデジタル媒体にして保存並びに提供することを考えなくてはいけないと思っている。
27		
28	現在利用していないので、まだ具体的なイメージがない	web、郵送、Fax申込みなど、各館の事情があるので、対応も臨機応変に、決算も同様の、サービス重視の方向が良い。
29	外部からの利用申し込み等	・手続きの簡略化 学生の見学希望の受付等もあるとよい
31	CiNiiなど雑誌記事索引DBからデータをダウンロードして、申し込みできるweb申込サービス。その際に、所属館OPACもチェックするサービス。	なし
32		
33		相互協力の実務に関する経験や知識を共有できる場の必要性を感じる。特に海外とのILLに関する経験が少なく、情報も意外と少ないので、いろんな意味で相互協力ができれば理想的です。
34		平易で使いやすいシステムの構築 システム名称が利用者により一目で分かる様な業界用語を使わないコンテンツ構築
35	一部のDBにあるように、雑誌記事検索DBにILLリクエスト・フォームがある事を期待する。	
37		
38		
39	特になし	NACISIS-ILLと複写料金相殺システムに加盟する図書館の範囲がさらに広がり、加盟館がふえることが望ましい。
40		
41	できる限り制限を加えない申込方法が利用者にとってよいかと思えますが、長所と短所及び学内LANの申込に制限するか否かなど検討を重ねたい。	各地域や各地区ごとに大学図書館間の相互協力サービスが拡充し、資料の共同利用、相互協力は益々拡大する方向ですので、本学もできる限り大学図書館間の相互協力サービスに参画し、利用者の便宜を図っていきたくと考えております。
42		
43		

整理番号	質問16	質問17
44	NACSIS Webcatに限らず、他館のローカルデータベースも直接参照できて依頼がかけられるシステム。	利用者事前の手続きなしに、大学相互を利用できる環境を前提とした、(垣根のない)オンラインによる依頼・利用環境の構築。
45	特にありません	特にありません
46		
47	申込者が文献を検索したら、その結果、電子ジャーナルでダウンロードできるのか図書館に行ってコピーすべきか、又は相互貸借に依頼すべきか、簡潔に申込者がわかるもの。	電子ジャーナルは、契約上の問題で、PDFは他大学に提供できないが、コピーではいいという契約を採用してほしい点と、NiiのILLで、相殺制度に入っていない大学からの依頼は断る図書館があるが、とても残念である。
48		
49		
50		
51		
52		
53	ICU(国際基督教大学)図書館のホームページ上の「他大図書館を使うには」の中の申込フォームは、大変参考になると思っています。	1館レベルでの資料収集には限りがあるため、大学図書館間の相互協力システムがあることは、利用者サービスにとって必要不可欠のことと思っています。ただし、著作権法の遵守、自館に必要な資料の購入努力を怠らない等々、最低限のマナーを守って、偏りのない、円滑な相互協力業務が行われるよう、各館の図書館員の努力が必要と思います。
54		
55		
57	文献データベースからの書誌情報取込ができ、できるだけ入力項目が少ないもの。	
58	・漠然としているが、システムや型にとらわれない自由でわかりやすい形のものを作れたらと思う。OPACや電子ジャーナルで検索するとヒットすることも多いので、申込者本人が事前に申込画面(もしくはそれにかわる画面)からうまくリンクできる(ナビゲートできる)ようなサービス機能があればと思う。(例えば申込画面でタイトル等入力すると、自動的に本学OPACや電子ジャーナルを検索できる機能があればOPAC等でヒットしたものがあればリンクし、なければそのままオーダーフォームへいくようなシステムがあればいいと思う。)	・FAXでの所蔵確認が主流だが、メールになっていくのは時間の問題かと思う。メールの運用がスムーズにいくよう考えていくべき。・メールの場合でも何かフォーマットを作ったり、所蔵調査専用の申込画面があると処理しやすい。何でもインターネットでやりとりとなると、便利な反面、管理が難しいので個々の大学でというよりは大きな組織でこのような体制を築いてほしい。
59	・当館では、現在web申込は、学内利用者だけです。これを卒業生にも利用できるようにしたい。・代金支払と文献引渡しで利用者は一度は図書館に来るようになってきているが、これを来なくても(文献引渡・代金支払)が済めば便利だと思う。	今後EJのパッケージ購入がどの図書館でも増加し、図書館間の差が出てきています。医学界のレベルアップという広い視野で図書館間の相互協力を考えたい。
60	特になし	特になし
61		
62	申込者が申込フォーマットに誌名、書名を記入した時点でOPACまたはオンライン資料を検索できるような機能を持たせる、そこで入手できない場合に申込が行われるようなシステムがあると良いと思います。	
63		
64	当館のWeb申込は契約中の電子ジャーナル有無をチェックし、冊子体所蔵雑誌の有無をチェックしたのち、複写申込をするというステップを踏む方式である。しかし、電子ジャーナルで入手可能文献を申し込まれる場合もある。	著作権をクリアしてPDFファイルでの文献の送受の実現 Webcatに電子ジャーナルの所蔵を各大学図書館に表示してもらいたい。(電子ジャーナルでもプリントアウトすれば相互貸借可能な雑誌も多いため。)ネットショッピングみたいに、カード支払い、自宅まで届けてくれる。なるべく多くの館に、相殺サービスに加入していただきたい。
65		
66	・利用者が入力した項目のデータ(論文名、利用者の個人情報等)がある程度、業務用の画面に引き継がれると、担当者の手間が省け、ありがたいと思う。・webで申し込みを受けるなら典拠となったホームページにリンクがはれる様になっていると、書誌事項の確認の時間がいくらか短縮できるように思う。	
67	特になし	
68	利用者が申し込んだ情報に対して、電子ジャーナル等に瞬時に参照できるシステムで、入手時間の手間を感じさせないもの。プラス&の参考資料を学内OPACや電子ジャーナルから提示できるシステム。	大学に所属している構成員の全てが自由に電子ジャーナルetc.にアクセスすることができるシステムを単体の大学毎ではなく、コンソーシアム形式で契約できるような相互協力。又、理想ではあるが、大学に所属している構成員の全てが日本中の大学を自分の大学と同様に閲覧、貸出を含めたサービスを受けられる相互協力。
69		
72	わからない	
73	シームレスな検索 ・自館OPACを自動的に検索して所蔵の有無がわかる。・CiNii等と連携して書誌事項を取り込むことができる。	Niiを中心に行う
74	本学ではまだ導入していません。とりあえず、メールだけの連絡でもと考えています。	事務処理が煩雑なため、大学短大等ILL参加機関の相殺への参加が望ましい。
75		
76	特になし	特になし
77		
78		
79	フォームに従って入力し、送信できるソフトウェアの導入。また、入力した情報を送信前に再度確認できるものが良い。相手方への自動リスボンメールが送信されるもの。さらに、利用者が入力した時点で、住所等宛名が自動作成できるもの。	コンソーシアムを組まずとも、身分を証明できる事を前提に紹介状等なしでの相互利用の可能性を拡げたい。スペース、経費の削減のため、分蔵を政策的に推進していく必要があると感じる。また、横断検索に関して、Web-catレベルではなく、単館ごとに事務的に使用しているOPACに直接検索をかけられるシステムが望ましい。
80		
81	昨秋にシステム更新をしてMy Libraryを利用した「予約申込」を受け付けているが、今一つ動きがスムーズではなく、トラブルも多い。「予約」は学内完結型であるが、「相互利用のweb申込」は学外の図書館が相手先となるため、先方館に御迷惑をお掛けしないためです。Web申込をしたことを、当該利用者が忘れてしまわない工夫がほしい。	
82		大学独自に収集した資料について相互協力を行うことが望ましい。
83		
84	特になし	特になし
85	特になし	特になし
87	複写料金の管理が詳細なもの。Nii側画面が分かりづらいので改善してほしい。	銀行振込の大学が増えているが、相殺サービス非参加館にとっては手数料が高く、煩雑に感じる。郵便局に統一してもらえるとありがたい。
88	申し込みから受付、依頼、受渡、決済まで、全体の業務が効率よくスムーズに流れるシステムが望ましい	日本の学術振興の上で重要なシステムであり、今後とも整備を進めるべきである。
89	必要事項が網羅されていれば良いので今のところ特になし。	①図書館予算が縮小傾向にある昨今、増々、相互協力の比重が増えていくと思われる。②国内OJが増えて行くと思う。
90		
92		
93		
94	利用者が使いやすいもの。セキュリティが堅固なもの。機種やブラウザへの依存度が少ないもの。図書館システムとの連携が柔軟に行えるもの。	
95		

整理番号	質問16	質問17
96		
97	9月よりMy Libraryによる申し込みができるようになる。実際に稼働したところで利便性を確認したいと思っている。今後期待するイメージとしては、必要な本や雑誌の情報が学内外を意識することなく検索でき、その中で必要な資料の所蔵の確認が簡単で、ない資料をその場で申し込むことができる、といった方法がとれると良いのではないだろうか。利用者にとっては、図書館は情報入手の手段の一つであり、そこによりよい方法を示してくれる入口があると便利なのだと思う。	大学同士のコンソーシアムが広がってきている。個別の大学間だけでなく、京都や北海道など、地域として、取り組んでいる例もある。また、ほとんどの国立大学図書館が利用率を広げていることもあり、今後、各大学の状況により制限はあると思うが、研究目的であれば、学生、教職員は、学生証、身分証で利用できるようになってほしい。
98	・登録の手間がかからない。(認証が簡単かつ確実である)・利用する側も受付する側もわかりやすいサイト作り・各種データベースとの連携によるデータインポート機能の充実	
99		
100	・NACSIS-CATから書誌事項を取り込んで、利用者が申し込むことができること。(=NACSIS-CATとの連携)・利用者が申し込んだデータを、NACSIS-ILLへ取り込めるようにすること。(=NACSIS-ILLとの連携)	郵送、FAXでのやりとりから、今後は電子データ(全文ファイル)のやりとりが多くなるのではないと思う。その場合、著作権のクリア化、料金の低設定化等が課題となると考えられる。
101	web-cat等から書誌事項等を取り込める。	促進していくべきであるとする。
102	特になし	電子ジャーナルのILLについて基本ポリシーと具体的な手順を確立することの必要性が急務であると思います。
103	・詳細な内容のやりとりができる機能を持ち合わせたシステム・MAGAZINEPLUS、CiNiiなどのデータベースや検索エンジンの検索結果から、一次情報データベースや掲載雑誌の所蔵検索やILL申込が横断的に表示、選択できるようなシステム	
104	?	研究室配備のためキャンセル。受付出来ないのとき、何か表記されていないと…
105		
106	web申込の段階で、OPACやNACSIS-CATの書誌データを取り込めると便利だと思われる。	
107		
108	紹介状や閲覧願いの申込。所蔵調査などもwebを使ってできる機能など	・各大学が設定する複写料金(単価、包装料の有無など)や借用時の包装料などにバラつきがあり、依頼先の選定に苦慮している。できるだけ平均化され、サービスの観点に立った相互協力ができればと考える。・ILLは自館に資料がないからその利用であり、利用者は所蔵する大学・機関によってその情報量に大きな差があるのが現状。各館がどこまで資料を揃えられるか利用者にとりだけ負担をかけずに提供できるかを考える必要があると思う。
109		
111	イメージが思い浮かびません。勉強不足で申し訳ありません。	料金や支払い方法の統一化、ILL相殺制度に未加入のため、非常に手間がかかっています。
113		
114	データが蓄積され、動向分析も可能なシステム。	・依頼先館のポリシーを必ず確認した上で申し込んでほしい。・書誌事項確認の徹底。・大規模館への安易な依頼は控えること。
115	無し	無し
116		
117	特になし	特になし
118		
119		
120	各種検索結果からの書誌事項取込機能・所蔵、契約情報へのリンクにおける確実性・キャンセル連絡の自動化	
121	・Web申込みの際、自館所蔵について認識されるシステムがあれば便利だと思う。・必須項目が入力されていないと送信出来ない、不備のない申込みが望ましい。・パトロン(イニシエイド・ILL)という申込者が直接相互貸借先に依頼できる申込(Web申込み)の定着、実現。	・ILLが不可欠なサービスとして定着し、資源共有という、図書館相互協力の理念と、有効性が広く理解されたと言われている、不可欠な、Nacsis catの整備を求め(重複書誌レコードの改善雑誌所蔵レコードの更新遅延をなくす事)相互理念を大切に、依頼のみの利用ではなく、受付も謝絶することなく迅速に協力するという姿勢を守ること。・電子ジャーナル等の流通に移行すると考えられるので、各大学が発行する紀要などについては、電子化に推進し、インターネット上で提供し、協力するという方向性に賛成する。
122		
123	CiNiiの検索結果画面より、利用者本人が申込ボタンを押す→所属館のローカルシステムへオーダー依頼が反映される→職員がオーダーする、というイメージです。学内LANの中であれば利用者の所属図書館が絞れるので、本人の入力内容と一致するかの確認ができないかな…と。但し、申込画面での入力必須項目(学籍No.など)が、図書館ごとに異なると思うので、どこまで館別設定できるか、あるいは標準化できるか、わかりませんが、イメージに留まります。	
124	文献データベースと連携して書誌事項を取り込むようにしたいが、(例えばPubMed)、NLMの申請等が難しく、困っています。(図書館システムには、その機能がついていますが)その辺が、もう少し簡単に手続きできれば、利用者にとっても便利になると思うのですが。	
125	図書・雑誌の電子化による、申し込みの削減	図書雑誌の分担収集・分担保存を地域単位で推進すること。
126		海外への申し込み時など、他館の過去の経験を参考にしたいと思うことが多い。お互いに情報を交換する機会があれば良いのではないかと思います。
127		
128		
130	・学内のOPAC画面で検索し所蔵がない場合、申込画面に移行する画面遷移・CiNii、NDL-OPACなど無料DBの検索結果から申込画面を作成できる機能	
131	・申込者の入力データが、直接文献複写依頼システムに反映されるもの。(担当者による再入力が必要であること)。・自館の所蔵調査結果により、申込みにチェックがかかるもの。・自館の所蔵調査と併せて、インターネットや各大学のデータベースで無料公開しているかどうかを検索してくれるもの。	・送料の利用者負担をなくす。(大学または国が負担)。・学術論文のデジタル化をすすめ、公開する。・相互に協力しあうことを第一義としてほしい。依頼件数を限定するなど、業務の都合を優先させるのは控えてほしい。
132	利用者が主体となって、個人で自由に依頼が出来るシステムが望ましいです。	複写、現物貸借の効率化の意味で、Nacsis-ILLが果たした役割は非常に大きいと思います。ネックとなっていた料金収受も相殺システムの導入により、飛躍的に利用増加につながったことですが、今後は、業務そのものの、On-Line申込が可能となれば相互貸借業務ひいては、図書館そのものの、相互利用にあり方も激的に変化するものと期待して居ります。
133	図書館システムのパッケージによっては実現していますが、外部の文献データベースから書誌事項の流用が可能になること。	・国立国会図書館のNII料金相殺システムへの参画・国立大で多くみられる「研究室所蔵」のため利用不能という状況の改善・都内に立地する有力私大の「都内の大学への貸借不可制限」の改善・今後電子ジャーナルの一層の普及により洋雑誌論文の利用者自身の自足的入手環境は改善していくと考えられる。そうした中、電子化されない文献の相互協力の利便性の向上(とりわけ現物貸借サービスの向上)が求められていると考えられる。
134		帳票等の統一が行われると助かります。
135	書誌データの自動取りこみ	
136	・他館利用申請・所蔵調査・参考調査・紹介状	
137		

整理番号	質問16	質問17
138		
139		
140		現物貸借で借りた資料の文献複写が、借り受け館で可能になればと思う。国立国会図書館は、本年より一部資料は可能となったので…
141	申込者はweb上の申込みフォームに必要事項を入力する→ILLシステムに書誌データ、ローカルデータを自動入力→ILLシステムのOK(確認)、BORROW(借用中)で登録メールアドレスへ自動送信→開封確認等要工夫→申込者へ受渡し→現物貸借の場合、一定期間(設定可能)前に返却期限確認メールの自動送受(申込者および係)→返却	
142		
145	・文献データベースの書誌を取り込んでそのまま申し込み。・学内所蔵の巻号次までの所蔵を検索するチェック機能。・利用者との料金決済の簡略化。	資料費削減、書架狭隘が進む中、相互協力を活発に行きたい一方、相互協力による本学学生と他学学生へのサービスのあり方(サービスの差)について再考する余地もあるかと思う。
146	雑誌タイトルを入力した際に、自館の所蔵検索システムや、導入している電子ジャーナルとリンクして利用者が所蔵の有無を知ることができるになれば便利だと思います。	
147	申し込みを行った時に自動的に所蔵調査を行ってくれる機能。入力の不備を自動的に補ってくれる機能	
149	8の質問にあるような、他の文献データベースとの連携機能が備われば、さらに便利になると思われる。文献データベースでの検索結果、論文情報、書誌事項等を、そのままweb申込に流用できるようになれば、申込者の利便性はさらに向上し、入力ミス(コピー、ペースト時の間違いなど)も減るので、業務にあたる図書館職員側も、ムダな確認作業が減って、業務の効率が向上すると考えられる。	電子ジャーナル化の進んでいる洋雑誌に加えて、日本の学術雑誌や大学紀要なども、電子化が進んできているが、紙媒体が、なくなるところまではいかないと考えられる。情報が氾濫する一方で、予算や、収容スペースに制約がある大学図書館においては、今後も、相互協力の役割や必要性が低下することはないと考えられる。DDSなどの普及などで、さらにスピードを求められるようになりうると考えられる。
150	・利用者が申し込んだ時点で所蔵が確認できるとよい	・複写料金の統一「相互」協力になっていない
151		NACSIS-ILLの料金相殺サービスは、現行では小規模館には何の益もないので即刻廃止すべき。図書館間の格差を助長していると思えない。
152		
153		
154	各種OPAC、データベース等と連動し、書誌情報や記事情報の該当データを用いて、利用者が極力自然言語を入力しないで済む選択式の入力フォームを用意する。これによって利用者の自己責任の明確化と図書館側の人為的ミスの防止が図れるのではないか。	サービスの均質化による本物の「相互」協力を目指すべきである。現在の大学間ILLは、件数、料金、所要時間等が各館の事情により統一されておらず、その結果、協力的な大学図書館に負担を強いているのが現状である。複写料金の定額化や処理期間の制限ルール化、複写範囲や複写方式の統一化、系統的に依頼先を分散させる等の方法により、各館のサービスの均質化を図り、負担の平均化を図るべきである。
155	web申込したものを大学以外の場所(駅、コンビニ等)で受取、返却などでできれば利用しやすそうです。	
156		社会的にも著作権に対する関心が高まる中、相互貸借にかかわる法規やガイドラインの周知徹底は、より必要であると感じる。そのため、各館での共通認識や問題点(特に著作権がらみ)の把握のために、大学図書館の相互貸借担当者を対象とした講習会や勉強会が開かれることを望む。
157	学生数の多い大学図書館にとっては、利用者にとって便利であるだけでなく、大量に申込があっても捌きやすい仕組みである事が重要になります。利用者の認証からILL申し込みへの遷移ひとつとっても連続して何件も申し込みができるのは便利ですが、学内で共用されるPCからのアクセスがあるならそれは危険・など相反する点があります。全体からバランスを見て、細部を決めてゆくことになると思います。	相互協力の前提となるマナーのようなところを、相互に確認できる場や仕組みがあれば、と感じることがあります。蔵書を公開(登録)する範囲を広げると他からの利用が増えますので、方向性だけでも互いに確かめたいものです。
158		
159	OPAC画面からILL申込画面にジャンプするのが普通だと思うが、データベース検索画面からダイレクトにweb申込画面へジャンプできると非常に便利(無理かな…?)	
160		
161		
162	ありません	ありません
163		
165		
166		
167	紙の申込書のフォームでそのまま送受信できる。	
168	現行ではDBを検索した結果から1件毎に申し込むことしかできないが、今後は1回の検索結果から文献取り寄せで申し込みしたいものを、複数件「買物カゴ」にまとめて申し込めるようになると、利用者にとって便利なサービスとなる。	Web申込みなどが普及して便利になる反面、担当者間も顔が見えないサービスになりつつある。連絡会や(研修会)等で、担当者が顔を合わせる機会が(必)(重)要になってくると思う。
169		
170		
171	現状での利用は、あまりないのですが、環境が整えば、図書館の予約や文献複写依頼は、学生にとって利用しやすい図書館への一歩となるのではないかと思います。図書館員としては、セキュリティ問題等も含めて、学ぶところは沢山あるかと思いますが、少人数で業界を行っているので、サービスの向上がはかれるのではないかと考えています。	
172		個々の大学間の協力は、NII経由で効率化、利便化を図りたい。
173		
174		
175	特にありません。	文献複写に関して、蔵書数が多い図書館に集中するのは当然といえるが、コピー代金が安い図書館に集中しないよう、館外者へのコピー料金の統一化を検討すべきであると思う。
176	・利用者からの申込を図書館が受け取ったという受付メールが自動送信されること。・必須項目を設けることができ、入力しないと受付しない事が可能であること。・返送先のメールアドレスが申し込み時に明示され、複数の場合は選択できること。・利用者とのやりとり(何度か)ができること。・資料が到着した連絡ができ、その際、料金等が明示できること。・パッケージの場合、カスタマイズが容易であること。	大学間の相互協力については全体としては問題なく運用されているように感じます。ただし、文献複写料金については、各機関によってかなり幅があるという点について疑問を感じます。統一すべきだと思います。
178	・現在、本学では他のサイト等で調べた内容を利用者本人が入力し、申し込んでいる。このため、申し込み内容に不正確な点も多い。・webで検索したデータを流用して、申し込める形にすれば申込内容の正確性が増すのではないかと考えられる。	・ILLの料金決済方法(料金も含む)が、大学により違いが多い。機関、組織の規則上の制限から相殺サービスを利用できない大学もあるので考慮して欲しい。・大学図書館間の相互協力、大学以外の学術研究機関及び公立図書館との連携協力の重要性は増しており、これらに対応するためにより一層の効率的なサービスが求められていると思う。
179	web上の電子ジャーナルやデータベース結果を表示→自館の共通のボタン→ILL申込み画面	
180		
181		自館で所蔵していない資料を取り寄せるのに、便利であり日々、大変助かります。各大学の事情もあるでしょうが、複写料金の各差があるのが気になります。時には手数料なども取られたりと、矛盾を感じながら業務をしています。

整理番号	質問16	質問17
182	難しい物に関しては、情報が少ないと、申込者と何度もMail等のやり取りをする事になり、時間的なロスが大きくなります。申込時に必須項目を設定するのはもちろんですが、利用者の持っている情報を最大限引き出し、入力させる事が出来るようなフォーム、システムを作れたらいいと思います。	
183		
184	Niiとの連携 検索結果をそのまま申込に利用できる仕組みがほしい	
185	完璧なフローで申込が出来るシステム。利用者がキーワードを入れればチェックを入れた文献データベースを横断検索してくれて(しかもゆらぎも考慮に入れてくれて)、自館にあるとか電子ジャーナルで取れるとか完璧に見てくれて、最終的に文献取寄せを申し込む、となるシステム。申し込む時も「優先事項があればどうぞ」と「料金が安い」「到着が早い」など条件を選ぶことが出来て、結果、NACSIS-ILLでシステムが勝手に所蔵館を確認した上で「文献のお渡しは5月30日13:00の予定です」とメッセージが出る。(その頃にはNACSIS-ILLも、今すいてるとか担当者が寝込んで処理が遅れているなどの情報が瞬時に反映されるよう改善されていて、渋滞状況のように込み具合がわかるようになっていて。)到着予定を見た上で利用者は文献を申し込むことが出来る。そんな夢のシステム、誰か作ってくれないだろうかと思う。	NIIの料金相殺制度により飛躍的な発展を遂げたILL業務だが、今後は文献送付方法の改善について大学図書館全体として働きかけを行っていくよと思う。利用者のオンライン申込導入館の増加、ILL担当者はNACSIS-ILLで申し込み、けれど肝心の文献到着がまだまだなのである。今後はDDSでの送付も多くなると思うが、今のところ主流は郵送とメール便。近年登場したクロネコメール便は料金の安さと到着の速さで郵送にまさっていたが、2006年10月からサービス内容が変わり、到着にかかる日数が増えてしまった。カタログ類の送付をターゲットにした変更と思われるが、「ここにこんな客もいるぞ」ということをアピールし、ILLをターゲットにした新サービス(とにかく速い&確実)を提唱して、ヤマトに始めてもらえたりするといいのではないか。(別にヤマトでなくてもいいが。)
186	OPAC検索→データベース→依頼 と、依頼者の入口が1つで済むもの。	分科会のような研究会に参加して、悩みや、対策などを共有できる場合は、大変貴重だと思います。ただ、館員の減少などにより、参加できないという現実もあると思います。
187		
188	・利用者が、申込画面で連絡用メールアドレスの設定が行える ・窓口で利用者と現金の受領を行わないですむ、決済システムを含む、あるいは、連動できるシステム	・貸借資料の送料の一律化(アカデミック割引のような郵便局との提携)
189		
190	申込画面が全国同一だったらわかりやすくていいと思います。	特になし。
191	申込をする前に、冊子所蔵やEJ利用状況を調べてからじゃないと申込画面に進めないようになっていて便利だと思う。所蔵状況を確認せずに申込をしまうと、その後、図書館での処理に手間がかかる。簡単にweb申込ができすぎて、利用者が欲しいと思った文献を何も考えずに大量に申し込んでくるのがこわいです。	当館はNIIの料金相殺に参加していません。相殺館以外は受付しない、相殺館以外は前納、としている大学もあり、肩身のせまい思いをしています。相殺館以外でも、普通に受付してもらえるようになると良いなと思います。
192		
193		
194		
195		
196		貸借について:利用期間を統一して欲しい。利用期間が短い期間では往復で2週間という場合、利用者への連絡時間等を含めると利用しないですぐ戻す場合もあります。1ヶ月位を基準として見直して欲しい。
197	①NACSIS書誌を参照マークとした申込 ②商用DBの検索結果を貼り付けた申込	
198	特になし	特になし
199		現在は借用図書のコピーを許可する大学が増えていますが、利用は館内に限定されています。副本を購入しないようにしている為、入手困難な資料は所蔵大学に頼らざるを得ません。出来れば、館外での利用が可能になれば、利用の増加につながると思われます。
200	自館の図書館システム中に専用フォームをつくり、利用者が自由に申し込むことができる、且つ図書館でも個々の申し込みについて管理できる機能を持つ仕組みがあると良い。図書館のOPACと連動し、所蔵がある場合などは自動的にキャンセルされると良い。	
201	データベースと学内LANのリンクされていて、しかもデータベース上の文献情報が利用者の手入力なしで、web申込の情報に自動入力されるようなweb申込システム。	1. 国立情報学研究所へ全所蔵の登録と、公開されていると良い。2. 全所蔵の公開の中で、貸借の区別(有無)の明記 3. 貸借した資料は、依頼館でのコピーが可能であれば良い。4. コンソーシアムの拡大 現在は、他大学への閲覧に、閲覧願等の提出が必要なので、学生証などの身分証明書の提示により、利用が可能になってほしい。5. 他大学での閲覧は、資料を限定し、利用させていただいているが、資料だけではなく、テーマの提示(テーマの関連資料)により、閲覧が可能にしてほしい
202	なし	なし
203	学内・学外を問わず、web申込により、大学図書館に申請でき、利用者が必要な文献をすばやく取りよせることができるシステムが必要だと思います。そのためにはweb申込による利用者の申請及び大学間の申請手続き処理の簡略化を具体的に検討する必要があると思います。本学図書館の課題です。	利用者の要望は増加し、更に専門分野の文献探索が国内外問わず図書館によせられています。図書館の任務として、その要望にすばやく対応しなければならず、大学間の相互協力は不可欠です。現在はインターネットを通じて相互協力業務が利用者及び図書館員にとって大変スムーズにおこなえるようになってきたと思います。今後、相互協力を利用する環境を整備し、効率の良いシステムを構築することが必要だと思います。
204	CiNii等の検索画面から直に所属大学の図書館に申し込みができるもの。イメージ的にはNDLの申し込み画面で、国立国会図書館の代わりに、自館に申し込める。	紀要は全て、CiNii等にアップして、自由に利用できるようにするだけで、かなり各校の負担が減ると思う。
205		
206	自館OPACと連携したチェック機能があると便利である。冊子・電子ジャーナルの所蔵が有る場合は申請却下となるとよい。申込の控が確実に申込者側に残るようなシステム。(確認メールを自動受信等)	
207		
208	1. 重複check機能 web申込された該当論文もしくは図書が本学で所蔵しているか及び契約している電子ジャーナルにあるかどうかチェックする 2. Web検索 雑誌名もしくは図書名更に論文名がweb上のデータを自動的に検索する。	1. 一局集中しないようなシステムの構築 2. 添付ファイルによるEmailでの運用 3. 上記Email運用になった場合の価格体系の検討 4. コンソーシアム加盟館同士の相互貸借の利便性を高める事
209		
210	特になし	
211	医中誌やPubMedなどの検索結果から冊子と電子ジャーナルの所蔵の有無が確認でき、その画面からweb申込ができる。Web申込は検索結果の書誌事項が流用できると便利である。	当館を含め、より多くの大学図書館において、著作権をクリアしている文献についてはDDSで送受信できるようになると、コスト面からも時間的な面からも有用であると思います。
212	本学の場合、外部データベース(無料データベース含む)との連動をサポートする機能。	冊子体だけではなく、各大学が契約している電子ジャーナル・電子ブック等も含めた所蔵館を検索し、相互協力できるシステムが今後望まれる。
213	Ciniiやマガジンプラス、国会記事検索などのデータからコピーペーストでなく、流用できるシステムになると便利です。現在は、その資料が本当に依頼しないと入手できない資料かを判別するまでいくつもの段階をふまなければなりません。OPACそのものももっと良くなって、検索のコツがわからなくても資料にたどりつけるようになると良いと思います。	NII加盟館はすべて相殺システムに加入すべきだと思います。貸借資料は、館外貸や複写が可能になると、利用者にとっては良いと思います。
214		
215		
216	特になし	特になし
218		受付件数の増加や国立大学の独立行政法人化などにより、複写料金がかなり高くなっているが、せめて自大学の刊行物については、安く提供してほしい(すべてを電子化するのは難しいと思われるから)。

整理番号	質問16	質問17
219	NII ILLから、大学図書館以外の図書館に依頼できると便利です。	
220		
222		
223		
224	特になし	電子ジャーナルを提供している出版社の中には、途中で購読契約を解除しても、契約期間中閲覧可能であったジャーナルは、解除後の閲覧を保証するところが出始めており、今までコアジャーナルが突然閲覧できなくなることへの不安から、例え電子媒体で閲覧出来たとしても安全のために冊子体も購読し続けていた図書館も、安心して電子媒体へ完全に移行するところも出て来ると思われます。もし、このような傾向が急速に広がった場合に、今までのように冊子体であれば、相互貸借制度を通して他館から複写を取り寄せることは容易にできましたが、電子ジャーナルの場合にはどうなるのか不安を覚えます。大手の大学は必要な電子ジャーナルは自前で契約できますが、財政的に余裕がない中小の大学は容易に電子ジャーナルを購読することは出来ないため、急速に電子媒体へ移行が進むと、複写の入手が難しくなることが予想されます。確かに、電子ジャーナルでも、それを印刷したものであれば、従来どおり相互貸借出来ますが、これを可として公表している館が現在の程度あるのか、また不可としている館は今後の対応をどう考えているのか、先ずは知りたいところです。今後、相互協力のあり方の議論の中で、この件を取り上げて頂きたいと思っています。
225	申し込みだけでなく、文献到着のお知らせまで全てを業務と連携し、webで行えると便利。文献検索データベースから、書誌等の情報が引用できれば、記入ミス等も減るので作業がスムーズに行える。	
226	データベースから1クリックで蔵書、オンラインジャーナルを検索してヒットすればその結果を返す。ヒットしなければILL申込画面に書誌情報を自動入力、その場で申込ができる。利用者、図書館双方の負担がなくなるシステム。	
227	web申込をしたあと、最近インターネットで買物した時のように、“確かに承りました”というメールを自動送受信できるようにしたい。(設定している大学もあるようですが)	洋雑誌の高価格や資料費の削減により、資料の分担収集や分担契約の時代に近い将来来るかもしれません。文部科学省、NII、国公私立大学、国会図書館など、学術情報を扱う部署が英知を出し合うことが必要だと思われま。
228	学内LANを利用したもので、自館のホームページから個人のID、パスワードで申込可能なもの。(到着資料や金額を通知できる機能があれば便利)	地方大学にとっては特にオンラインによる処理の迅速化は必要不可欠である。国公私立大学を問わず、相殺制度非加盟のところからの依頼も是非受付してほしい。
229		
232		
233	web申込時に蔵書検索やCiNii等のデータベース検索ができると良い。	
234	利用者からすれば、思い立った時にいつでもどこからでも申込ができ、しかも自分がキーボードから入力する部分が極力少なくてすむような仕組みができると良いのと思う。	共同目録システムのように、「文献そのもの」も共有ファイルとしてサーバー上に置いておき、依頼した各館がそこにアクセスしてダウンロード、プリントアウトするというようなオンデマンド方式になると良いと思う。
235	①My library、リンクリゾルバを経由しての申込。つまり、1つ1つの項目を手入力するのではなく、検索書誌をそのまま流用しての申込が期待される(導入予定)。②1日あたり数十件申込をする教員が存在。その場合、同一タイトルであれば、“繰り返し”機能などの機能が期待される。(存在するかも…)	①相殺参加の促進②複写料金のバラツキ(安い館に集まる)の是正③コンソーシアムなどによる分担収集とそれにもなう迅速な複写物のやりとりが可能にならなければ、“相互”という姿勢が壊れていくのではと危惧。←内部予算の削減・journal価格の高騰。“一方的な”債務、債権超過というかたよりが強くなっているのでは、強くなるのではと想像します。
236	申込時に利用者が登録したメールアドレスに、到着したら自動でメールが配信されるシステム。料金等を入力しなくても、所定の金額が通知可能であれば便利。(自動配信システムは実際にとり入れているシステムもありますが。)	
237		
238		
239	直接利用者が来館の必要がなく便利だとは思いますが、未だイメージもわからない。	
240	・文献献索用データベースの献索結果が、そのまま流用できるもの ・申込者と受付側のコミュニケーションが容易なもの。	
241	自分の必要テーマの新着情報があると便利。	文献複写依頼を行った場合、紙媒体だけでなく、電子媒体(PDFなど)でのやり取りを増やしていきたい。各大学で電子ジャーナルを契約しているが、分野別に契約を行い、文献複写サービスを活用していきたい。
242		
243	EJの所蔵が増えているが契約等で文献複写の対応していない機関が多い。著作権の問題がかかわってくるが、将来的には、利用機関相互に文献のファイルをメール添付で送信できれば時間短縮、送料無料となり利用者にもプラスになる	
244		
245		
246	特になし	特になし
247		
248		
249		
251		
252		

回答図書館・一覧 (五十音順)

図書館名称	図書館名称
1 青山学院大学図書館	66 芝浦工業大学大宮校舎図書館
2 青山学院大学図書館万代記念図書館	67 秀明大学図書館
3 秋田看護福祉大学附属図書館	68 十文字学園女子大学図書・情報センター図書館
4 旭川大学図書館	69 淑徳大学附属図書館
5 麻布大学附属学術情報センター	70 順天堂大学図書館
6 亜細亜大学図書館	71 尚絅学院大学図書館
7 足利工業大学附属図書館	72 城西国際大学水田記念図書館
8 跡見学園女子大学図書館	73 城西大学水田記念図書館
9 石巻専修大学図書館	74 上智大学中央図書館
10 茨城キリスト教大学図書館(文学部)	75 湘南工科大学附属図書館
11 いわき明星大学図書館	76 尚美学園大学メディアセンター
12 上野学園大学音楽・文化学部図書館	77 上武大学附属図書館
13 浦和大学図書・情報センター	78 昭和音楽大学附属図書館
14 江戸川大学総合情報図書館	79 昭和女子大学図書館
15 奥羽大学図書館	80 昭和薬科大学図書館
16 桜美林大学図書館	81 女子栄養大学図書館
17 大妻女子大学図書館	82 女子美術大学図書館
18 大宮法科大学院大学図書館	83 白梅学園大学図書館
19 嘉悦大学情報メディアセンター	84 白百合女子大学図書館
20 学習院女子大学図書館	85 杉野服飾大学附属図書館
21 学習院大学図書館	86 駿河台大学メディアセンター
22 神奈川工科大学附属図書館	87 諏訪東京理科大学図書館
23 神奈川歯科大学図書館	88 聖学院大学総合図書館
24 神奈川大学図書館	89 成蹊大学図書館
25 鎌倉女子大学図書館	90 成城大学図書館
26 川村学園女子大学図書館	91 聖心女子大学図書館
27 神田外語大学附属図書館	92 清泉女子大学附属図書館
28 関東学院大学図書館	93 聖徳大学川並記念図書館
29 関東学園大学松平記念図書館	94 聖路加看護大学図書館
30 北里大学医学図書館	95 聖隷クリストファー大学図書館
31 共栄大学図書館	96 専修大学図書館
32 共立女子大学図書館	97 仙台白百合女子大学図書館
33 杏林大学図書館	98 創価大学中央図書館
34 国立音楽大学附属図書館	99 大正大学附属図書館
35 群馬社会福祉大学図書館	100 大東文化大学図書館
36 敬愛大学メディアセンター	101 高崎健康福祉大学図書館
37 慶應義塾大学メディアセンター本部	102 高千穂大学図書館
38 恵泉女学園大学図書館	103 拓殖大学図書館
39 敬和学園大学図書館	104 玉川大学図書館
40 工学院大学図書館	105 多摩大学メディア&インフォメーション・センター図書館
41 郡山女子大学図書館	106 多摩美術大学図書館
42 國學院大学図書館	107 千歳科学技術大学大学情報センター
43 国際医療福祉大学図書館	108 千葉科学大学図書館
44 国際基督教大学図書館	109 千葉経済大学総合図書館
45 国際大学松下図書・情報センター	110 千葉工業大学附属図書館
46 国際仏教学大学院大学附属図書館	111 千葉商科大学附属図書館
47 国際武道大学図書館	112 中央学院大学図書館
48 国土館大学附属図書館中央図書館	113 中央大学図書館
49 駒澤女子大学図書館	114 筑波学院大学附属図書館
50 駒澤大学図書館	115 つくば国際大学図書館
51 埼玉学園大学情報メディアセンター	116 津田塾大学図書館
52 埼玉工業大学図書館	117 鶴見大学図書館
53 相模女子大学附属図書館	118 帝京科学大学附属図書館
54 作新学院大学図書館	119 帝京大学図書館
55 札幌大谷大学・札幌大谷短期大学図書館	120 帝京平成大学図書館
56 札幌学院大学図書館	121 デジタルハリウッド大学メディアライブラリー
57 札幌国際大学図書館	122 田園調布学園大学図書館
58 札幌大学図書館	123 天使大学図書館
59 産業能率大学図書館	124 桐蔭横浜大学大学情報センター
60 静岡英和学院大学図書館	125 東海大学附属図書館
61 静岡産業大学図書館	126 東京医科大学図書館
62 静岡福祉大学附属図書館	127 東京医療保健大学附属世田谷図書館
63 静岡文化芸術大学図書館・情報センター	128 東京音楽大学附属図書館
64 静岡理工科大学附属図書館	129 東京家政学院大学附属図書館
65 実践女子大学図書館	130 東京家政大学図書館

図書館名称	図書館名称
131 東京基督教大学図書館	198 八戸工業大学図書館
132 東京経済大学図書館	199 八戸大学図書館
133 東京工科大学メディアセンター(図書館)	200 浜松大学付属図書館
134 東京工芸大学中央図書館	201 東日本国際大学昌平図書館
135 東京国際大学金子泰蔵記念図書館	202 フェリス女学院大学附属図書館
136 東京歯科大学図書館	203 藤女子大学図書館
137 東京慈恵会医科大学学術情報センター図書館	204 富士大学図書館
138 東京情報大学情報サービスセンター	205 富士常葉大学附属図書館
139 東京女学館大学図書館	206 文化女子大学図書館
140 東京女子医科大学図書館	207 文京学院大学ふじみ野図書館
141 東京女子体育大学付属図書館	208 文教大学越谷図書館
142 東京女子大学図書館	209 文星芸術大学図書館
143 東京神学大学図書館	210 平成国際大学附属図書館
144 東京聖栄大学図書館	211 法政大学図書館
145 東京成徳大学図書館	212 北翔大学図書館
146 東京造形大学附属図書館	213 北星学園大学図書館
147 東京電機大学総合メディアセンター(図書館)	214 星薬科大学図書館
148 東京農業大学図書館	215 北海学園大学附属図書館
149 東京富士大学図書館	216 北海商科大学付属図書館
150 東京薬科大学情報センター	217 北海道医療大学総合図書館
151 東京理科大学図書館	218 北海道工業大学図書館
152 道都大学附属図書館情報館(札幌キャンパス)	219 北海道情報大学図書館
153 桐朋学園大学音楽学部附属図書館	220 北海道東海大学付属図書館中央図書館
154 東邦大学医学メディアセンター	221 北海道文教大学附属図書館
155 東北学院大学中央図書館	222 松本歯科大学図書館
156 東北芸術工科大学図書館	223 松本大学図書館
157 東北工業大学図書館	224 身延山大学図書館
158 東北女子大学付属図書館	225 宮城学院女子大学図書館
159 東北福祉大学図書館	226 武蔵工業大学図書館
160 東北文化学園大学総合情報センター図書館	227 武蔵大学図書館
161 東北薬科大学附属図書館	228 武蔵野音楽大学図書館江古田キャンパス
162 東洋英和女学院大学図書館	229 武蔵野学院大学図書館
163 東洋学園大学図書館	230 武蔵野大学図書館
164 東洋大学附属図書館	231 武蔵野美術大学美術資料図書館
165 常磐大学情報メディアセンター	232 明海大学浦安キャンパスメディアセンター
166 常葉学園大学附属図書館	233 明治学院大学図書館
167 獨協医科大学図書館	234 明治大学図書館中央図書館
168 獨協大学図書館	235 明星大学図書館
169 苫小牧駒澤大学図書館情報センター	236 目白大学新宿図書館
170 長岡造形大学附属図書館	237 ものづくり大学図書館情報センター
171 長岡大学図書館	238 盛岡大学図書館
172 長野大学附属図書館	239 八洲学園大学付属図書館
173 新潟医療福祉大学図書館	240 山梨英和大学附属図書館
174 新潟経営大学図書館	241 山梨学院総合図書館
175 新潟工科大学附属図書館	242 横浜商科大学図書館
176 新潟国際情報大学情報センター	243 酪農学園大学附属図書館
177 新潟産業大学附属図書館	244 立教大学図書館
178 新潟青陵大学図書館	245 立正大学大崎図書館
179 新潟薬科大学図書館	246 流通経済大学図書館
180 二松学舎大学附属図書館	247 ルーテル学院大学図書館
181 日本工業大学図書館	248 麗澤大学図書館
182 日本体育大学図書館	249 和光大学附属梅根記念図書館
183 日本医科大学中央図書館	250 早稲田大学図書館
184 日本歯科大学歯学部図書館	251 稚内北星学園大学図書館
185 日本社会事業大学附属図書館	252 和洋女子大学メディアセンター
186 日本獣医畜産大学図書館	
187 日本女子体育大学附属図書館	
188 日本女子大学図書館	
189 日本赤十字看護大学図書館	
190 日本赤十字北海道看護大学図書館	
191 日本大学総合学術情報センター	
192 日本橋学館大学図書館	
193 日本薬科大学図書館	
194 人間総合科学大学図書館	
195 ノースアジア大学附属図書館	
196 白鷗大学総合図書館	
197 函館大学図書館	

## 第3章

### 2006年度活動報告

平成18（2006）年度 夏期研究合宿

（大阪大学附属図書館生命科学分館、国立国会図書館関西館 見学レポート）

麗澤大学図書館 豊島 寛

日 時：平成18（2006）年8月30日（水）～8月31日（木）

見学場所：大阪大学附属図書館生命科学分館、国立国会図書館関西館

参加者：青木 仕、清水 ゆかり、豊島 寛 （五十音順 敬称略）

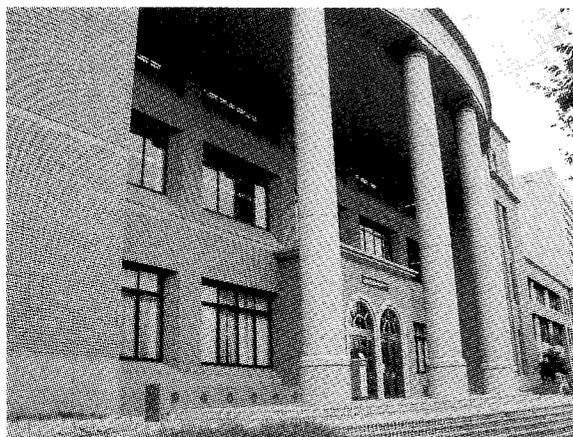
オブザーバー参加者：三上 彰氏、矢部 知美氏（桜美林大学図書館）

平成18（2006）年度の主な活動は、大阪行き夏期合宿を行った。

7月までに途中退会者が2名おり、正会員が2名となってしまう、分科会の存続の危機もあったが、どうしても大阪へ行きたいとの思いが通じたのか、直前に正メンバーリスト会員1名が加わり、無事大阪行きとなった。

1日目は大阪大学附属図書館生命科学分館、2日目は国立国会図書館関西館を見学した。

1日目 大阪大学附属図書館生命科学分館 見学



我々が大阪大学附属図書館生命科学分館を見学先に選んだ理由は、相互貸借受付が全国トップであり、ピーク時の平成10年度には71,025件、近年電子ジャーナルの影響で件数が減ったとはいえ、いまだに年間4万件（平成17年度39,321件）を処理しており、どのような図書館か興味を持っていたからである。

NII（国立情報学研究所）の平成17年度統計によると、相互貸借受付件数トップはこの大阪大学附属図書館生命科学分館、ついで東京工業大学附属図書館、そして東北大学医学図書館の順である。

「なぜ大阪大学附属図書館生命科学分館に相互貸借受付が集中するのか」の答えは、やはり全国に3つある医学・生物学系の外国雑誌センター館の1つであるのが大きく、現在約16,000タイトルの雑誌を収蔵しており、ここにしか所蔵がない継続雑誌は実に960タイトルに上っているからである。

これだけの受付件数であるので、さぞ大人数で作業しているかと思っていたが、意外と少人数で処理していた。職員数は常勤12名、非常勤10名、派遣1名、請負1名の計24名。そのうち相互貸借業務に係わる人数としては、依頼（参考調査係）が常勤2名、受付（資料サービス係）が常勤1.5名、非常勤2名、請負1名の計4.5名である。

この生命科学分館の前身は中之島分館。これが薬学部分館、歯学分室と統合して、1992年生命科学分館として開設された。建物は地上4階で平面積は6,481㎡。棚板延長は18,678m、収容可能冊数は518,833冊となっている。

次に、大阪大学附属図書館生命科学分館の見学について

大阪府吹田市にある大阪大学附属図書館生命科学分館近くの生協食堂でレファレンス研究分科会の三上彰氏（自費参加）と合流する。（ここから4名）

約束していた14時に大阪大学附属図書館生命科学分館に向かうと、4階の大会議室に案内され、一同驚嘆の声が上がった。役員クラスが行うような本格的な会議室であった。

大阪大学からは専門員1名と資料サービス係員1名が参加。事前にこちらから渡してあった質問について、回答を1つずつ読み上げ、確認していくという方式で進行的した。（別紙参照）

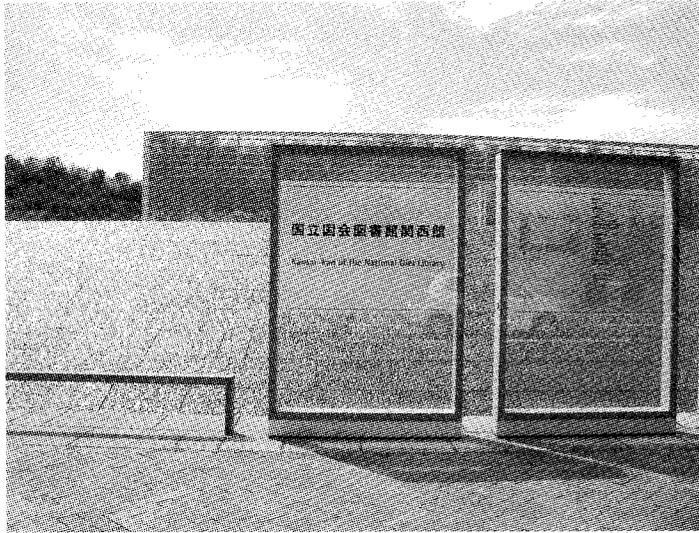
途中医学情報課長から、ご挨拶をいただく機会もあり、また課をあげて質問に答えていただいたようで、この回答のコピーが課員の皆さんのデスクにおいてあった。

この後、1階に降りて、参考調査係長から現場の声をお聞きした後、また4階に戻り、事務室内で実際に複写依頼を受けた時（相互貸借受付）の流れの説明を資料サービス係員から受けた。

実際に複写している現場を見たが、相互貸借受付専用コピー機1台でこれだけの量をこなすのは驚異であった。

最後に、館内見学を行った。外国雑誌のセンター館であるので雑誌類は流石に多く、反対に図書は少ない。館内は原則飲食禁止だが、ペットボトルは可とのことであった。（実際どの学生も持っていた）

## 2日目 国立国会図書館関西館 見学



9時に京都ガーデンパレスのロビーに集合。

1日目の三上氏に替わり、2日目は矢部知美氏がここから自費参加した。

以下、国立国会図書館関西館見学について

京都府精華町にある国立国会図書館関西館については、その壁沿いに流れる滝のような水流に一同また驚嘆する。また、建物は斬新で、建築家・陶器二三雄氏はこの作品で有名になったそうである。

建物は地上4階地下4階で地上部分はガラス張り。建物の幅いっぱい内側の樹木が透けて見える構造で、あたかも巨大な植物園であるかのような外観である。

地下1階が閲覧室、図書や雑誌は常時室温22℃、湿度55%を保った地下にすべて配架されており、夏なのにじっとしていると寒い。

4階のカフェテリアでは軽く食事もすることができる。

事前に申し込んであった11時からの館内見学ツアーで、女性の案内人から説明を受けた。

一般者がいる場所から事務棟へ入ってツアーめぐりをするので、その都度職員証(ICチップ入り)を機器にかざす。裏の事情が垣間見えるので面白い。

一般書庫を見た後、自動書庫を見たが、機械が勝手に本の入っている「箱」を探してくる。まさにコンテナ物流そのものであった。

その中で本を探す職員が走り回り(ほとんど閉架のため)、本を運搬する赤い車が天井などを走り回っているのをみるとどうしても図書館でなくて工場のイメージになってしまうのは私だけではないだろう。館内見学ツアーはここで終わり。

その後、閲覧室を見学した。ここは一部開架である。OPACなどが数十台並んでいる。

この日は夏休み最後の日だったためか静かであった。

大阪からも京都からも1時間はかかってしまうが、静寂な中で時を過ごすことを欲するならば、何度でも足を運ぶ価値がある図書館であった。



9	<p>学内便による文献複写の取り寄せが一年前から開始されていますが、具体的にどのように処理しているのかということと、これにより学内ILLの件数に変動があったかどうかを教えてください。</p> <p>(回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同一キャンパス内の館室間では、それまで、利用者に資料を所蔵している館室まで直接出向いてもらっていたのを、直接先方に出向くことなく近くの館室から学内便により文献複写を取り寄せできるようにしたもの。ただし、公費扱いのもののみ。</li> <li>・件数は、50件弱で、その分、学内ILLが増加。</li> </ul>						
10	<p>1992年4月のNACSIS-ILLシステム開始により、ILLの処理スピードはあがりましたか。</p> <p>(回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1992年当時からの職員がいないのでよくわからないが、早くなったと思われる。</li> </ul>						
11	<p>1992年4月のNACSIS-ILLシステム開始により、受付件数に変化はありましたか。</p> <p>(回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・増加したと思われる。</li> </ul>						
12	<p>NII経由以外の申し込みのデータ入力方法について教えてください。</p> <p>(回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・申込タイプはNIIとFAX（前納、後納）があり、郵送での申込はFAXで送り直してもらう。後納のものはNIIと混ぜて連番、前納のものはまったく別システムの番号を取っている。前納、後納はローカルでデータ入力している。</li> </ul>						
13	<p>受付面では受付帳票の自動採番が可能になったと聞いていますが (塩見橋子氏. 文献複写：過去・現在・未来. 医学図書館 2003;50(4):316-317) NIIでの申し込みとFAXでの申し込みとはどのように採番していますか。</p> <p>(回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・NII分のみ、相殺分と後納許可分に分けて自動採番。</li> <li>・FAX分は、別体系で手動で採番。</li> </ul>						
14	<p>同一機関はまとめて出力するようになったとありますが (塩見橋子氏. 文献複写：過去・現在・未来. 医学図書館 2003;50(4):316-317) システム上どのようになっているのですか。</p> <p>(回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受付データをNIIからダウンロードしたあと、同一機関をまとめて処理している。</li> </ul>						
15	<p>2003年度「現行医学」の6053誌のうち、所蔵館が3館未満のレア雑誌は3700誌とありますが (塩見橋子氏. 文献複写：過去・現在・未来. 医学図書館 2003;50(4):316-317) 平成17年度の統計はありますか。</p> <p>(回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・17年度の統計は出していない。</li> </ul>						
16	<p>阪大生にしか所蔵がないカレントタイトルはどれくらいありますか。</p> <p>(回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・約960タイトル</li> </ul>						
17	<p>複写受付の依頼元の正確な比と件数を教えてください。 (平成16年度では国立大学と公私立大学がそれぞれ約4割、その他の機関が約2割と報告されていますが、平成17年度の実績を教えてください。)</p> <p>(回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・17年度学外ILL複写受付件数の依頼元 <table border="0" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>大学</td> <td>31,347件</td> <td>約8割</td> </tr> <tr> <td>その他の機関</td> <td>7,974件</td> <td>約2割</td> </tr> </table> </li> </ul>	大学	31,347件	約8割	その他の機関	7,974件	約2割
大学	31,347件	約8割					
その他の機関	7,974件	約2割					

18	<p>病院図書室や医療関係機関の図書室からの申し込み件数が平成16年度に増加したとのことですが平成13年度から17年度までの5年分の統計を教えてください。</p> <p>(回答) ・上記申し込み件数をまとめた統計は出していない。</p>
19	<p>またその増加の理由はなんだと考えますか。今後も増加する傾向にあったとき、何らかの措置を取る予定はありますか。</p> <p>(回答) ・増加の理由は不明。 ・このためというわけではないが、現在、ILL複写料金の値上げを検討中。</p>
20	<p>文献の送付方法について教えてください。</p> <p>(回答) ・郵送とDDS。1日1回14時頃集荷があるので郵送はそれに合わせる。</p>
21	<p>DDSシステム(Ariel)について教えてください。</p> <p>(回答) ・今年3月にシステムを更新。現在は、下記システムで運用。 スキャナ：富士ゼロックス DocuScan C4250 ソフト：富士ゼロックス DocuWorks 6.0</p>
22	<p>センター館の中でも2位を大きく引き離しての受付件数第1位。その理由は洋雑誌のカレントタイトル数にあると思いますが、センター館としての役割を担うにあたり、東北大、九大とどのような調整をとっているのでしょうか。与えられる予算に開きがあるのはどのような理由からですか。</p> <p>(回答) ・同じ分野のセンター館3館の購入タイトルが、重複しないよう調整を行っている。 ・予算に開きがある理由は、わからない。</p>
23	<p>受付処理のルールのようなものがあるのでしょうか。NACSIS申込、国立系、私立系、病院図書室などの順番で処理するとか。阪大生のみ所蔵文献は早急に処理するなどの基準があれば教えてください。</p> <p>(回答) ・基本的に、受付順に処理している。</p>
24	<p>毎日たくさんの申込があると思いますが、依頼館としてどのような点に留意して申し込みしたらいいのでしょうか。心がけることがあったら教えてください。</p> <p>(回答) ・ILLで文献複写を依頼される際には、以下にあげるような依頼内容の事前確認を必ずお願いしたい。 依頼に必要な記載事項に漏れはないか。 当該資料を、自館あるいは学内に所蔵してはいないか。 著作権法に抵触する依頼内容ではないか。依頼文献が、最新号に掲載されている文献ではないか。 書誌事項の記載に間違いはないか。その内容で資料の特定が可能か。 当該資料を、依頼先が確かに所蔵しているか。 ・また、依頼担当者の方々への「相互利用」の趣旨の周知徹底、国立大学図書館協会が作成した「大学図書館間における相互利用要項」「大学図書館間における相互利用指針」「大学図書館間相互利用マニュアル」に基づいた運用、並びに、著作権法や著作権管理団体との契約及び合意に基づく国公私立大学図書館協力委員会作成の「大学図書館間協力における資料複製に関するガイドライン」等に基づいた運用についての各図書館でのご指導と周知徹底をお願いしたい。</p>

25	<p>受付から発送までの通常の処理の流れを実際に見せてください。</p> <p>(実際に処理の流れを見ていただく)</p>
26	<p>購入雑誌はどのようにして選定されているのでしょうか。その選定基準を教えてください。</p> <p>(回答)</p> <p>・利用者から購入希望があった雑誌や利用が見込まれる雑誌を、分館の図書選定小委員会で審議・選定の上、運営委員会で決定。</p>
27	<p>サービス対象者とサービス内容を教えてください。</p> <p>研究生、聴講生、科目等履修生、客員研究員、卒業生などにもILLや相互協力サービスを提供していますか。</p> <p>提供しているとすれば、その利用の割合は全体の何%に当たりますか。</p> <p>(回答)</p> <p>・何らかの意味で大阪大学の構成員であればILLや相互協力サービスを提供しています。名誉教授、公開講座の聴講生(公開講座の期間中)、病院看護部による他、病院の現職者再教育プログラムの受講者(受講期間中)なども含まれます。</p> <p>卒業生は構成員ではありませんので、原則として提供対象になりません。</p> <p>提供対象の方でも、利用目的が個人的調査・研究または大阪大学構成員としての教育・研究の一環でない場合、例えば外部の企業の組織的利用などとみなされる場合は、これらのサービスをお断りすることがあります。</p> <p>・数については正確な統計は出していませんが、年間のILL依頼件数4000件前後のうち100~200件程度と見込まれますので、おおよそ2~5%程度です。</p>
28	<p>デジタルレファレンスでの対応により、ILL業務に影響はありましたか。</p> <p>(回答)</p> <p>・依頼は参考調査係が担当している。後ほど担当者から説明してもらう。</p>
29	<p>外国雑誌センター館に関する質問です。</p> <p>所蔵館が3館未満のレア雑誌に対してのILL申し込みは全体の何割くらいを占めているか、また年度ごとの推移はどのようになるか、わかりましたらお教え下さい。</p> <p>(回答)</p> <p>・大体6割前後</p>
30	<p>センター館ということで雑誌購入に対する補助金は得られていますか。</p> <p>もし差し支えなければ大まかな金額をお教え下さい。</p> <p>(回答)</p> <p>・補助金ではないが、本省から、外国雑誌センター館として外国雑誌購入予算の配分を受けている。</p> <p>・配分額は、約1億円</p>

2006 年度研究会（交流会） 研究分科会活動報告Ⅱ

「ILL の現場から：大阪大学附属図書館生命科学分館見学レポート」

（2006 年 11 月 10 日 法政大学多摩キャンパス 百周年記念館）

杏林大学医学図書館 清水 ゆかり

## ILLの現場から

大阪大学附属図書館生命科学分館  
見学レポート

相互協力研究分科会  
代表 清水 ゆかり

## はじめに

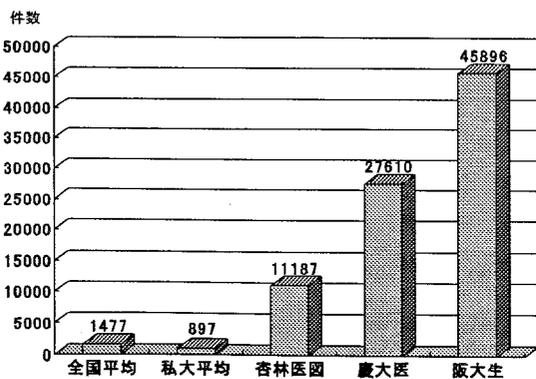
ご自分の図書館の  
ILL受付件数をご存知ですか？

## 文科省の大学図書館実態調査より (平成15年度)

- ILL受付件数 全国1054館 1,556,516件
- 全国大学図書館 1館あたり平均 1,477件
- 私立大学図書館 1館あたり平均 897件

## 平成15年度 ILL受付件数比較

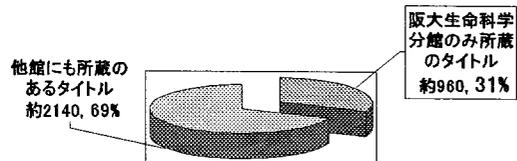
- 私立大学図書館 1館あたり平均 897件
- 杏林大学医学図書館 11,187件
- 慶応義塾大学信濃町  
メディアセンター 27,610件
- 大阪大学附属図書館生命科学分館 45,896件



[平成15年度 ILL受付件数比較]

## なぜ 阪大生命科学分館に 申込が集中するのか？

↓  
阪大生命科学分館にしかない雑誌が多い



平成18年度 カレントタイトル数 約 3100タイトル

## 外国雑誌センター館とは？

外国雑誌センター館は、  
 学術情報基盤整備を図るために、  
 分野別に9大学に配置された拠点図書館で、  
 国内未収集の外国学術雑誌等を体系的に  
 収集・整理し、国内外研究者等を対象に  
 サービスを提供しています。

## 外国雑誌センター館メンバー館

### ■理工学系

- ・東京工業大学附属図書館
- ・京都大学附属図書館

### ■農学系

- ・東京大学農学生命科学図書館
- ・鹿児島大学附属図書館

### ■人文・社会科学系

- ・一橋大学附属図書館
- ・神戸大学社会科学系図書館

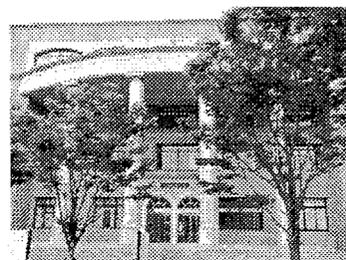
### ■医学・生物学系

- ・大阪大学附属図書館生命科学分館
- ・東北大学附属図書館医学分館
- ・九州大学附属図書館医学分館

## ILL受付件数比較 (平成17年度 大学のみ)

1位	大阪大学附属図書館生命科学分館	36,152 件
2位	東北大学附属図書館医学分館	30,663 件
3位	九州大学附属図書館医学分館	27,062 件
4位	東京工業大学附属図書館	20,310 件

## 阪大生命科学分館へ行ってきました



2006/08/30 WED.

## 全職員数とILLに関わる職員数

### ■全職員数

常勤12名、非常勤10名、派遣1名、請負1名

### ■ILLに関わる職員数

依頼…参考調査係 常勤2名

受付…資料サービス係

常勤1.5名、非常勤2名、請負1名

## ILL専用コピー機について

■ILL専用コピー機は1台

■作業の効率化

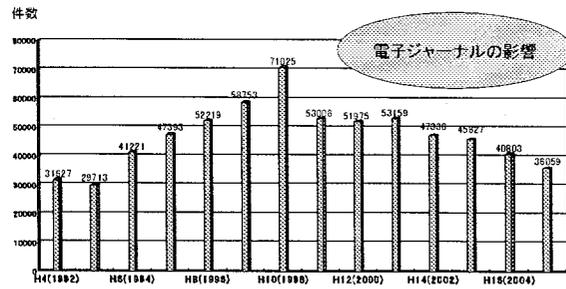
## 雑誌購入予算について

平成18年度予算 約2億4千万円

### [内訳]

- ・外国雑誌センター館として……1億
- ・電子ジャーナル……4千万
- ・医局の分担金+図書館予算……1億

## ILL複写受付経年的変化



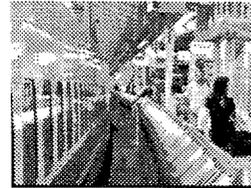
阪大生命科学分館 ILL複写受付経年的変化

## 阪大生命科学分館からのメッセージ

—ILL申込時に気をつけてほしいこと—

- ・ その資料を自館或いは学内他館で所蔵していないか。
- ・ 著作権法に抵触する依頼内容ではないか。
- ・ 書誌事項の記載に間違いや不備はないか。
- ・ その資料を依頼先が確かに所蔵しているか。

## 阪大生命科学分館 見学



おわりに

ご清聴ありがとうございました。

相互協力研究分科会

## 会員紹介

代表	杏林大学医学図書館	清水ゆかり
副代表	麗澤大学図書館	豊島寛
正会員	立教大学人文科学系図書館	佐藤和栄
正 ML ネット会員	清泉女子大学附属図書館	高木直子
正 ML ネット会員	順天堂大学図書館	青木仕
正 ML ネット会員	北里大学医学図書館	石橋好重
個人会員	日本大学生物資源科学部	大谷健人
個人 ML ネット会員	大東文化大学図書館	鶴田香織
個人 ML ネット会員	日本体育大学図書館	森田輝子
	*正会員 東京薬科大学情報センター	菊地祐子 (2006年7月異動のため退会)

---

相互協力研究分科会報告 第11号 (2006~2007) ISSN 0916-0078

発行日 2008年3月31日

発行者 私立大学図書館協会東地区部会研究部 相互協力研究分科会  
第14期代表 清水ゆかり

印刷 添田印刷株式会社 TEL 03-3914-6701 FAX 03-3914-4988

---